

一 満州事変の勃発

二 満州事変勃発後の中国東北地方（満州）各地および北平の状況

1 東北地方の戦況ならびに居留民の動静

2 東北地方各地の政情

3 北平における反応

三 東北地方北部の形勢と日本軍のチチハル占領

（以上第一冊、既刊）

八 米国および各国との交渉ならびに国際連盟における審議状況

1 米国との交渉

2 国際連盟理事会における審議状況ならびに各国との交渉

付録 満州事変第一巻日付索引

（以上第三冊予定）

事項四 天津事件

（編注）本項については、事項六にも関連文書が収載されている。

1 天津事件と旧宣統帝溥儀の天津脱出

1 昭和6年10月1日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

擁立運動に対する溥儀の動静について

上海 10月1日後発
本省 10月1日後着

第五七一号（略）
一日ノ当地漢字新聞ハ北平來電トシテ宣統帝ハ坂西中将ヨ
リ滿蒙王國組織ノ為赴奉方勧誘セラレタルモ某老臣カ右ハ
日本カ國際關係上暫ク滿蒙ヲ併呑シ能ハサルニ依リ一時皇
帝ヲ傀儡トシテ利用セントスルモノナリトテ反対シタル為
皇帝ハ躊躇シ始メ未タ赴奉スルニ至ラス云々ト報セリ御参
考迄

公使ヘ転報シ北平、奉天、天津、南京ヘ転電セリ

2 昭和6年10月1日 在天津田尻總領事代理宛（電報）

溥儀の租界外脱出阻止について

第七一号（極秘）至急
関東長官發本大臣宛電報コ第三八〇号ニ閔シ

右事情貴官限リ極秘ニ御含ノ上宣統帝ノ動静ニ付常ニ厳重
ナル監視ヲ加ヘ、我租界外ニ出ツルコトヲ極力阻止セラレ
度

支、北平、奉天ニ転電セリ

3 昭和6年10月1日 在天津田尻總領事代理宛（電報）
擁立運動に対し自重方溥儀に警告について

本省 10月1日後発

第七二号（極秘）
（二文書）
往電第七一号ニ閔シ

本件宣統帝擁立運動ハ要スルニ同帝ヲ政治的陰謀ノ為ニ利
用セムトスルモノニシテ我方トシテハ往電合第六四四号ノ
趣旨ニ依リ之ヲ勧奨又ハ支持セサルコト勿論ナルノミナラ
ス支那現下ノ政情ニ顧ミルモ此種運動ノ成功甚タ覚束ナシ
ト認メラルル次第ニテ若シ宣統帝ニシテ輕々ニ陰謀ノ禍中
ニ投スルカ如キコトアルニ於テハ結局帝自身ノ破滅ヲ招ク
ノ危険大ナルモノアルヘシ而シテ我方トシテハ前記往電第
六四四号ノ方針ニ加フルニ同帝カ我租界内ニ居住シ居ルコ
トニテモアリ前述趣旨ニ依リ同帝ノ自重ヲ求ムルコト極メ
テ肝要ト存スル處此際貴官ニ於テ直接同帝ニ面会スルニ於
テハ右事実ハ自然同帝擁立ヲ企テヲル徒輩ノ知ル所トナリ
却テ彼等ヲシテ其ノ運動ヲ急カシムルカ如キ結果トナリ面
白カラスト存スルニ付同帝側近者其ノ他然ルヘキ人物ヲ利
用シテ切ニ帝ノ自重ヲ求ムル様御尽力相成度
支、北平、奉天、廣東ニ転電セリ

4 昭和6年10月1日 在奉天林總領事宛（電報）

溥儀擁立運動取締りについて

第二三六号（暗、極秘）

5 昭和6年10月2日 在天津田尻總領事代理より

幣原外務大臣宛（電報）

擁立運動に対し溥儀の自重要請について

天津	10月2日後発
本省	10月2日後着

第三六八号（暗、極秘扱）

貴電〔三文書〕第七二号接到ニ先立チ昨一日後藤ニ旨ヲ含メ宣統帝ヲ
訪問セシメ時局柄御身辺ノ警護ニ付テハ當方ニ於テ特ニ配

意シ居ルモ郊外若ハ他租界ヘノ外出等ナルヘク差控ヘラル
ルコト然ルヘキ旨申入レシメタル處宣統帝ハ當方ノ保護ヲ

謝シ之ヲ快諾セラレタルカ尚復辟問題ニ關シテハ最近新聞
記事ヲ見ル處斯ノ如キハ從來トモ一部ノ人士ノ間ニ屢々画
策セラレ余ヲ引出サントスルモノアリシカ何レモ余ノ本意

ニ非サルヲ以テ時機ニ非ストシテ之ヲ斥ケ來レルコト御承
知ノ通ニシテ今次滿州ニ於テ此種運動アリスルモ所謂策
士カ余ヲ利用スル為ノ行動ニテ余ニハ何等ノ話合モナク又

自ラ代表ヲ派出シタルコトモナシ兎ニ角余トシテハ確カナ
ル見込ナキ限り策士連ノ言ニ乗セラルルコトナキ覺悟ナリ
トノ内話アリシヲ以テ後藤ヨリ此上トモ慎重ニ措置セラレ
タク尚當方トシテモ皇帝ノ惡シキニハ計ハサルニ付何等斯

三十日閑東長官登拓務大臣宛電報ニ依レハ同序ニテハ旅順
居住羅振玉ト共ニ宣統帝復辟問題ニ關シ策動中ノ普蘭店居
住公鐸ナル者カ「本籍神奈川県大磯町五番地田野豊（政友
会系）」ナル者本月二十一、二日頃宣統帝ノ代表ヲ伴ヒ奉天
ヨリ陸路上京參謀本部ヲ訪問中ナルカ來月一、二日頃帰来
ノ予定ナルヲ以テ本件ノ実現ハ其ノ上ニテ判然スヘク其ノ
曉ニハ東三省代表者連名ニテ張學良ニ對シ内政外交共ニ失
敗シ省民ヲ苦シメタル罪惡張作霖以上ナルヲ以テ再ヒ東三
省ニ迎フルコトヲ望マサル旨電報シ同時ニ中國全般ニ之ヲ
声明シ東三省ノ獨立ヲ宣言スルト共ニ宣統帝ヲ擁立スヘキ
準備ヲ為シ居リ之カ實現スヘキヤ否ヤハ日本ノ意図ニ依リ
決セラルヘキモ來月二十三日頃ニハ具體化スヘシ」トノ趣
旨ノ言ヲ為セルヲ聞込ミタル趣ナルニ付テハ右報道貴官限
リ極秘御含ノ上往電第二二〇号ノ趣旨ニ依リ閑東庁トモ連
絡シテ右田野等ノ行動ヲ充分監視セラレ度之カ取締上必要
ト認メラルルニ於テハ在留禁止処分ニ付セラレ差支無シ
在支公館、北平、天津ニ転電セリ

6 昭和6年10月3日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

東北独立に関する閑東軍首腦部の意向について

第七八四八号（極秘）

貴電合第七二四号及〔四文書〕第二三六号ニ關シ

奉天	10月3日後発
本省	10月3日後着

本官ニ於テモ予テ注意ヲ怠ラサル處閑東府發電ハ各方面ノ
警察情報ヲ綜合シタルモノニシテ誇張的ナル嫌アリ勿論時
局柄我力浪人カ中國野心家ヲ利用シテ新政樹立ノ發動ヲ為
シ例へハ宣統帝、張宗昌、石友三、張學成、閻朝璽等ノ内
何レカヲ擁立シテ自己ノ利益ヲ遂ケント意氣込ミ居ルモノ

事項4 天津事件

鮮カラサルヘキ處右ノ内宣統帝擁立運動ニ対シテハ我軍部内ニ於テモ個人的ニ共鳴セルモノアルヤニ聞込ミ居レルカ軍司令官以下幹部大多数ノ意向ハ此際斯カル不自然ナル策動ニ援助ヲ与フルコトハ有害無益少クトモ尚早ナリト云フニ一致シ居ルカ如シ

現在関東軍幹部ハ吉林ハ熙治ヲシテ哈爾賓ハ張景惠ヲシテ

黒龍江ハ張海鵬(洮南駐在鎮守使ニシテ今回独立ヲ宣言シ万福麟ノ不在ニ乗シ齊々哈爾ニ乗込マントス)ヲシテ差当

リ治安ノ維持ニ任セシメ奉天ハ當分首脳者ヲ置カス地方維持委員会ヲシテ市政公署指揮ノ下ニ治安ノ維持ニ当ラシメ

徐ニ時局ノ成行ヲ見ル方針ナルヤニ觀察セラル(部外極秘)

支、北平、天津へ転電セリ

7 昭和6年10月5日 在上海村井總領事より
警原外務大臣宛(電報)

溥儀北平移転の情報について

上海 10月5日後発
本省 10月5日後着

第五八六号(平)
(文書)

往電第五七一號ニ閑シ

五日ノ当地漢字新聞ハ北平來電トシテ宣統帝ハ第二ノ李王タルヲ欲セス日本側ヨリ利用セラルルコトヲ避クル為天津日本租界ヨリ北平ニ移転スヘク既ニ羅振玉ヲ北平ニ派シ載濤ト家屋物色中ナル旨報セリ

支へ転報シ、北平、奉天、天津、南京ニ転電セリ

8 昭和6年10月6日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

復辟をめぐる溥儀の動向について

天津 10月6日後発
本省 10月6日後着

第三七五号(暗、極秘)
(文書)

往電第三六八号ニ閑シ

貴電第七二号御訓令ノ次第ハ重ネテ鄭垂ヲ通シ然ルヘク申入レタルカ鄭ノ談ニ依レハ三十日胡若愚当地通過ノ際醇親王ヲ通シ皇室ニ對スル旧来ノ冷遇ヲ詫ヒ今後東北ハ勿論中央(脱)優遇方法ヲ講スルニ付、此際滿州ニ赴カレサル様致シタキ旨学良ノ意向ヲ伝達セル処皇帝ハ之ヲ一蹴セラレ且内心ニ於テハ死ヲ賭シテモ此機会ヲ捉ヘタキ意向ナルモ日本政府部内ニ於ケル意見一致セサル模様ニモアリ又奉天

方面ニ於ケル皇帝推戴ニ關スル運動ノ真相モ判明セサル状況ニ鑑ミ老臣ヨリハ皇帝ヲ促シ居ル次第ナリトノ報ニシテ

皇帝ノ内心ハ溥傑氏ヲ依然トシテ日本士官学校ニ入学セシメタキ決心ヨリ觀ルモ想像ニ難カラサルモ側近者カ寧ロ焦リ氣味ニシテ皇帝ハ霸道ヲ退ケ王道ニ依ルヘシトテ差当リ

輕舉ニ出テラレサル見込ナリ尚最近奉天方面ヨリ來津セル劉釗業ヲ通シ同地ニ於ケル金梁等カ一切ノ準備出来次第皇帝ヲ迎ヘ度キ旨伝言シタリトモ伝ヘラレ又駐屯軍方面ニ於テモ多少策動シ居ル模様モアリ引続キ注視中ナルカ司令官ニ対シテハ未タ時機ニ非サル旨懇談シ了解ヲ得置キタリ

尚七日元威海衛總督「ジョンストン」皇帝ヲ往訪ノ筈政治問題ニハ成ルヘク触レラレサル様致シ度旨鄭ヲ通シ申入レ置キタリ

支、北平、奉天へ転電セリ

9 昭和6年10月7日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

擁立運動に関する溥儀の内話について

天津 10月7日後発
本省 10月8日前着

支、北平、奉天へ転電セリ

10 昭和6年10月8日 在天津田尻總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

天津駐屯軍の動静について

天津 10月8日後発

本省 10月8日後着

第三七九号（部外極秘）

当地駐屯軍ニ於テハ奉天事変公報ノ入電遅レタル為関東軍ト相呼応シ積極的行動ニ出ツル機ヲ失シ天津ヲ占領シ得サリシハ武人ノ面目ヲ失セルモノナリトノ考ヘニテ当初ヨリ支那側ノ逃腰ニ拘ラス何等事アレカシト待構ヘ居リシカ如ク客月二十日夜業々シキ警戒ヲナシ又二十三日実砲試射ノ為演習ヲナサントスル（中止セリ）等内外人ヲシテ一時ハ危惧ノ念ヲ抱カシメタルカ司令官及歩兵隊長等ト懇談ノ上対支關係ニ於テハ警察官ヲ第一線ニ立テ且我軍ヨリ決シテ事ヲ構ヘサルコトトシ二十五日我司令官ヨリ各國司令官ニ対シ之ヲ披露スル所アリ最近ニ於テハ余程落付キヲ見セ来レリ（尤モ右席上方一支那側ヨリ居留民ニ危害ヲ加ヘ若ハ軍ノ威信ヲ蹂躪スルコトアラハ断シテ容赦セサルヘキ旨一応ノ声明ハナシタル由）尚往電第三七八号理事会以後ニ於ケル支那側ノ態度ニハ注意ヲ要スヘク又今後兵變等ノ発生ニ際シ或ハ軍ノ出動ヲ見サルヲ保シ難キ處右様ノ場合滿州問題ノ交渉ニ累ヲ及ホササル様我方ニ落度ナキヲ期シ度ク折角注意シ居ル次第ナルカ一方仮令日本ノミヲ相手トセス当

ク客月二十日夜業々シキ警戒ヲナシ又二十三日実砲試射ノ為演習ヲナサントスル（中止セリ）等内外人ヲシテ一時ハ危惧ノ念ヲ抱カシメタルカ司令官及歩兵隊長等ト懇談ノ上対支關係ニ於テハ警察官ヲ第一線ニ立テ且我軍ヨリ決シテ事ヲ構ヘサルコトトシ二十五日我司令官ヨリ各國司令官ニ対シ之ヲ披露スル所アリ最近ニ於テハ余程落付キヲ見セ来レリ（尤モ右席上方一支那側ヨリ居留民ニ危害ヲ加ヘ若ハ軍ノ威信ヲ蹂躪スルコトアラハ断シテ容赦セサルヘキ旨一応ノ声明ハナシタル由）尚往電第三七八号理事会以後ニ於ケル支那側ノ態度ニハ注意ヲ要スヘク又今後兵變等ノ発生ニ際シ或ハ軍ノ出動ヲ見サルヲ保シ難キ處右様ノ場合滿州問題ノ交渉ニ累ヲ及ホササル様我方ニ落度ナキヲ期シ度ク折角注意シ居ル次第ナルカ一方仮令日本ノミヲ相手トセス当

ク客月二十日夜業々シキ警戒ヲナシ又二十三日実砲試射ノ為演習ヲナサントスル（中止セリ）等内外人ヲシテ一時ハ危惧ノ念ヲ抱カシメタルカ司令官及歩兵隊長等ト懇談ノ上対支關係ニ於テハ警察官ヲ第一線ニ立テ且我軍ヨリ決シテ事ヲ構ヘサルコトトシ二十五日我司令官ヨリ各國司令官ニ対シ之ヲ披露スル所アリ最近ニ於テハ余程落付キヲ見セ来レリ（尤モ右席上方一支那側ヨリ居留民ニ危害ヲ加ヘ若ハ軍ノ威信ヲ蹂躪スルコトアラハ断シテ容赦セサルヘキ旨一応ノ声明ハナシタル由）尚往電第三七八号理事会以後ニ於ケル支那側ノ態度ニハ注意ヲ要スヘク又今後兵變等ノ発生ニ際シ或ハ軍ノ出動ヲ見サルヲ保シ難キ處右様ノ場合滿州問題ノ交渉ニ累ヲ及ホササル様我方ニ落度ナキヲ期シ度ク折角注意シ居ル次第ナルカ一方仮令日本ノミヲ相手トセス当

地一般ノ治安亂レ連合軍ノ出動ヲ見ルヲ至当トスル場合ニ

モ我方カ支那町ヲ控ヘ居ルコト満州事変ニ對スル列國干涉ノ機會ヲ作ルヲ避ケルコト等ヲ考慮シ関係國トノ共同動作ニ付テハ慎重考慮ヲ要スルモノト思料シ軍側ト種々協議中ナリ為念

公使、北平、奉天ニ転電セリ

11 昭和6年10月12日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

英人ジョンストンと溥儀との会談について

天津 10月12日後発
本省 10月12日後着

第三九四号（極秘）

往電 第三七五号末段ニ關シ

「ジョ」ハ七日、八日三度ニ亘リ皇帝ト會見シタルカ會談内容ニ付遠山武雄（皇妹ノ家庭教師）ヲシテ探査セシメ居リタル處「ジョ」ハ皇帝ニ対シ至急旗擧ヶヲ懇意シ之ニ對シ英國政府ノ公式ノ意向ハ承知セサルモ自分個人トシテ政府ハ何等反対ヲ唱ヘサルモノト思料ス尚米国及「ソヴィエト」ニ於テ或ハ多少ノ干渉ヲ試ムルコトアルヘキモ之ハ懸

念スルニ及ハサルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタルモ皇帝ニハ例ノ王道主義ノ外多クヲ語ラサリシ趣ナリ
「ジョ」ハ庚子賠償金問題ニ關シ北平ニ赴ク途中立寄リタル次第ナルカ或ハ英國政府ノ内意ヲ受ケ皇帝ノ真意ヲ探リタルヤニモ察セラルニ付為念電報ス
支、北平、奉天ヘ転電セリ

12 昭和6年10月15日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

復辟問題に関する溥儀との内談について

天津 10月15日後発
本省 10月15日後着

第四〇七号（暗、極秘）

帰任ノ挨拶ヲ兼ネ十四日宣統帝ヲ往訪シ内田伯ノ伝言トシ

テ帝ノ自重方進言シタル處、帝ハ伯ノ意見通リ王道ハ天意ト民意ノ一致ヲ要スルヲ以テ民意合致セサル限り輕舉ヲ慎

ム考ナリ、尚最近恭親王カ滿州方面ニ於テ何等策動シツツアリトノ新聞報道アルカ果シテ王カスル活動ヲ為シツツアリトスルモ、恐ラク周囲ニ利用セラレ居ルモノト思ハル、アリトノ新聞報道アルカ果シテ王カスル活動ヲ為シツツア

恭親王トハ十數年來全然通信スラ為シタルコトナキ程ニテ

從テ余ハ何等ノ連絡若ハ諒解ナシ、余ハ民意カ共和ヲ切望セリト信シ退位シタルカ爾來國內ノ紛擾熄マス民衆ハ塗炭ノ苦ヲ嘗メツツアルヲ見同情ニ堪ヘサルト共ニ自責ノ念ニ駆ラレ居リ從テ衷心和平ヲ希フ一方余モ一國民トシテ平和達成ニ努力スルヲ客マスト語ラレ民衆挙ツテ帝ヲ推戴スル時機ヲ窺ヒ燃ユルカ如キ意氣ヲ抑ヘ自重セラレアルヤニ見受ケタリ、尚本件ニ付テハ十二日司令官トモ懇談シタルカ「我國カ帝ノ出廬ヲ要求スル場合ハ格別ナルカ一部策士ノ運動ニハ關係セサルヘシ」トノ意向ニシテ又幕僚ニ於テモ関東軍ヨリ申入アラハ無下ニ拒絶ハ致兼ヌルモ當館ニ無断ニテ帝ヲ連レ出スカ如キコト絶対ナキ旨嘗テ館員ニ語レル由ナリ

在支公使、北平、奉天ヘ転電セリ

13 昭和6年10月17日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

復辟運動に慎重対処方溥儀秘書への内談について

奉天 10月17日後発
本省 10月18日後着

事項4 天津事件

第一〇一六号（極秘）

十七日宣統皇帝ノ秘書劉驥業來訪シ自分ハ滿州各地ニ於復辟運動盛ナリトノ報アリ其実情視察ノ為派遣セラレ十六日着奉シタルカ目下当地ニ於テハ地方維持会ノ金梁ハ素ヨ

リ復辟ノ贊同者ニシテ袁金鑑ハ最近漸次復辟ニ傾キツツアルモノノ如シト述ヘタリ、依テ本官ハ現在ノ支那ノ思潮ヨ

リ推シ復辟ヲ実現セントスルカ如キハ容易ノ業ニアラサル

ヘク浪人又ハ一部ノ陰謀家ニ乗セラレ皇帝カ何等カノ行動ヲ起スカ如キコトハ頗ル危險ナルヲ以テ此際極メテ自重シ時局ノ推移ヲ充分ニ展望スルヲ可トスル旨皇帝ニ懲憲セラルル様語リ置キタリ尚劉ハ吉林、哈爾賓方面ヲモ視察ノ上天津ニ帰ル筈ナリ

袁金鑑カ漸次復辟ニ傾キツツアリトノ報ハ謝介石モ之ヲ肯定シ居リ同人ハ數日前金梁、袁金鑑等ト話合ヒタル節袁ハ表面賛成ノ意思ヲ示ササリシモ内心ハ頗ル動キツツアルカ如キ様子ヲ示シ居タル趣ナリ

在支公使、北平、天津、吉林、哈爾賓、齊々哈爾ヘ転電セリ

14 昭和6年10月19日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
溥儀より旅大方面移住に關し日本側への問合せについて

天津 10月19日後発 本省 10月19日後着

第四二四号（極秘）

十九日宣統帝ハ鄭垂ヲ派シ当地ニ居リテハ新聞記者ノ訪問煩ハシク又万一日支衝突ノ際ニ於ケル危險モアリ尚滿蒙ニ於ケル復辟運動者トノ連絡モ不便ナルヲ以テ数名ノ從者ヲ伴ヒ二（三）ヶ月間旅大方面ニ引移リ度キ處本官ノ内意如何ナリヤトノ申出アリ尚鄭ノ内話ニ依レハ自分等親子ハ之ヲ引止メ居ルモ最近羅振玉来津シ頻リニ帝ノ出廬ヲ勧メ閏東軍參謀等モ之ヲ希望シ居ル旨告ケタルヲ以テ帝モ相當動カサレタル模様ナル趣ニ付斯ノ如キハ王道ニ悖リ帝ヲ破滅ニ導クモノト思料セラルルニ付自重セラレ度ク警護ニ付テハ充分手当致スヘキ旨述ヘ置キタリ尚鄭ヨリ司令官ノ意向ヲ確メラレ度キ旨申出アリタルヲ以テ早速懇談シタル処本官ト全然同一意見ナリ

因ニ上海発閣下宛電報第六九二号北平電報ハ憶測ニ過キス
尚肅親王一家ハ学良ノ圧迫ヲ恐レ數日前来津セリ
支、北平、奉天ヘ転電セリ

15 昭和6年10月19日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

溥儀の動向に関する劉驥業の内話について

溥儀擁立運動の内容について

奉天 10月19日後発 本省 10月19日後着

奉天 10月20日後発 本省 10月21日後着

第一〇五五号（部外極秘）

満州ニ對セル宣統帝擁立運動ノ内容ハ極メテ複雜ナルカ大体左ノ三種ニ類別シ得ルカ如シ

（一）ハ陳寶琛ノ甥劉驥業ニ連絡アル「セメヨノフ」及二、三本邦浪人ヲ中心トスル満州獨立宣統帝擁立運動ニシテ「セメヨノフ」及高塚等ハ過般洮南ニ乘込ミ張海鵬ノ顧問タラントシテ拒絶セラレタリ

（二）ハ羅振玉ノ潛行運動ニシテ吉林黒竜奉天ヲ先ツ各別ニ独立セシメ然ル後右三省ヲ打テ一丸ト為シナルヘク速ニ宣統ヲ見極メテ既ニ天津ニ向ヘリト言フ迄ノ事實アリトハ信シ得ス羅ノ復辟運動ニハ其左右ニ面白カラサル人物モアリ多少其行動ニ疑ヲ存シ居レリ云々

支、北平、天津、吉林、哈爾賓、齊々哈爾ヘ転電セリ

16 昭和6年10月20日

在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

（三）ハ謝介石ノ單獨行動ニシテ羅振玉ノ急進運動ヲ好意的ニ牽制シツツ滿蒙ノ獨立ヲ促進シ時機ヲ見テ張景惠ヲ盟主ニ

担キ形勢有利ナル場合ハ張景惠、熙治、袁金鑑、張海鵬等ノ一致推戴ニ依リ宣統皇帝ヲ擁立シタク尤モ本件ハ極メテ機微ナル関係アルニ依リ日本ノ立場ニ迷惑ヲ及ボスヘカラ

ストノ穩健論ナリ
支、天津、吉林、哈爾賓ニ転電セリ

在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

17 昭和6年10月21日 準儀連れ出しのため羅振玉天津向け出発との情報について

本官發關東長官宛電報

第一〇六二号（暗）

奉天 10月21日後發
本省 10月21日後着

第一〇六三号（部外極秘）

在奉天林總領事より

在貴地羅振玉ハ宣統皇帝ヲ満州ニ連レ出ス為十九日大連出帆ノ済通丸ニテ天津ニ向ヘリトノ聞込ミアルニ付真偽並ニ

最近ノ動靜御取調ノ上御電報請フ（部外極秘）

大臣、支、北平、天津へ転電セリ

第一五四号

本官發關東長官宛電報

18 昭和6年10月21日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

在奉天總領事發本官宛電報第一五四号ニ關シ

羅振玉ハ去ル十五日奉天ヨリ帰來爾來何處ヘモ旅行シタルコトナク極秘トシテ當庁中島翻訳官ニ対シ左ノ如ク語レリ余（羅振玉）ハ先般來數次奉天ニ赴キ同地滯在中ノ高山公通貴志弥次郎ノ兩中將等ト屢々會見シ事變後ニ於ケル日本ノ対策トシテ日本ハ此ノ際張作相ヲ支那側ノ交渉相手トシ東三省ニ於ケル時局收拾ノ任ニ当ラシムルヲ最良策ト信ス其理由ハ熙治、張海鵬、張景惠、湯玉麟等ノ人物ニテハ東北諸省ヲ統一スルノ実力ト資望ヲ欠ケルモ作相ハ溫厚ノ長者ニシテ各方面二人望アリ又張作霖死後東北派ノ最高元老ニシテ相当勢力アリ同人ノ出馬ニ対シ何人モ之ニ楯突クモノナカルヘク故ニ現時紛糾セル東三省ノ局面モ同人ノ手ニ依リ急速ニ常態ニ復スルノ可能性アリ而シテ時局一段落ヲ告クル後ハ更ニ同人ノ手ヲ藉リテ宣統帝ヲ満州ニ迎ヘ茲ニ東北諸省ヲ統一スル独立政權ヲ設立スルコト之レ日滿双方ノ幸福ノ為メ最良策ナル旨進言シ日本軍部當局ニ対シ獻策方懇囑セシ處日本軍部ニ於テハ作相ハ學良ト同様排日派ノ巨頭ト看做シ到底同人ヲ容認スルコト能ハサル旨答ヘタルヲ以テ余ハ更ニ作相カ日本人側ヨリ排日ノ誤解ヲ受ケタルハ

準儀擁立運動の情報について

奉天

10月21日後發
本省 10月21日後着

第一〇五五号（六文書）及本官發關東長官宛電報第一五四号ニ關シ

往電第一〇五五号及本官發關東長官宛電報第一五四号ニ關シ

19 昭和6年10月22日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

奉天 10月22日後發
本省 10月23日前着

第一一二五号（暗、極秘）

在奉天林總領事より

自重方ヲ勧告シ居ル趣ノ処情報ニ依レハ劉ハ羅振玉天津行キノ噂並ニ一部軍人等トノ關係ニ鑑ミ日本政府ノ真意ヲ確カムル為二十日奉天發朝鮮經由東京ニ向ヘリト云フ

公使、北平、奉天ニ転電セリ

第一一二五号（暗、極秘）

在奉天林總領事より

關東厅 10月22日後發
本省 10月23日前着

吉会鐵道問題交渉ノ際其調印ヲ拒ミタル為ナルカ右ハ日本カ作霖ノ「トリツク」ニ掛リタルモノニテ作霖ハ郭松齡事件關係ノ為日本ニ対シ該鐵道ノ敷設ヲ拒ミ難キ義理アリ彼ハ日本ニ対シテハ契約調印方ヲ作相ニ命シタリト称シ裏面ニ於テ作相ニ調印拒絶ヲ命シタル結果作相ハ之ヨリ日本側ヨリ排日派トシテ睨マルニ至リシ事情ヲ述ヘ作相ノ為ニ其冤罪ヲ弁解シ決シテ日本ノ為ニ不利ナル人物ニアラナル旨力説シタルモ遂ニ日本側ノ理解ヲ得ルコト能ハス結局日本軍部ノ意向ハ熙治、張海鵬等ノ部分的独立ニ依リテ當面ノ時局ヲ收拾セシムルニアルカ如キヲ以テ余ハ一先ツ作相ヲ断念シ次善ノ策トシテ熙治張海鵬等ノ各獨立政權ヲ糾合シテ宣統帝ヲ擁立シ之ニ依リ東北諸省統一ノ政府ヲ設立スル様高山、貴志等同志ニ進言シ置キタル次第ナルカ宣統帝擁立ノ段取ニ至ル迄ニハ相當ノ曲折アルヘク夫迄ハ宣統帝ハ現在ノ儘時局ノ成行ヲ靜觀シテ絶対ニ輕舉妄動ヲ避クル様希望シツツアリ云々

右談ハ中島カ羅ニ対シ絶対秘密ヲ約シタルモノ故特ニ極秘拔ヲ請フ

天津ヨリ北平へ転電請フ

公使、奉天、天津へ転電セリ

事項4 天津事件

20 昭和6年10月23日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

溥儀より香椎司令官に對し旅大方面移居申出について

第四二九号（極秘）

往電 第四二四号ニ関シ

〔四文書〕

二十二日駐屯軍參謀長來訪シ二十一日宣統帝ヨリ親書ヲ以テ香椎司令官ニ対シ「当地ニ在リテハ學良及安福派等ヨリ迫害ヲ受クル惧アリ身辺ノ不安ヲ感スルニ付當分旅大方面ニ移居シタキ旨」申出アリ司令官ハ自重ヲ促シ置キタルカ幕僚トシテハ此際日本内地ニ赴カルルコト然ルヘシトノ意向ナリトテ本官ノ意見ヲ質シタルニ付本官ハ事変發生以来嚴重ナル警護ヲ為シ居ルヲ以テ何等危険アリトハ認メス且諸般ノ關係上司令官同様帝ノ隱忍自重ヲ望ム旨述ヘ置クト共ニ一層警衛ヲ厳ニシ置キタルカ尚羅振玉カ閔東軍ノ諒解アリト称シ憲真及徐良等ヲシテ帝ヲ連れ出サシメンコトヲ

支、北平、奉天へ転電セリ

21 昭和6年10月25日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

関東軍溥儀の来満希望との情報について

第四三四号（暗、極秘扱）

天津 10月25日後発
本省 10月26日前着

二十四日館員ヲシテ往電第四二九号中段ノ次第ヲ參謀長ニ通報旁種々懇談セシメタル際參謀長ハ極秘ニ願ヒタシト前提シ曩ニ閔東軍ノ或方面ヨリ宣統帝ノ來満ヲ希望スル旨來信アリタルカ充分ノ成算モナキニ拘ラス帝ヲ離津セシムル事ハ何レノ方面ヨリ考フルモ不得策ニ付先方ニ於テ愈確実ナル見込付キタル上何分ノ通告ヲ得ハ改メテ考慮シタキ旨回答シ置キタル処其後何等ノ通信ニ接セストノ趣洩シタル由御参考迄

支、北平、奉天へ転電セリ

22 昭和6年10月27日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

溥儀の満州への脱出に関する日本側の策謀について

奉天 10月27日後発
本省 10月27日後着

23 昭和6年10月28日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

溥儀の連れ出しに関する関東軍側の計画等について

天津 10月28日後発
本省 10月28日後着

第一一二三号（暗、部外極秘）

本官發天津宛電報

第一七号

画策シ居ルヤノ疑アリ右親書モ或ハ彼等ノ策動カト想像セラレタルヲ以テ二十三日後藤ヲシテ直接帝ノ御内意ヲ伺ハシメタル處目下左迄身辺ノ時期ニ非サルコトハ充分承知シ居テ香椎司令官ニ對シ「当地ニ在リテハ學良及安福派等ヨリ迫害ヲ受クル惧アリ身辺ノ不安ヲ感スルニ付當分旅大方面ニ移居シタキ旨」申出アリ司令官ハ自重ヲ促シ置キタルカ幕僚トシテハ此際日本内地ニ赴カルルコト然ルヘシトノ意向ナリトテ本官ノ意見ヲ質シタルニ付本官ハ事変發生以来嚴重ナル警護ヲ為シ居ルヲ以テ何等危険アリトハ認メス且諸般ノ關係上司令官同様帝ノ隱忍自重ヲ望ム旨述ヘ置クト共ニ一層警衛ヲ厳ニシ置キタルカ尚羅振玉カ閔東軍ノ諒解アリト称シ憲真及徐良等ヲシテ帝ヲ連れ出サシメンコトヲ

ヲ領事館ニ派遣シタルト同様ノ考ニテ司令官ノ意向ヲ尋ネタルニ過キス未タ出廬ノ時期ニ非サルコトハ充分承知シ居ルヲ以テ実ハ羅振玉等ノ策士連トハ努メテ接近セス自重シ居ル次第ナリト述ヘラレタル由ナリ目下老臣ハ(イ)鄭孝胥父子(ロ)陳寶琛一派ハ羅ノ系統ニ分レ居リ最モ帝ノ信賴アルハ鄭父子ニシテ兎ニ角自重方進言シ居ルヲ以テ日本人ニシテ策動シ居ルモノナシ

シ

支、北平、奉天へ転電セリ

21 昭和6年10月25日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

関東軍溥儀の来満希望との情報について

第四三四号（暗、極秘扱）

天津 10月25日後発
本省 10月26日前着

關東軍參謀中ノ一部ハ最初羅振玉ヲ利用シ宣統帝ヲ滿州ニ伴ヒ出サント試ミタルモ香椎天津駐屯軍司令官カ帝ニ対シ自重ヲ勧メタル等ノ事情ニ依リ帝ニ於テ尻込ミセラレ計画拂ラサリシ為其後浪人上角某ヲ天津ニ派遣シ急進的ノ意見ヲ有スル酒井大隊長ト打合セ帝ヲ盜ミ取り塘沽ニ伴レ出シ貨物船ニ乗セ營口ニ上陸セシメント企テタルモ帝ノ住宅ニ於ケル日本警察側ノ監視嚴重ナル為其目的ヲ果ササリシ結果改メテ土肥原大佐ニ右任務ヲ託スルコトトナリ同大佐ハ浪人大谷猛ヲ伴ヒ二十六日夜私カニ當地出發大連經由天津ニ向ヘリ（大連ヨリ浪人工藤鐵三郎ヲ同行スルヤモ知レス）天津着ノ上ハ何ントカ適當ノ方法ヲ講シテ計画実行ニ移ル筈尚先日本件連絡ノ為駐屯軍三浦參謀來訪セリ云々大臣、支、北平へ転電セリ

謝介石二十七日來訪シ左ノ通内話セリ

天津 10月28日後発
本省 10月28日後着

第四四三号（暗、部外極秘）

奉天発本官宛電報第一七号ニ関シ

(一) 上角利一カ奉天特務機関ヨリ二千円ヲ支給セラレ北方実力派ト連絡ノ為ト称シ本月十日頃稻垣參謀ヨリ三浦參謀宛

紹介ノ名刺ヲ携ヘ来津シ濟南ニ向ヒタルコト（當館ニ於テハ嚴重取調タルモ本件ニ關係アル形跡ナカリキ）

(二) 工藤モ宣統帝連出シニ幾分關係アルコトハ本官江口副總裁ヨリ聞込ミタルコトアリ

(三) 三浦カ本官ト前後シテ奉天ニ赴キタル事実アルコト並ニ屢々電報セシ事情等ヨリ察シ謝ノ内話ハ相当根拠アルモノト察セラル

而シテ閑東軍部内ニ於テ復辟熱アルハ既電ノ通ニシテ貴電第六四四号ノ如キ訓令カ果シテ閑東軍及当地駐屯軍ニ到着済ナルヤ將又右訓令中ニ復辟運動ニ閃シテモ明ラカニ指令シアルヤニ付テハ疑無キヲ得ス又香椎司令官ニ於テモ帝ノ出廬ニ対シ絶対反対スル次第ニモ非サルヲ以テ或ハ土肥原來津ノ結果滿州ニ於ケル準備整ヒタルヲ理由トシ帝ノ連出シニ關シ本官ノ諒解ヲ求ムルコト無キヲ保シ難シト考ヘラル

原文の儘とした。

25 昭和6年10月28日 在北平矢野參事官より

幣原外務大臣宛（電報）

溥儀擁立運動に関する情報について

北平 10月28日後着
本省 10月28日後發

第五九四号（暗）
二十八日公安局秘書キツセイアン（旗人）カ極秘トシテ原田ニナセル内話

一、奉天事件発生後平津及奉天方面ノ有力ナル旗人ハ南京政府部内ノ旗人ト密ニ連絡シ宣統帝擁立ニ付画策中ノ処和平會議ノ前途望ミ薄キヲ見越シ漸次具体的の進行ニ移ルニ決シタルカ右ハ先ツ日本ノ了解ヲ得テ兵ヲ満州ニ移シ置キ旧臣其他ノ支持者カ帝擁立ノ宣言ヲ發シ次テ帝ヨリ民国二十年間ノ失政ヲ述ヘ清朝発祥ノ地ノ危殆ニ瀕セルヲ坐視スルニ忍ヒス已ムナク起チタル所以ヲ述ヘタル独立宣言ヲ發シ滿蒙王國ヲ樹立セントスルニアリ

二、右実行ハ勿論日本ノ同意ナクシテハ不可能ノ事ナルカ日本ノ為ヨリスルモ連盟ヨリ撤兵ヲ迫ラレ居ル此際速ニ該

24 昭和6年10月28日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

溥儀擁立に関する政府の意向問い合わせについて

て

天津 10月28日後發
本省 10月28日後着

第四四三号（暗）

卑見ニ依レハ満州ノ治安回復ニハ北方政権ノ確立ヲ要シ之カ為ニハ学良ノ下野ヲ前提トスル次第ニシテ学良カ現有勢力ヲ保持スル限り新旧何レノ派ヲ問ハス何人ト雖モ東省ニ於テ政権ヲ確立スルヲ得ス又未タ復辟運動ノ見込立チタリトハ見受ケラレヌ從テ此際帝ノ出廬ハ帝自身ノ為ニモ取ラサル所ニシテ目下ノ急務ハ寧ロ学良ノ地位ヲ如何ニシテ覆スヤニアリト認ムルニ付テハ貴電第七二号御訓令ニ依リ今後モ極力帝ノ出廬ヲ阻止シタキ意向ナルカ万一大関係各方面ト御協議ノ結果既定ノ御方針ニ変更アルニ於テハ折返シ承知致度ク何分ノ儀御回電相成度シ

公使、奉天、北平ヘ転電セリ

（編注）本文書の電信番号は前文書（二二三）と同一であるが

運動ヲ容認シ（表面内政不干涉ヲ標榜スルハ当然ノ義）暗ニ援助ヲ与ヘ速ニ新政権ヲ出現セシメ之ニ治安ヲ委任シテ撤兵シ連盟干涉ノ口実ヲ失ハシムルト共ニ右計画発展ニ依ル内政上ノ変化ヲ待チ徐ニ第二段ノ措置ニ出ツル事得策ナルヘシ

三、右計画ヲ探知セル南京政府ハ帝カ起立シタル際ノ民心ノ帰趨ヲ顧慮シ急遽帝ノ許ニ人ヲ派シ優待弁法復活ト在北平旗人救濟機関タル工場ノ設立方ヲ申入レタル事実アリ云云（新聞發表見合ヲ請フ）

因ニ二十八日大公報ハ上海特電トシテ政府ハ日本ノ滿蒙獨立運動ニ対シ帝カ之ヲ拒絶セラレタルヲ多トシ同帝ニ対シ帝ノ上海又ハ北平ヘノ移住ヲ慇懃シ帝カ同意セラルニ於テハ移住ノ費用ハ勿論毎月ノ経費モ今後政府ニ於テ負担スヘキ旨申入レタル趣報道シ居レリ

支、南京、廣東、天津、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

26 昭和6年10月30日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

本庄司令官より溥儀に自重方進言との情報について

事項4 天津事件

天津 10月30日後発
本省 10月30日後着

第四四九号（暗、極秘）

往電第四四三号ニ閔シ
(二三文書)

三十日鄭垂カ極秘ノ含トシテ内話セル處左ノ通

最近本庄司令官ヨリ宣統帝ニ寄セラレタル親書ニ依レハ満州ニ於ケル諸般ノ状況未タ混沌タルモ何レ万端ノ準備成リタル上ハ外務省トモ打合ノ上内田總裁カ皇帝ヲ出迎フ事トナル筈ニ付夫迄ハ如何ナル策動ニモ惑ハサレス自重セラレ度キ旨申越セル趣ニテ帝ハ之ヲ深ク信頼シ廳テ時機ノ熟スルヲ期待シ落付居ラル近況ナリ

支、北平、奉天ヘ転電セリ

27 昭和6年10月30日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

国民政府の溥儀に対する優遇申出について

天津 10月30日後発
本省 10月30日後着

第四五〇号（暗）
(二五文書)
北平発大臣宛電報第五九四号末段ニ閔シ

天津 10月30日後発
本省 10月31日前着

28 昭和6年10月30日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

土肥原大佐の溥儀連れ出し申出について

天津 10月30日後発
本省 10月31日前着

第四五三号（暗、至急、部外極秘）
(二三文書)
往電第四四三号ニ閔シ

三十日午後先方ノ求メニ依リ司令官同席ニテ土肥原ト見見シタルカ其談ニ依レハ袁金鑑、熙洽、張海鵬、馬占山等ニ於テ地方政権樹立ニ努メ居ルモ如何トモスルヲ得ス依テ何レモ宣統帝ノ出廬ヲ切望シ而モ帝以外ニハ適當ノ人物ナシ

トノ意見ナルヲ以テ我方トシテハ此機運ヲ利用シ新政権ノ確立ヲ計ルコト治安維持従テ現地撤兵実行上ヨリ見テ急務ト認メラルノミナラススケンテ独立國家ヲ成立セシムルコトハ国策上絶対必要ナリト存ス理想論ヨリセハ或ハ時機尚早トモ考ヘラルヘキモ歴史的ニ關係深キ帝力乗出スハ一般輿論カ帝ヲ要望スル現在ヲ措キテ他ニ機会ナカルヘシトノ趣ニシテ就テハ帝カ自發的ニ脱出サレタル形式ヲ取り浪人ヲシテ然ルヘク連出サシメタキニ付本官ノ諒解ヲ得タシトノ申出アリ司令官亦之ニ賛意ヲ表シ責任ハ自ラ負フモ差支ナキ意向ヲ漏シタルカ本官ハ予テ訓令ノ次第モアリ（閔東軍ニハ日本人カ新政権成立ニ関与スヘカラサル旨簡単ナル訓令アリ駐屯軍ヘハ其写來レル由）又警護ノ責任ヲ負ヒ事変以来特ニ警戒ヲ厳ニシ居ル立場上何レ考慮ノ上返事スヘキ旨ヲ答へ置キタリ

支、北平、奉天ヘ転電セリ

29 昭和6年10月31日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

土肥原大佐の来津について

天津 10月31日前着
本省 10月31日前着

滿州ノ実状如何又民衆カ果シテ帝ヲ要求シ居ルヤハ当地ニ於テハ明ラカナラサルモ当方ノ情報及土肥原ノ談ニ依リ判断スルニ帝ノ出廬ヲ利用セントスルニ止マルヤニ思料セラレ從テ斯カル事態ニ於テ帝自身カ乗出スヤ否ヤハ第一ノ問題ナルカ（往電第四四九号参照之ヲ要スルニ帝ハ日本政府

鄭垂ノ談ニ依レハ二十七日頃中央監察院委員高友唐皇帝ヲ訪問シ日本ノ満蒙独立運動ニ対シ帝カ毅然トシテ拒然セラレタルヲ徳トシ此際上海若クハ北平露國公使館ニ移転セラレルニ於テハ国民政府ヨリ毎月二万元経費ヲ支出スヘキ旨申入タルニ対シ帝ハ目下外患内災緊急ナル時ニ於テ中央力一介ノ平民ヲ顧念スルノ要無カル可ク宜シク全国民ノ安住ニ尽サレタシト拒绝セラレタル趣ナリ

申入タルニ対シ帝ハ目下外患内災緊急ナル時ニ於テ中央力レタルヲ徳トシ此際上海若クハ北平露國公使館ニ移転セラレルニ於テハ国民政府ヨリ毎月二万元経費ヲ支出スヘキ旨申入タルニ対シ帝ハ目下外患内災緊急ナル時ニ於テ中央力一介ノ平民ヲ顧念スルノ要無カル可ク宜シク全国民ノ安住ニ尽サレタシト拒绝セラレタル趣ナリ

支、北平、奉天ヘ転電セリ

第四五三号（暗、至急極秘）

土肥原ハ二十九日来津シタルカ同伴者ハ鳳某（往電第四五一号馬廷福ノ釈放運動ヲナシタル人物ニシテ馬ハ同人ノ到着ヲ待チテ活動ヲナス筈ナリト）ノミニテ浪人帶同セス尚上角ハ当地ニ潜伏シ居ル模様ニ付嚴査中ナルカ羅振玉ト關係アルカ如シ

駐屯軍ヨリ土肥原ノ件ニ付テハ中央ニ電報セサル様申入レ

アルニ付御含アリタシ

支、奉天、北平へ転電セリ

（編注）本文書の電信番号は前文書（二八）と同一であるが原文の儘とした。

30 昭和6年11月1日

警原外務大臣より
在天津桑島總領事宛（電報）

溥儀擁立運動の中止について

本省 11月1日後発

第八一号（暗、至急極秘）

貴電〔二八文書〕第四四五三号ニ関シ

一、今次事件ニ關シ支那側トノ交渉ハ容易ニ進捗セサルヘク從テ差当リ我方トシテハ滿州各地ニ於ケル治安維持機

関ノ内容ヲ充実シ奥地地方モ漸次其ノ手ニ依リ收拾セラ

ルヘキコトヲ希望スルト共ニ從来疎曠セラレタル我權益ノ確保ニ付テハ支那人側トノ商取引ノ事実問題トシテ満鉄等ヲシテ可然實行セシムル外ナク而シテ時日ノ経過ト共ニ漸次此等自治機關發達シ其ノ連合成立スルトカ又ハ統轄者ヲ選出スルトカ云フ方法ニテ全部ノ纏リヲ見ルコト自然ノ行方ト思考シ居ル次第ナリ（支那側トノ交渉ニ依リ我方ノ希望スルカ如キ事態ヲ出現シ得ハ固ヨリ之ニ過キタルコトナシ）

二、然ルニ此ノ際滿州ニ独立國ヲ形成スルカ如キハ直チニ華府九国條約第一条第一項抵触ノ問題ヲ生シ必スヤ米國其他九国條約印國ノ間ニ重大ナル紛議ヲ生スヘク（此点ハ中央軍部ニ於テモ首肯シ居ル所ナリ）又宣統帝ノ出

廬ハ直チニ獨立國ノ建設ト關係ナシトスルモ外部ニテハ我方ニ於テ滿州獨立國ヲ計画シ居ルモノト見ルヘク（同帝カ自發的ニ脱出セラレタル形式ヲ執ルトスルモ外部ニテハ容易ニ之ヲ信セサルヘク又斯種事件ノ真相ヲ秘密ニ付スルコトハ極メテ困難ナリ）何レノ途此ノ際同帝ノ連出ハ十一月十六日理事会開会ヲ控ヘ又々世界輿論ノ激昂ヲ來シ我方ニ取り極メテ不利ナル状況ヲ展開シ今後世界

輿論ノ鎮静ニ伴ヒ次第二現地ニ於ケル建設的方面ノ仕事

ニ事実上取掛ラムトスル我方折角ノ計画ニモ多大ノ支障

ヲ生スヘシ

三、又現今滿州住民ノ殆ト全部カ漢民族ナルコトニ顧ミ宣

統帝ノ擁立ハ滿州自身ニ於テモ不評判ナルヘク況ヤ其ノ

支那本部及世界各国ニ与フル影響ハ反革命、反民主主義

陰謀等ノ標語ノ下ニ想察ニ余リアル次第ニシテ斯クテハ

日支ノ了解ハ将来永久ニ不可能トナルカ如キ事態ヲ發生

スヘシ何レニスルモ宣統帝擁立ノ如キハ全ク時代錯誤ノ

計画ト申ス外ナク右ハ将来ニ於ケル帝国ノ滿蒙經營ニ対シ重大ナル禍根トナルノ虞アリト存ス

四、將又本大臣宛奉天發電報第一〇一六号劉驥業ハ目下本邦ニ滯在シ各方面ノ意向ヲ探り居ル模様ナル処何レノ向モ反対ノ氣配強キモノノ如ク現ニ南陸軍大臣モ反対ノ意向ヲ有シ又坂西中將モ劉ニ対シ本件ノ時代錯誤ナルコトヲ説示シ同帝ノ自重ヲ求メタル趣ナリ

五、就テハ叙上ノ次第御含ノ上本件宣統帝連出計画ヲ中止セシムル様極力御努力相成ル一方可然方法ニテ同帝ニ對シ切実ニ自重方ヲ申入レラルト共ニ警戒方此ノ上共御

注意相成度
在支公使、北平、奉天ニ転電セリ

31 昭和6年11月2日

在上海村井總領事より
警原外務大臣宛（電報）

土肥原大佐の溥儀連れ出し工作に関する中国新聞報道について

上海 11月2日後発
本省 11月2日後着

第七六一号（略）

二日ノ当地漢字新聞ハ日本側ハ東三省ノ独立ヲ煽動シ恭親王ハ既ニ一切ヲ承諾セルモ宣統帝ハ峻拒シ居ル為メ土肥原大佐ハ秘密裡ニ來津スルコトトナリ二十九日大連ヨリ大沽ニ着シ日本側ハ小蒸氣ヲ派シ入津セシメ目下極秘裡ニ種々ノ手段ヲ用ヒテ宣統帝ヲ奉天ニ連レ出サント画策中ナルモ皇帝ハ依然拒絶セラレツツアル為日本側ハ脅迫手段ニ出テ居ル旨ノ天津來電ヲ掲載セリ

公使ヘ転報シ天津、北平、奉天、南京へ転電セリ

32 昭和6年11月3日
在天津桑島總領事より
警原外務大臣宛（電報）

溥儀擁立工作に関する土肥原大佐の主張について

天津 11月3日後発

本省 11月3日後着

第四六〇号（暗、至急、極秘）

二日館員ヲシテ不取敢土肥原ニ対シ貴電第八一号ノ趣旨ニ依リ夫々説得ニ努メタルカ先方ノ言ヒ分ハ

〔一〕最近張蔣ノ団結堅ク張學良没落ノ見込少キニ至レルヲ以テ熙治ヲ除ク満州現地方政府ハ愈旧政府ニ氣兼シ之ト氣脈ヲ通スルコトトナルヘキ結果政府ニ於テ予期セラルカ如キ事態ノ自然的発展ハ到底望ミ無キコト

〔二〕日本カ帝ノ連出シニ無関係ナルヲ装フ為ニハ營口ニ上陸セシムル要アル處時日遷延セハ同港ハ結氷スヘキコト

〔三〕奉天ヨリ現ニ金梁來津シ居ルニ付同人カ帝ヲ迎ヘシ旨宣伝シ得ルコト

四当地ヨリ支那汽船ヲ傭船使用スル関係モアルコト

〔四〕滿州ニ於ケル支那人間ニ本件ニ關スル声少キハ本人ノ決心如何ヲ氣遣ヒ又日本側ニ對スル遠慮ニ依ルモノナルコト

從テ帝ニ於テ身命ヲ賭スル覺悟及直ニ渡満ノ決意アリ其方法アルコト判明セハ支那側ノ輿論ヲ高メシメ帝ヲ迎フル声

33 昭和6年11月3日 在天津桑島總領事より
※幣原外務大臣宛（電報）
溥儀擁立に関する土肥原大佐の言動およびその対策について

天津 11月3日後発

本省 11月3日後着

第四六一号（暗、至急、極秘）

往電〔三文書〕第四六〇号ニ関シ

谷垂細亞局長へ
土肥原ハ館員ニ対シ満州ノ事態ヲ現況迄漕付ケタルハ一二出先ノ軍部ノ活動ニシテ今後ニ於ケル收拾上是非共帝ノ擁立ヲ必要トスル場合若シ現政府カ之ヲ阻止スルカ如キ態度ニ出ツルハ奇怪千万ニシテ果シテ然リトセハ或ハ關東軍ハ

政府ト離レ如何ナル行動ニ出ツルヤモ保シ難ク又内地ニ於テモ目下拘禁中ノ暗殺計画者以外ニ更ニ由々敷事態ノ發生スヘキヲ恐ル此際政府ノ方針ノ如キハ問題ニアラス若シ帝ニ於テ出廬ノ決心アラハ權道ニ依リテモ連レ出スヘシト敦

公使、北平、奉天ヘ転電セリ

34 昭和6年11月3日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

土肥原と溥儀との会見に関する鄭垂の内話および中国側の土肥原に対する警戒ぶりについて

て

天津 11月3日後発

本省 11月3日後着

第四六二号（暗、至急極秘）

〔三文書〕第四六〇号ニ関シ

同人ハ二日夜帝ニ会見シタルカ三日鄭垂ノ内話ニ依レハ同人ヨリ満州事態並ニ此ノ機会ヲ逸セス十六日以前ニ是非共渡満アリタキ旨並ニ然ル場合ハ日本ハ直ニ帝ヲ主班トル独立國家ト秘密攻守同盟ヲ結フヘク又連盟ノ干渉モアリ独

明書ヲ發表セシムル等表面上支那側ノ運動タラシメ得ヘキコト等ヲ述ヘタルヲ以テ館員ヨリ特ニ國際關係及支那本部トノ關係ニ付重ネテ注意シ尚私見トシテ仮令帝ノ出蘆カ満州ニ於ケル支那側ノ要望ナル旨宣伝シ得ルトシテモ十六日ノ連盟理事会ノ結果ヲ見ルコト望マシク又事實支那人ノ要望アリ且充分ノ手配ヲ為シ得ル場合ハ上陸地カ營口ナリヤ大連ナリヤハ問題ナラサルヘク尚同人ノ来津ハ既ニ周知ノ事実ナルニ付少クトモ此際ハ計画ヲ中止スル様勧告シタルモ同人ハ聽入ルル模様無ク結局帝ノ意向ヲ確メタル上若シ此際危険ヲ冒シ乗出ス決心ナキコト判明セハ帝ニ対シ再ヒ機會無キ旨捨台詞ヲ述ヘ引取り且ツ奉天軍部ニ對シ本計畫ノ見込無キヲ以テ別途ノ方法ノ考究ヲ要スル旨電報スル外無シト述ヘタル由
支、北平、奉天ヘ転電セリ

立宣言ノ翌日ヨリ撤兵スヘク万ー閔内等ヨリ出動スル向ア

ル時ハ閔東軍ニ於テ之ヲ擊破スル等充分援助ノ方法ニ出ツ
ヘシ尚独立ナラハ相当ノ財源自由トナルヲ以テ作相始メ閔
内分子ノ懷柔ニモ当リ得ヘシ将又我皇室ニ於テモ帝ノ再起
ニ対シテハ歓迎セラレ居ル趣ヲ述ヘタルヲ以テ帝ノ意志大
イニ動キタル模様ナルカ日本政府自体トシテ如何ナル程度
ニ援助スル意向ナルヤ又当地脱出ニ付如何ナル具体方法ニ
依ルヤニ付詳細承知シタキ旨申出テラレタルヲ以テ考慮ノ
上回答方ヲ約シ引取リタル趣ナリ尚同人来津ノ事実ハ三日
ノ「スター」ニ報道アリ又同日公安局ヨリハ本件並ニ反動
分子煽動ノ使命ナル趣唆アル処事實ナリヤト照会シ越セ
支、北平、奉天へ転電セリ

35 昭和6年11月3日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀出馬の積極的意向について

第四六三号（暗、至急極秘）

天津 11月3日後発
本省 11月3日後着

鄭垂ヲシテ一層自重方申入レシメ置キタルカ同人ノ内話ニ
依レハ宣統帝ハ商衍瀛ナル者ヲ東北ニ密派シ各將領ノ内意
ヲ探ラシメタル處張作相ハ東北ニ在ル私財ノ保全ヲ得ハ帝
ノ出廬ヲ歓迎スル真意ヲ漏シ湯玉麟ハ元來復辟党ニテ反対
ナク張海鵬軍ハ其一部ヲ除キ他ハ悉ク異存ナク熙洽、張景
惠、馬占山等実力ヲ有スルモノハ何レモ帝擁立ヲ誓ヒ帝ノ
即時渡満ヲ熱望シ居ル旨復命シタルヲ以テ帝ノ心大イニ動
キタル折柄金梁及土肥原ヨリ此機ヲ逸セハ最好ノ時機ナシ
ト進言シタル為帝ハ愈出馬ノ決心ヲ堅メラレタル模様ニシ
テ此上自重ヲ進言スルモ其効果無カルヘク又側近者ノ大部
分モ之ニ賛シ居レリトノ趣ニテ此際帝ノ自重ヲ促ス方法ト
シテハ御決心ヲ実行セラルトモ我方ハ飽迄不干渉ノ方針
ニ依リ援助スルコトナカルヘシト進言スルノ外ナシト認メ
ラルル処果シテ実効アルヤハ頗ル疑問ト存ス尚三日司令官
ヲ訪ヒ貴電第八一号ノ趣旨ニ依リ邦人ノ連出計画ヲ中止セ
シムルコト然ルヘシト懇談シタル處司令官モ之ヲ諒トシタ
ルカ内実土肥原カ帝ノ意向ヲ尋ネタルニ帝ハ特ニ出廬ヲ決
心シ既ニ数日前手荷物ノ一部ヲ仮租界ニ持出シ適當ノ機会

36 昭和6年11月3日

在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀擁立運動に關し政府の方針決定方申請に
ついて

奉天 11月3日後発
本省 11月3日後着

第一一七六号（暗、部外極秘）

天津宛貴電第八一号ニ関シ

当地方軍側ノ行動ヲ見ルニ中央ノ意向必シモ常ニ出先ニ反
映セス閔東軍幕僚中ニハ所謂既成事實ヲ押付ケ中央ヲ引摺

ラントスルノ傾向依然盛ナルモノアリ本件宣統帝擁立運動
ニ付テモ最近土肥原ノ天津行ト共ニ更ニ著シキモノアリ彼
等ハ袁金鑑、熙洽、張海鵬等ヲ中心トスル地方政府樹立計
画意ノ如ク進捗セサル此際宣統帝ノ出廬ニ依リ現状ヲ打開

セント目論ミ居ルモノノ如ク右ニ対シ表面ハ兎ニ角内心軍

往電（三四文書）
三四四六二号ニ関シ

37 昭和6年11月3日

塙本閔東長官より
幣原外務大臣宛（電報）

張宗昌の天津行について

閔東庁 11月3日前發
本省 11月3日後着

23

本官発天津宛電報

張宗昌三日午前九時大連発天潮丸ニテ天津ニ向ヘリ

溥儀擁立のため土肥原大佐來津に関する北平
農報記事について

24

38 昭和6年11月4日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

土肥原大佐の溥儀工作等に関する益世報記事
について

天津 11月4日後發
本省 11月4日後着

第四七一号(略)

四日益世報ハ土肥原ノ秘密來津セルハ日本陸軍省ノ命令ニ
依リ廢帝溥儀ヲ煽動シ東北ニ連出シ独立政府ヲ組織セシメ
及当地日本人ヲ使嗾シ華人ト事ヲ構ヘシメ以テ不撤兵ノ口
実ヲ作ルニ在リ廢帝ハ既ニ赴奉ヲ拒絕シタルモ彼ハ種々脅
迫手段ヲ用ヒ今ヤ帝ハ出發セサルヲ得サル状態ニ在リ云々^{ト大見出ニテ報シ居レリ}

支、北平、奉天ニ転電セリ

39 昭和6年11月4日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛(電報)

本省 11月5日後着

第四七二号(暗、至急、部外極秘)
往電第四六三号ニ關シ

四日夜帝脱出ノ氣配アル旨警護者ヨリ報告アリシヲ以テ館
員ヲシテ側近者ニ事情ヲ質サシメタル處甚々言渋リ居リタ
ルモ結局帝ハ必スシモ帝位ノ称呼ヲ望マス三千万民衆ノ為
ニ万難ヲ覺悟シ出廬ヲ固ク決心セラレ居リ既ニ裝甲車四七
確定シ機会ヲ待チ居ル次第ナルカ右決意ハ当地司令官ニ於
テ帝出廬ノ為ニハ仮令自己ノ職ヲ賭スルモ苦シカラサル意
向アル旨ヲ承知シ感激セラレタル結果ト認メラルル處尙軍

側ノ希望ニ依リ領事館ニ対シテハ從来ノ関係ニ囚ハレス乗

船後通告スルニ止ムル方針ナリトノ趣済シタルヲ以テ館員
ヨリ内々ノ渡満ハ國際關係上日本ノ迷惑トスル所ナルヲ以
テ政府ニ於テモ帝ノ心情並ニ境遇ニハ同情シ居ルヘキモ甚
タ時機ニアラサル以上政府ハ恐ラク不干涉主義ニ終始スル

ノ余儀無キニ至ルヘシト思料スルニ付テハ改メテ帝ノ深甚
ナル考慮ヲ求メ徒ニ血氣ニ逸リ僅ノ事ニ感動シ取返シノ付
カヌ破目ニ陥ル事無キ様戒メラレ度キ旨申入レタリ折角先
方ハ重ネテノ努力ハスヘキモ到底決心ヲ翻シメル見込ナキ
事項4 天津事件

北平 11月4日後發
本省 11月4日後着

第六〇七号(略)

四日ノ北平農報ハ天津特別通信トシテ土肥原大佐ハ二日金
梁ト共ニ來津宣統帝及日本總領事、軍司令官等ヲ訪問セル
カ日本カ同帝ヲ迎ヘ東北ニ明光帝国ノ建設ヲ計画シ居ルコ
ト略確実ナルカ如シ日本ハ東北獨立ヲ企図シテヨリ既ニ一
ヶ月トナレルモ黒竜江ノ平定ナラスシテ三省統一セス又獨
立政權ノ領袖人物ナキ為未タ成功スルニ至ラサル処新タニ
人物ヲ養成スルコトモ容易ナラサルニ付宣統帝ヲ利用セム
トルモノニテ右ニ対シテハ熙治、張海鵬、凌印清モ勿論
反対ニアラス云タト報ス

在支公使、奉天、天津ヘ転電セリ

40 昭和6年11月5日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

天津 11月5日後發
本省 11月5日後着

溥儀に自重勧告について

由語レル趣ナリ

支、北平、奉天ヘ転電セリ

41 昭和6年11月5日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

天津 11月5日後發
本省 11月5日後着

溥儀脱出阻止に關し軍との關係および土肥原

の行動について

谷亞細亞局長ヘ

宣統帝ハ只管脱出ノ機会ヲ待チ居ル情勢ナルヲ以テ當方ニ
於テハ一層警備ニ注意スル一方萬一不幸ニシテ其実行ヲ見
ル場合右ハ當方勸告ヲ無視セル帝ノ自發的行動ナル旨ヲ明
カニシ我方ノ國際的立場ヲ保持シ得ル方法如何ニ付考慮中
ナル處帝ノ自由ヲ如何ナル程度ニ於テ実力ヲ以テ阻止シ得
ルモノナリヤ殊ニ軍部ニ於テハ十六日迄ニ是非共連出シタ
キ無理アル以上右阻止ノ程度ニ依リテハ軍トノ間ニ實力衝
突ノ虞ナシトセス就テハ此辺ノ事情モ御含ノ上今後ノ御方
針ノ確立ニ資セラルル様致シタシ

事項4 天津事件

尚土肥原ニ関シテハ連日大袈裟ナル新聞記事現ハレ又五日公安局ヨリ退去斡旋方申出アリ折角帝国政府ニ於テハ帝ノ輕舉ヲ戒メ居リ且新聞報道ハ一切事実無根ナル旨公安局ヲシテ取消サシムル様打合済ナルカ何ノ途同人力至急離津スルコト絶対肝要ト認ムルニ付本人ニ対シテハ勧告中ナルモ政府ニ於テモ直ニ適當ノ方法ヲ執ラル様致度シ

支、北平、奉天へ転電セリ

42 昭和6年11月5日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

張宗昌の大公報記者にたいする談話要領について

天津 11月5日後発
本省 11月5日後着

往電第四六九号(略)
張宗昌カ四日大公報記者ニ為セル談話要領左ノ通

滿州事変以來日本人ヨリ五月蠅ク出馬ノ意無キヤラ質問セラレ又過般白川大將ヨリモ余ニ活動ノ意アラハ極力幫助スヘシトノ話アリタルモ此際何等活動ノ意ナク余ヲ利用セラトノ記事ヲ掲ケタリ

付テハ土肥原ハ日本領事後藤ノ紹介ニ依リ帝ニ面会シ日本側ニ於テ極力援助スヘキ旨告ケタルカ退位後ハ一平民トシリテ何ノ望ナシト拒絶セラレタル為余ノ言葉ヲ聴カサレハ恐ラク帝ニ不利ナルヘシ熟慮アレト言ヒ棄テテ引取レリ云々トノ記事ヲ掲ケタリ
支、北平、奉天へ転電セリ

44 昭和6年11月5日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

溥儀擁立に関する本庄司令官との会談について

天津 11月5日後発
本省 11月5日後着

第一二〇五号(暗、部外極秘)

十一月五日軍司令官ト会談偶々新政権樹立ニ及ヒタルニ依リ復辟ニ関スル司令官ノ真意如何ヲ尋ネタルニ司令官トシテハ東省ノ各省政府未タ確立セサル内ニ宣統皇帝ヲ擁立スル如キハ時機尚早ナリト言フヘク自分ハ皇帝ノ出廬ヲ急クヘカラサル旨嘗テハ劉驥業ニモ語リ天津軍ヘモ伝ヘ置キタリト述ヘタルニ依リ本官ハ復辟カ今日ノ時勢ニ於テ

ルルヲ願ハスト答へ置キタリ尤モ此国難ニ当リ尽力スヘキ所アラハ一国民トシテ努力シタキ考ナリ云々

尚胡宗鐸カ北平ヨリ得タル情報ニ依レハ張ノ来津ハ潘復力学良ニ対シ彼ヲ利用シテ東北撓乱ニ当ラシムヘシト進言シタルニ因ルトノ由ナルカ市政府側ニテハ日本ニ利用セラレ居ルトノ疑惑ヲ避ケル為張本人ノ希望ニ依リ移転セル由述ヘ居レリ

支、北平、南京へ転報アリタシ

43 昭和6年11月5日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

天津の天津における行動に関する漢字紙の報道について

天津 11月5日後発
本省 11月5日後着

第四七五号(暗)

五日ノ各漢字紙ハ土肥原ノ来津ハ(一)宣統帝ヲ誘惑シテ東北ニ於テ独立政府ヲ組織スルコト(二)当地方各国側ノ形勢觀察(三)親日派ト接洽シ国内ノ攪乱ヲ希望スルコトニアリ第一ニ

時代錯誤ナルコトヲ説キ天津ヨリノ情報ニ依レハ土肥原大佐着津以来皇帝出廬ノ意頗ル動キツツアルカ如キ處将来皇帝ニ依リ東三省ヲ統治スルニハ素ヨリ我方ノ強キ支持アルニ非スンハ能ハス而シテ復辟ノ如キ時代錯誤ノ支持ニハ異常ノ犠牲ヲ払フコトトナルヘク我日本トシテ最少ノ犠牲ヲ以テ最大ノ美果ヲ收ムルヲ得策トスヘク從テ此際皇帝ヲ利用セントスルカ如キコトハ出来ル丈之ヲ避ケルヲ可トスル様思考スト述ヘタルニ司令官ハ自分ハ素ヨリ復辟ナラナルヘカラストスルモノニアラス唯民意ニ依リ将来ノ法律組織ヲ決定スヘシト為スモノナルヲ以テ皇帝ノ出廬ヲ急クヘカラサル様注意シ居ル次第ナリト語リタルカ本日ノ会談ノ印象ニ依レハ司令官ハ土肥原等ノ計画ニ全部賛成シ居ルヤ疑ナキ能ハサルモ他方又天津宛貴電第八一号ノ御意見トモ一致シ居ラサルヤニ見受ケラル
支、天津へ転電セリ

45 昭和6年11月6日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛(電報)

張學良と張宗昌との関係、その他時局に關す
る黄濬の内話について

北平 11月6日後発
本省 11月7日前着

第六一七号（暗）

時局ニ閑シ五日黃濬力原田ニ為セル内話

一、学良カ張宗昌（五日來平）ヲ招致セルハ同人ヲ満州ニ放置スルハ独立運動參加ノ危険多分ニアル為ト一方同人ヲ起用シ之ニ軍隊ヲ与ヘ韓ニ備ヘシメントスル為ナル處

将来宗昌ニシテ勢力ヲ盛リ返シ來ラハ于學忠ノ勢力ト併セ河北ニ於ケル吳佩孚系勢力ノ台頭ヲ見ル事トナルヘシ

二、宣統帝渡満後ノ方針ニ付鄭孝胥ヨリノ聞込ニ依レハ帝

ハ吉林ニテ共和政府ヲ設置シ独立ヲ宣シ連盟ニ對シ民族

自決ノ主旨ニ基キ滿州ハ滿州人ニ依リテ治ムヘキヲ電報

スル筈ナルカ其場合在満學良系軍民ノ向背カ唯一ノ問題

ナル由

三、今回學良ノ南下ハ對外問題ヨリハ寧ロ對内問題ヲ主トシ閣及韓ノ策動ニ対シ蔣トノ關係ヲ強固ナラシムル為之

カ打合ニアル処學良カ急遽出發セルハ去月二十八日韓力

中央任命ノ塩務官史ノ更迭ヲ行ヒタル（濟南發閣下宛電

報第二三六号）為蔣ハ韓カ中央ニ事ヲ構ヘントスルモノ

46 昭和6年11月6日

幣原外務大臣より
在天津桑島總領事宛（電報）

溥儀連れ出し阻止に關し重ねて通達について

別電 同日幣原外相より桑島總領事宛第八四号

溥儀連れ出し阻止に關し重ねて通達について

本省 11月6日後発

第八三号（暗、至急、極秘）

宣統帝擁立運動

（部外極秘）

往電第八一号ニ閑シ

本件ニ閑スル政府ノ方針ハ右往電ト何等ノ変更ナキ次第ナルカ念ノ為過日來陸軍側ト内密ニ協議ノ結果陸軍大臣ヨリ閑東軍司令官ニ對シ此ノ際滿州新政權問題ニ付行過キタル行動ニ出テサル様電報セル趣ナルカ尚本六日更ニ出先ノ運動ヲ緩和スル為小璣軍務局長ヨリ板垣參謀ニ對シ別電第八四号ノ通り電報セル趣ナリ（右二電ハ北支駐屯軍へ転電シアル由）

就テハ右御含ノ上引続キ冒頭往電ノ趣旨ニ依リ宣統帝ノ連

出ヲ阻止スル様極力御尽力相成度

別電ト共ニ支、奉天へ転電セリ

別電ト共ニ北平ニ転電アリ度

（別電）

本省 11月6日後発

47 昭和6年11月7日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀への贈物中に隠匿の手擲弾發見について

天津 11月7日後発

本省 11月7日後着

第四八一号

ノ方面ヨリ諸種ノ運動ヲ行ハントスルモノアル折トテ之カ為メ帝國ノ国策遂行ニ累ヲ及ホスコトナキヲ保セサルト共ニ帝自身ノ身辺ノ保護ヲモ必要トスヘキニヨリ相当ノ警戒ヲ加ヘアル次第ナリトノコトニテ尙外務側ニ於テモ何レ満州方面ノ政情略々安定シ東三省民衆ノ総意カ帝ヲ擁スル氣運トモナリ國策遂行上支障ナキニ至ラハ之ヲ自然ニ委スルコトニ異存ナキ由ナリ

六日午後七時頃趙欣伯ノ名刺ヲ添へ果物二籠（夫々手擲弾様ノ物一個ヲ隠サレアリ）、「ビスケット」等ヲ宣統帝屋敷ニ届ケタル者アリ右使ノ支那人「ボーア」ハ仏國工部局ノ逮捕セラレ目下何人力依頼シタルカ取調中尚手擲弾ハ駐屯軍ニ於テ鑑定中ナリ詳細追報ス

白カラスト思考シ曾テ其旨外務側ニ談合シタル外務側ニ於テモ同意見ナルモ目下満州時局ニ閑連シ帝ヲ擁シテ各種

ト察シ張ニ急電ヲ寄セタルニ依ルモノナルカ其後韓ハ蔣ヨリ二百萬元ヲ貰ヒ其態度ヲ緩和セリ
四、和平會議ニ對スル蔣ノ態度強キハ宋子文ニ負フ所多ク宋ハ必要ノ際ハ党治ヲ廢止スルモ可ナリトノ強キ意見ヲ有シ現ニ經濟委員会ノ名義ヲ以テ胡適張文煥等ノ党外ノ人物ヲ集メ英米ト經濟的連繫計画ヲ進メ居リ旁蔣ハ下野ヲ見合ハスニ至レルモノナリ

支、南京、漢口、廣東、濟南、青島、天津、奉天、哈爾賓へ転電セリ

支ヨリ上海へ転報アリ度シ

支、南京、漢口、廣東、濟南、青島、天津、奉天、哈爾賓へ転電セリ

公使ヨリ上海、南京へ転報アリタシ

48 昭和6年11月8日

在北平酒井（武雄）公使館付武官輔佐
官より 小林海軍次官他宛（電報）

土肥原大佐の行動に関する北平抗日会の通電

について

北平 11月8日前11時50分発
11月8日後5時38分着
本省

第八九番電

在天津宣統皇帝ノ満州出發風説ハ奉天派ハ最モ重大視シアルトコロ北平抗日会ハ各方面ニ左記要旨ノ六日付通電ヲ發セリ奉天事變ノ巨魁タル土肥原大佐天津ニ來リ皇帝ニ復辟ヲ勧メ又失意ノ軍人政客ヲ煽動シ北支ヲ擾乱シ撤兵延期ノ口実ヲ作ラントス云々

（編注）本電報は小林海軍次官のほか「次長、一遣、二遣、馬要司令官、佐鎮參謀長、在支各地武官」に發電せられた。

49

昭和6年11月9日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津暴動勃発と非常警備施行について

天津 11月9日前発

第四八六号（暗、至急）
往電第四八五号ニ関シ

九日前一時半仏國領事（副領事ヲ同伴ス）來館仏租界境界線ノ我方警備少シク出過キタル箇所アルヲ以テ之ヲ引込マサレタキ旨並同租界内居留邦人ハ充分保護スヘキ旨申述ヘタル序ヲ以テ王樹常ヨリ電話ニテ日本軍カ發砲ヲ止ムルニ於テハ支那側モ抵抗セサルニ付日本領事ニ伝達ヲ請フト申出アリシト言ヒタルニ付冒頭往電ノ時間關係ヨリ見テモ右ハ全然誤解ニシテ我方カ支那町ト隣接シ居ル關係上單ニ警備ニ付キ居ルニ過キサル旨館員ヨリ述ヘ置キタル由尚軍カ租界外ニ出動シ居ラサルコトハ外國武官ヲシテ嚴認セシメ置クコトモ得策ト認メ軍ト協議中銃声猶絶エヌ結果不明

支、北平、奉天、南京、青島、濟南へ転電セリ

51 昭和6年11月9日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津暴動の際保安隊の射撃により沢田二等兵

死亡について

天津 11月9日前発
本省 11月9日前着

本省 11月9日前着

第四八五号（暗、至急）

八日午後十時前支那街ニ於テ掠奪アリトノ情報アリシカ十時半頃南市方面（或ハ中日學院方面カ）ニ於テ銃声聞コエ始メタルヲ以テ當館警察ニ於テハ直ニ非常警備ヲ急カシメ又駐屯軍ニ於テハ十一時半過キ頃日支境界線ニ配備ニ着キタリ目下事態判明セサルモ往電第四八四号暴動ノ發生カト思料セラル尚公安局ヨリ十一時頃東南城廓（北旭街ト支那街トノ接觸点）ニ於テ日本軍カ支那街へ發砲セリトノ報アリトテ真偽ヲ確メ來レルカ右ハ全然其事実無シ各（脱）ニ於テ逆宣伝多キニ鑑ミ為念

九日零時半引続キ銃声断続スルヲ聞ク
支、北平、南京、青島、濟南、奉天へ転電セリ

50 昭和6年11月9日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津フランス租界境界線警備に関する仏領事の申出について

天津 11月9日前発
本省 11月9日前着第四八七号（略、至急）
往電第四八六号ニ関シ

支那トノ境界線警備巡察中ノ駐屯軍沢田二等卒ハ九日午前零時頃保安隊ノ射撃ヲ受ケ即死セリ
支、北平、奉天、南京、青島、濟南へ転電セリ
支ヨリ上海へ転報アリタシ

52 昭和6年11月9日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津軍の保安隊に対する即時撤退要求並に外國武官に対する状況説明について

天津 11月9日前発
本省 11月9日前着

第四八九号（暗、至急）

軍司令部ニ於テハ往電第四八七号ノ部下ヲ殺サレタルヲ以テ王樹常ニ対シ乍前六時迄ニ支那兵ヲ租界境界ヨリ三百米後方ニ撤退方ヲ要求シタル處（保安隊ト我警備線トハ僅ニ五十米）午前四時半頃更ニ宮本曹長腹部ニ貫通銃創ヲ受ケ即死シタルヲ以テ軍ニ於テハ一刻モ猶予出来ストナシ重ネテ即時撤退方ヲ通告シタルヲ以テ省政府ヨリ當館ニ右司令

官ノ要求理由ノ説明ヲ求メタルニ依リ司令部ト打合ノ上租界警備上危険ニ付即時後退シ日支間ノ衝突ヲ避ケラレシト説得シ午前七時之ヲ実行スルコトニナリタルカ支那側ノ命令徹底セサル為メ遂ニ日支間ニ多少ノ衝突ヲ見タリ依テ事態ヲ局限スヘク目下極力斡旋中（七時半）

尚往電第四八六号末段ニ関シ九日午前二時頃英米仏伊四国ノ参謀長ヲ司令官官邸ニ招致シ我参謀長ヨリ状況ヲ説明シ尚我軍ノ警備状況ノ視察ヲ促シタルモ日本側ノ説明ヲ信賴シ特ニ実査スルノ要ナシトテ四時頃帰當セリ

公使、北平、奉天、青島、濟南、南京へ転電セリ
公使ヨリ上海へ転報アリタシ

53 昭和6年11月9日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津暴動は李際春等反動分子の策動と見られ、
中國側の誤解に抗議申し入れについて

第四九〇号（暗、至急）

往電（四九文書）第四八五号ニ関シ

天津 11月9日後発 本省 11月9日後着

レルコト往電第四八六号（其他邦人ニ対スル電話等）ニ徵スルモ明カニシテ今後共我方カ之ヲ挑発誘導セリ等宣傳スルハ必定ナルヲ以テ王樹常ニ対シテハ直ニ仏國領事ヲ通シ其誤解ヲ指摘スル一方却テ我方ニ死傷者アルヲ告ケ尚得手勝手ニ非ヲ我方ニアリトスル不埒ナル態度ニ対シテハ公安局ヲ通シ不取敢口頭ヲ以テ嚴重抗議シ置ケリ

（三）銃声ハ九日朝五時頃ヨリ漸次衰ヘタルカ租界寄リ白河岸ニアル反動分子（電話局ノ掠奪ヲ目的トセルカ如シ）ノミハ頑強ニ抵抗シ保安隊ニ於テ之ヲ攻撃セル為同方面警備士卒即死シタル次第ニシテ而モ右保安隊ノ撤退ニ付一応ノ諒解成立シ又反動派ハ逃走シタルニ拘ラス支那側カ約ニ反シ撤退セス遂ニハ我方警備兵ニ対シ發砲シタル為七時頃ヨリ我軍モ一時ハ之ニ応戦シタルカ（但租界外ニ出テス）当方ノ勧告ニ依リ支那側ハ八時頃確約撤退シタ

ル為一時ハ憂慮セラレタルカ如キ事態ノ發展ヲ見ス

四九時以後銃声極メテ稀ナリ反動派ハ南方ニ退却セル模様ナリ

（五）目下租界区域外居留邦人引揚手配中（十一時）
支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、奉天、北平、青島、濟南、南京へ転電セリ

天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

54 昭和6年11月9日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

暴動收拾のための天津市長張學銘との会談について

第四九一号（暗、至急）

九日前張學銘ト会見要領左ノ通

（一）今次暴動ノ発生ハ遺憾ニシテ日本軍カ租界警備ニ尽サルハ当然ナルカ境界線ヲ越ヘ不慮ノ衝突ヲ釀スカ如キハ避ケタシトノ張ノ言分ナルヲ以テ我軍ノ任務ハ自衛的警備ニアルモ不法ニ挑発サルレハ反撃セサルヲ得ス不幸ニシテ九日朝一時砲火ヲ交ヘタルモ右ハ貴方保安隊ノ撤退ヲ逡巡サ

（一）現在迄ノ儘ニ付テハ右暴動ハ往電第四八四号李際春等反動分子カ土匪及青幫等ヲ指嗾セル暴動ナルコト確実トナレリ

（二）支那側ニ於テハ日本租界我兵營ニ近キ南京市方面ニ於テ先ツ銃声聞エタル為当初之ヲ日本軍ノ積極行動ト見誤リ居レルコト往電第四八六号（其他邦人ニ対スル電話等）ニ

徵スルモ明カニシテ今後共我方カ之ヲ挑発誘導セリ等宣傳スルハ必定ナルヲ以テ王樹常ニ対シテハ直ニ仏國領事ヲ通シ其誤解ヲ指摘スル一方却テ我方ニ死傷者アルヲ告

ケ尚得手勝手ニ非ヲ我方ニアリトスル不埒ナル態度ニ対シテハ公安局ヲ通シ不取敢口頭ヲ以テ嚴重抗議シ置ケリ

（三）現現在迄ノ儘ニ付テハ右暴動ハ往電第四八四号李際春等反動分子カ土匪及青幫等ヲ指嗾セル暴動ナルコト確実トナレリ

（二）支那側ニ於テハ日本租界我兵營ニ近キ南京市方面ニ於テ先ツ銃声聞エタル為当初之ヲ日本軍ノ積極行動ト見誤リ居レルコト往電第四八六号（其他邦人ニ対スル電話等）ニ

徵スルモ明カニシテ今後共我方カ之ヲ挑発誘導セリ等宣傳スルハ必定ナルヲ以テ王樹常ニ対シテハ直ニ仏國領事ヲ通シ其誤解ヲ指摘スル一方却テ我方ニ死傷者アルヲ告

ケ尚得手勝手ニ非ヲ我方ニアリトスル不埒ナル態度ニ対シテハ公安局ヲ通シ不取敢口頭ヲ以テ嚴重抗議シ置ケリ

（三）銃声ハ九日朝五時頃ヨリ漸次衰ヘタルカ租界寄リ白河岸ニアル反動分子（電話局ノ掠奪ヲ目的トセルカ如シ）ノミハ頑強ニ抵抗シ保安隊ニ於テ之ヲ攻撃セル為同方面警備士卒即死シタル次第ニシテ而モ右保安隊ノ撤退ニ付一応ノ諒解成立シ又反動派ハ逃走シタルニ拘ラス支那側カ約ニ反シ撤退セス遂ニハ我方警備兵ニ対シ發砲シタル為七時頃ヨリ我軍モ一時ハ之ニ応戦シタルカ（但租界外ニ出テス）当方ノ勧告ニ依リ支那側ハ八時頃確約撤退シタ

支、北平、奉天、青島、濟南、南京へ転電セリ
支ヨリ上海へ転報アリタシ

天津暴動は日本側陰謀に基くものとする上海

天津暴動は日本側陰謀に基くものとする上海
の新聞報道について

天津暴動は日本側陰謀に基くものとする上海
の新聞報道について

第七九三号（暗）

天津發閣下宛電報第四八四号ニ閲シ

九日「チャイナ、プレス」ハ石友三ヲ總指揮トスル千余名
ノ暴徒ハ日本租界内ノ日本人側ヨリ武器ノ供給ヲ受ケテ八
日夜公安局其他ノ攻撃ヲ開始シ一味ノ者ノ本部ハ日本租界
常盤「ホテル」ニ在リトノ記事ヲ大見出ニテ掲出シ二三漢
字紙モ同様ノ記載ヲ為シ暴動ハ日本側ノ使嗾乃至陰謀ニ基
クモノナルカ如キ書振ヲ為シ居ルニ付當館出入ノ英字紙記
者並「プレスユニオン」等ヲ通シ我方ノ関与セサルコトヲ
打消シ置キタリ

公使ヘ転報シ、北平、奉天、天津、青島、漢口へ転電セリ

天津事件に関する韓復榘山東省主席の反応に

天津事件に関する韓復榘山東省主席の反応に
ついて

天津事件に関する韓復榘山東省主席の反応に

天津事件に関する韓復榘山東省主席の反応に

天津事件に関する韓復榘山東省主席の反応に

第七九三号（暗）

天津發閣下宛電報第四八四号ニ閲シ

九日「チャイナ、プレス」ハ石友三ヲ總指揮トスル千余名
ノ暴徒ハ日本租界内ノ日本人側ヨリ武器ノ供給ヲ受ケテ八
日夜公安局其他ノ攻撃ヲ開始シ一味ノ者ノ本部ハ日本租界
常盤「ホテル」ニ在リトノ記事ヲ大見出ニテ掲出シ二三漢
字紙モ同様ノ記載ヲ為シ暴動ハ日本側ノ使嗾乃至陰謀ニ基
クモノナルカ如キ書振ヲ為シ居ルニ付當館出入ノ英字紙記
者並「プレスユニオン」等ヲ通シ我方ノ関与セサルコトヲ
打消シ置キタリ

公使ヘ転報シ、北平、奉天、天津、青島、漢口へ転電セリ

公使ヘ転報シ、北平、奉天、天津、青島、漢口へ転電セリ

在濟南西田（暉一）總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

事項4 天津事件

天津暴動ニ関シ張學良ハ九日付ヲ以テ大要左ノ通電ヲ発シタリ

八日夜十時半武装便衣隊二千余名日本租界海光寺ニ集合シ十一時頃三隊ニ分レテ日本租界各街ヨリ華街ニ進出シ省市

政府及公安局ヲ目標トシ夫々前進シ來リタルヲ以テ我方ハ

保安隊及警察力ヲ以テ之ヲ防禦シタリ九日午前一時王主席

ハ真相ヲ明カニスル為人ヲ派シテ事實ヲ各外國領事ニ通告シ

注意ヲ促ス一方日本領事ニ対シ日本租界ニ於ケル便衣隊

ノ取締ヲ要求セリ四時ニ至リ日本軍司令官ハ電話ヲ以テ王

主席ニ対シ我軍警保安隊ヲ午前六時迄ニ日本租界境界線ヨ

リ三百米後退方ヲ要求シタルカ王ハ右要求ノ理由如何ヲ詰

問中又モヤ多数ノ便衣隊統々ト日本租界ヨリ進出セル情報

アリ依テ王ハ日本側ノ要求ニ理由ナク而モ現ニ極力暴徒ノ

防禦ニ努メツツアル際事實上後退シ得サル旨ヲ答ヘタルニ

拘ラス五時三十分ニ至リ更ニ威圧的催促ヲ為シ來レリ當時

便衣隊ハ漸次擊滅シタルニ依リ我方ハ日支衝突ヲ予防スル

見地ヨリ六時後退セリ六時三十分既ニ事態鎮静セントスル

折柄砲弾三十四個我城市ニ落セリ其方向ヲ見ルニ日本公

園及海光寺日本兵營ヨリ飛来セルモノニシテ目下軍警協力

警備ヲ嚴重ニシ居ル次第ナリ事件發生後逮捕シタル便衣隊ノ供述ニ依レハ日本人數名監視ノ下ニ長銃拳銃機関銃及手榴弾ヲ發給シ並ニ一人ニ付現洋四十元ノ支給ヲ受ケタル趣ナリ

巴里へ然ルヘク転電アリタシ

59 昭和6年11月10日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

張學銘の在天津列國領事に対する反日宣伝お

よび我方の釈明について

天津 11月10日後発
本省 11月11日後着

第四九七号(暗)
(五四文書)

往電第^(四)_{九一}号末段ニ關シ

張學銘ハ右本官ニ對スル直話ニ拘ラス本官トノ會見後引続キ英米仏伊獨領事トモ會見シ本件暴動ノ背後ニ日本側アル旨ヲ種々惡宣伝シタル由ニシテ十日英國總領事ノ談ニ依レハ市政府ハ七日各領事ニ対シ同夜九時乃至十一時ノ間ニ日本租界ヨリ反動分子現ハレ支那街ヲ襲撃スルニ付注意アリタク並ニ日本領事ニ対シテハ既ニ通報ノ上鎮庄方請求セル

旨ヲ述ヘ更ニ八日ニハ愈同夜其事アルヘシト告ヶ尚八日夜「レースクラブ」(外國人經營)ニ於テ七八百名ノ會員ノ

前ニ於テ同様宣伝シタル事實アル趣ナルヲ以テ同總領事ニ

対シテ當館ハ全然右様ノ通告モ要求モ受ケス唯八日午後租界内蓬萊街大平里五号ニ在ル張璧ナル者ヲ引渡サレタキ旨

申出アリ依テ日支共同ニテ現場ニ赴キタルモ同家屋ニハ王

景山居住スルコト判明セルヲ以テ支那側モ之ヲ認メ引下レ

ル事実アリ尚当方トシテハ反動派ノ間ニ何等暴動計画アル

コトハ滿州事變以來屢耳ニシタルヲ以テ警戒ヲ怠ラサリシ

次第ヲ述ヘ往電第四九一号當方ノ情報ニ依ル今次反動分子

ノ支那街ニ入レル経路ヲ説明シタルヲ以テ同總領事ハ充分

理解シタルモ改メテ領事団ニ対シ説明ノ筈尚同總領事ハ市

長ノ談ニ依レハ捕虜トナリタル便衣隊小銃ニハ三十八年ト

刻シアリ日本ノ三八式小銃ト認メラレ恐ラク日本側カ供給

シタルモノナルヘク又九日朝我軍カ支那側反撃ノ際

trenchmotorヲ發砲シタル由ニテ本官ノ意見ヲ尋ネタルヲ

以テ本官ハ未タ其事実ヲ知ラス仮ニ然リトスルモ從来日本

始メ各国共ニ支那ニ武器ヲ正当ニ売込ミタルコトアルヲ以

テ直ニ今次日本人カ供給シタルモノナリト早断スルヲ得ス

又 trench-motor 発砲ノコトハ承知セスト答へ置ケリ
佐、支、北平、青島、濟南、南京ニ転電セリ
支ヨリ上海へ転電アリタシ

60 昭和6年11月10日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

天津日本租界と中國街との境界における発砲

事件につき中國側への警告について

天津 11月10日後発
本省 11月11日後着

第四九八号(暗)

当租界北部橋立街ト支那街境界線ノ我方警備ニ対シ九日以來累次發砲スル便衣ノ支那人アリ十日午後二時過又復我方ニ対シ發射セシヲ以テ我方ハ故意ト認メ反撃シタルカ即死セシ模様ナル由支那側ニ対シテハ嚴重警告シ置ケリ

公使ヨリ上海、南京へ転報アリタシ

支、北平、奉天、青島、濟南へ転電セリ

61 昭和6年11月10日 在北平矢野參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

天津事件と日本との関連に関する張學良の見

解について

北平 11月10日前後
本省 11月10日後着

第六二五号（暗）

天津事件ニ関シ此ノ際本官ヨリ学良ニ対シ何等申入レ置ク事然ルヘシト考ヘ九日学良ヲ往訪シ

一、本官ヨリ唯今迄ノ報告ニ依レハ天津ハ今朝來漸次平靜ニ帰シ居ル模様ナルカ此ノ際同地官憲ニ対シ日本トノ間ニ問題ヲ起ササル様嚴重訓令ヲ發セラレタク尚北平ニ於テハ一層日本居留民ノ保護ニ遺漏ナキヲ期セラレタキ旨述ヘタルニ学良ハ京津地方ニ於テ問題ヲ起ササル様從来共苦心シ居ルハ御承知ノ通ナル處日本側ニ於テモ右ノ方針ニ基キ充分御協力アリタク天津官憲ニハ早速然ルヘク申遣ルヘキニ付桑島總領事モ王樹常ト密接ナル連絡ヲ採ラル様切望ス又北平ニ付テハ日本人ノ保護ハ當然ノ事ニテ從前通リ貴官ト密接ナル連絡ヲ希望スル旨答ヘタリ

二、本官ハ其ノ際昨夜ノ事件ニ日本側關係アルヤノ宣伝ハ全然事實無根ノ旨我方ノ情報及軍司令官ノ声明等ヨリ適當説明シ支那側宣伝ノ不都合ナルヲ述ヘタル處張ハ聊カラル様切望ス又北平ニ付テハ日本人ノ保護ハ當然ノ事ニテ從前通リ貴官ト密接ナル連絡ヲ希望スル旨答ヘタリ

三、本官ハ其ノ際昨夜ノ事件ニ日本側關係アルヤノ宣伝ハ全然事實無根ノ旨我方ノ情報及軍司令官ノ声明等ヨリ適當説明シ支那側宣伝ノ不都合ナルヲ述ヘタル處張ハ聊カラル様切望ス又北平ニ付テハ日本人ノ保護ハ當然ノ事ニテ從前通リ貴官ト密接ナル連絡ヲ希望スル旨答ヘタリ

四、本官ハ其ノ際昨夜ノ事件ニ日本側關係アルヤノ宣伝ハ全然事實無根ノ旨我方ノ情報及軍司令官ノ声明等ヨリ適當説明シ支那側宣伝ノ不都合ナルヲ述ヘタル處張ハ聊カラル様切望ス又北平ニ付テハ日本人ノ保護ハ當然ノ事ニテ從前通リ貴官ト密接ナル連絡ヲ希望スル旨答ヘタリ

62 昭和6年11月10日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件に関する張學良の通電について

北平 11月10日後着
本省 11月11日前着

支、南京、廣東、青島、濟南、天津、奉天、哈爾賓へ転電セリ
二個旅（万福麟所属ノ千兆麟姚東藩）ヲ出動セシメタルカ北平ヘハ未夕何軍ニ対シテモ出動ヲ命シ居ラサル旨語リ居タリ

尚学良ハ天津治安維持並ニ平津間鐵道保護ノ為郎房駐屯ノモ学良ハ容易ニ耳ヲ藉ス模様ナカリキ（本項部外秘）

興奮ノ面持ニテ実ハ今回ノ事件ニ付テハ當方ハ詳細ニ知悉シ居リ現ニ海關ヨリハ本件便衣隊使用ノ武器ヲ輸入セル船名種類及數量等詳細ナル報告アリ且右便衣隊カ當時日本租界ヨリ支那側ニ出入セル事及捕虜トセル便衣隊ノ申立等ニ照ラシ貴方ニ於テ如何ニ説明セラルモ本件ニ日本側ノ關与ナシトハ首肯シ得サル旨強ク述ヘタルヲ以テ本官ハ副司令カ誤リタル報告ヲ信シ斯ノ如キ言ヲナサルルハ意外ナリトテ我方ノ公正ナル立場ヲ反覆説明セルモ学良ハ容易ニ耳ヲ藉ス模様ナカリキ（本項部外秘）

第六二六号（平）

九日発張學良通電要領左ノ通

八日晚十時半天津三便衣武装ノ支那人二千余名日本租界海光寺ニ集結セルカ事件勃發後逮捕セラレタル者ノ供述ニ依レハ彼等ハ日本側ヨリ輕機関銃歩兵銃手榴弾及四十元宛受領シ且日本人ノ監視ヲ受ケ居タル由ナリ十一時頃海光寺ヨリ百余名中國警察署ヲ襲撃セルカ大部隊ノ便衣隊ハ日本租界ヨリ省政府公安局ニ向テ前進セルヲ以テ市保安隊及警察ニ於テ協力防禦セリ九日午前一時王省政府主席ハ各國領事ニ對シ事實ヲ通知シ日本領事ニ對シテハ日本租界内便衣隊ノ取締ヲ要求セリ午前四時日本軍司令官ハ王主席ニ対シ中國軍隊保安隊及警察等ヲ午前六時迄ニ日本租界ヨリ三百米以外ノ地域ニ撤退方要求セリ然ルニ大部隊ノ便衣隊カ引続キ日本租界ヨリ出動ノ報アリタル為王主席ハ日本側要求ノ毫モ理由無キヲ認メ日本租界ヨリ三百米以内ニハ中國軍隊無ク單ニ保安隊及警察ニ於テ治安維持ニ任シ居リ目下極力暴徒防禦中ナレハ事實上撤退ヲ命令スルニ便ナラサル旨答ヘタリ五時半ニ至リ日本側ヨリ重ネテ督促アリ當時中國警察ハ既ニ漸次便衣隊ヲ擊破シツツアルヲ以テ王主席ハ警

察ト日本側トノ衝突防止ノ見地ヨリ六時前之カ撤退ヲ命セリ六時三十分事態既ニ鎮静ニ帰シツツアリタルニ突如砲弾三十余發中國市街ニ落下セリ其方向ヨリ察スルニ正ニ大和公園及海光寺日本兵營ヨリ來レルモノノ如シ目下引続キ軍警協力シ嚴密警戒中ナリ

公使ヨリ上海ヘ転報アリタシ
公使、南京、漢口、廣東、青島、濟南、天津、奉天、吉林、哈爾賓ヘ転電セリ

63 昭和6年11月10日 在北平矢野參事官より
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀は天津事変勃發に乘じ天津脱出との情報について

北平 11月10日後着
本省 11月11日前着

第五七号（極秘）
本官發天津宛電報

宣統帝ハ八日夜天津事件勃發ニ乘シ秘カニ離津シ満州ニ向ヒタルヤノ趣旗人側ヨリ聞込アリ真偽判明セサルモ為念

大臣、支、南京、奉天へ転電セリ

64 昭和6年11月10日

在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛(電報)

天津事件に関する張學良の在ジユネーヴ施代

表への打電について

北平 11月10日後発
本省 11月11日前着

第六三〇号(略)

譲報ニ依レハ九日学良ハ在寿府施代表ニ対シ大要左ノ通打
電セル由

天津市政府ヨリ土肥原ハ天津着後浪人ヲ召集シ失意ノ軍人
ト連絡シ治安ノ撃乱ヲ企図シ居ル旨又保安隊密偵ヨリ土肥
原ハ[一]先ツ廢帝ヲ勧誘シテ東三省ニ迎ヘ独立國ヲ組織スル

事[二]山東山西ノ軍閥ヲ煽動シテ学良驅逐ノ兵ヲ起サシムル
ノ活動能力ヲ殺滅シ且紛擾ヲ起シテ之ヲ利用スル事[四]失意
軍人ト連絡シテ天津北平張家口唐山ニ於テ便衣隊ヲ組織セ
シメ治安ヲ撃乱シ日本側最後ノ希望ヲ達セントスル事等ノ
計画アル旨ノ報告ニ接セリ然ルニ八日事件発生セルカ同日

便衣隊ハ日本租界ニ集合シ海光寺ニテ武器ヲ受領セル後支

那街ヲ襲撃シ且変装セル日本人之ヲ指揮シ又支那警察ハ日
本軍服ヲ着セル日本武官ヲ射殺セルカ屍体ハ暴徒ノ為持去

ラレタリ日本カ支那軍警ノ撤退ヲ要求セル事九日朝砲撃セ
ル事及爾後犯人ノ供述等ニ顧ミ日本側カ暴徒ヲ援助セルハ

ル事ナリ云々

支、南京、奉天、天津へ転電セリ

65 昭和6年11月10日

在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛(電報)

張學良の天津事件対策に関する情報について

第六三一号(暗)

譲報ニ依レハ学良ハ九日首脳部會議ヲ開催シ天津事件対策
討議ノ結果左記五項ヲ決議セル由

一、各国公使館ニ人ヲ派シ今次事件ヲ説明スルト共ニ駐津
領事及武官ニ対シ嚴重日本人ノ行動監視ニ付命令方請求ス
ルコト(本項目下調査中)
二、英米仏伊等各国ノ駐平武官及欧米新聞記者ヲ招キ日本

北平 11月10日後発
本省 11月11日前着

ノ平津地方擾乱陰謀計画ヲ説明シ右本国へ宣伝方依頼スル
コト

三、天津市長ニ対シ如何ナル犠牲ヲ払フモ徹底的ニ土匪輩
ノ撲滅ヲ命スルコト

四、九日以後北平、天津、唐山、張家口ヲ準戒厳ノ下ニ置
キ十二時後ハ通行ヲ禁止スルコト

五、天津市政府ニ命シ捕縛セル暴徒犯人ヲ北平ニ護送セシ
メ事件ノ真相ヲ糾明スルコト

公使ヨリ上海へ転報アリタシ
公使、南京、天津、奉天へ転電セリ

~~~~~

66 昭和6年11月10日 在上海村井總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津暴動は日本側の陰謀との上海漢字新聞の

報道について

上海 11月10日後発  
本省 11月10日後着

第七九四号(略)  
往電(五五文書)  
第七九三号ニ関シ

十日ノ当地漢字新聞ハ引続キ天津暴動ハ日本側カ反張系便

公使へ転報シ北平、奉天、天津、南京へ転電セリ

67 昭和6年11月11日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津における十日夜から十一日朝にいたる文

## 戰情況について

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一号（暗、至急）

十日昼間ノ状況ハ支那街ニ於テ時々銃声聞ユル程度ナリシ  
カ夜ニ入ルヤ次第ニ頻繁トナリ殊ニ十一日午前二時ヨリ約  
一時間ニ亘リ南市一帯並三不管方面（租界隣接地域ニシテ  
下層階級及浮浪人ノ巣窟）ニ於テ猛烈ナル小銃戦トナリ

（三、四発砲声モ聞ユ）午前三時南市第六区公安分局ニ確カ  
メタル處白河下流方面ヨリ英仏租界ノ外側ヲ迂回シ八里台  
ヲ經テ押シ寄セタル土匪団トノ交戦ニシテ大体退散セシメ  
タル由ニシテ爾後銃声次第ニ弱レルニ拘ラス我方警備個所  
(特ニ境界線ノ北半分)ニ対スル発射ハ却テ多クナリ十一  
日朝七時歩兵隊長ノ報告ニ依レハ支那側三百米ノ制限ニ反  
シ場所ニ依リテハ五十米乃至二百米ノ近距離ニ近寄リ故意  
ニ射撃セルヲ以テ我方モ之ニ反撃ヲ加フルノ余儀ナキニ至  
レル由夜來租界内各處トモ弾丸飛来シ當館ニ於テモ絶エス  
之ヲ聞キタルカ尚租界ノ西南端ニアル上水道「タンク」  
(日本租界用ノモノ)ニ命中セル弾丸數十アル模様ニテ漏

### 情勢緊迫につき居留民のため避難船手配方希 望について

天津 11月11日後発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二号（暗、大至急）

十日便衣隊ノ活動ハ一時殆ト終熄セシカ支那正規軍多数郊  
外ニ集結シ一部ハ保安隊ニ加ハレルノミナラス支那街ニ於  
テ防備工事ニ着手シタル趣伝ヘラレ駐屯軍ニ於テハ之トノ  
衝突ヲ懸念シ境界線ノ防護工事ヲ愈々固メタルカ一方公安  
局便衣隊我租界ヲ襲撃スヘシトノ謠言モアリシタメ我兵ハ  
愈神經過敏トナリ一時ハ仏國租界トノ往復モ外国人ヲ除キ  
殆ト禁止同様トナシ從テ租界内ハ日用品購入ニ不自由ヲ訴  
フルニ至リ加フルニ軍側ニ於テ当地ノ情勢ハ全ク滿州同様  
トナリ（脱）セル旨放言セルモノアル由ニ付十日午後司令  
官自重及訓令ノ徹底ヲ夫々要求シ極度ニ緊張シ來レル

我方感情ノ融和ニ力メ居リ引続キ本日午後領事團ヲモ動カ  
シタキ意向ナルカ歩兵隊ニ於テハ正規軍カ保安隊ニ編入セ  
ラレ統制ヲ失ヒ我方ヲ射撃スルハ挑戦的行為ニシテ之以上  
辛抱シ得サルニ付僅五百ノ兵力ナルモ租界ヲ灰ニスル覺悟

ニテ之ニ反撃応戦スヘシトノ肚ナリト伝ヘラレ本官等ニ於  
テ昨夜來不眠不休ニテ極力衝突防止ニ努メ居レルモ危険逐  
日切迫シツツアルモノト認ム就テハ右衝突ノ場合ヲ考慮シ

有度ク尚不取敢避難船ノ廻航方（千二百噸位ノ船ハ天津マ  
テ遡江シ得）至急御手配アリタシ

巴里ヘ可然転電アリタシ

官ニ対シ軍部殊ニ第一線ノ自重ヲ促スト共ニ速ニ事態復旧  
ヲ講スル要アル旨懇談スルト共ニ館員ヲシテ市政府代表者  
ニ対シ日本租界及我軍ニ対スル射撃ヲ厳禁シ日支衝突ノ危  
険ヲ除去スルコト肝要ナル旨累次申入レシメ尚往電第五〇

一号十日夜ノ事態ニ鑑ミ更ニ三十一日朝以来司令官及支那側  
ニ対シ自重及訓令ノ徹底ヲ夫々要求シ極度ニ緊張シ來レル

我方感情ノ融和ニ力メ居リ引續キ本日午後領事團ヲモ動カ  
シタキ意向ナルカ歩兵隊ニ於テハ正規軍カ保安隊ニ編入セ  
ラレ統制ヲ失ヒ我方ヲ射撃スルハ挑戦的行為ニシテ之以上  
辛抱シ得サルニ付僅五百ノ兵力ナルモ租界ヲ灰ニスル覺悟

ニテ之ニ反撃応戦スヘシトノ肚ナリト伝ヘラレ本官等ニ於  
テ昨夜來不眠不休ニテ極力衝突防止ニ努メ居レルモ危険逐  
日切迫シツツアルモノト認ム就テハ右衝突ノ場合ヲ考慮シ

有度ク尚不取敢避難船ノ廻航方（千二百噸位ノ船ハ天津マ  
テ遡江シ得）至急御手配アリタシ

支、北平、濟南、青島、奉天、南京へ転電セリ  
支ヨリ上海へ転報アリタシ

水シ初メ此ノ事態継続スルニ於テハ懸念セラル  
奉天、青島、濟南、南京、支、北平へ転電セリ  
支ヨリ上海へ転報アリタシ

68 昭和6年11月11日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日後発  
本省 11月11日後着

### 第五〇四号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇九号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一一号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一二号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一三号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一四号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一六号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一七号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一八号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇一九号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二一号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二二号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二三号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二四号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二六号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二七号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二八号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇二九号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三一号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三二号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三三号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三四号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三六号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三七号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三八号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇三九号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇四〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇四一号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇四二号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇四三号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇四四号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇四五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇五〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇五五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇五六号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇五七号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇五八号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇五九号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六一号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六二号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六三号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六四号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六六号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六七号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六八号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇六九号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七一号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七二号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七三号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七四号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七六号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七七号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七八号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇七九号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八一号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八二号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八三号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八四号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八五号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八六号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八七号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八八号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇八九号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇九〇号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇九一号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇九二号（暗、至急部外極秘）

天津 11月11日前発  
本省 11月11日後着

### 第五〇九三号（暗、至急部外極秘）

日暴動発生当夜深更當租界ニ居住スルコト危険ナリヤト側

ついて  
別電 同日桑島總領事より幣原外相宛第五〇八号  
右張天津市長の抗議について

近者ニ尋ネラレタル事実アリ直ニ為念巡捕三名ヲ増加シ内  
外警備ニ当ラシメ爾來何等邸内ニ異常無カリシコト及八日  
軍側ニ対シ重ネテ中止勧告ヲ為シタル際目下連出計画ナキ

旨確メタルコトアルモ帝ハ暴動以来不快ト称シテ引籠リ居  
リシヲ以テ側近者ヲ嚴密取調ヘ漸ク自白セシメタル所ニ依

レハ警察官及巡捕ニ發見セラルコトハ帝ノ最モ恐レタル  
所ナルカ予テ買物用トシテ用事ヲ拵ヘ使ヒ價シ居ル「オー  
ブン」自動車二十日夕刻英租界ニ在ル皇妹ノ衣服等一包ヲ  
運ハセ更ニ目ヲ盗ンテ帝自身ヲ荷物トシ積込ミ逃カシ塘沽  
行「タッグボート」ニ乗リ込マシメタリトノ趣ナリ軍部ニ  
対シテハ予テ切実ニ自重ヲ求メ居リ又前述ノ經緯アルモ若  
シ何等事情アラハ打明ケラレタキ旨懇談セシメタルモ關係  
セストノ由一方塘沽派遣警察官ニハ取調ヲ命シタルモ未タ

回報無シ

公使、北平、奉天へ転電セリ

71 昭和6年11月11日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 天津事件に關し張市長の抗議に対する弁駁に

第五〇八号(別電、暗、至急)

天津 11月11日後着 本省 11月11日後発  
本省 11月11日後着

(別電)

別電ト共ニ巴里、米、公使、北平、奉天へ転電セリ

巴里ヨリ在欧各大使へ転電シ連盟事務局長ニ転報アリ度シ

ト弁駁回答シ置キタリ

八日夜十時半一千余人ノ便衣隊日本租界ヨリ進出シ警察署  
ヲ攻撃セリ九日朝五時便衣隊ノ形勢稍々衰フルヤ日本軍ハ

開口(電話局付近ヲ云フ)ニ鉄甲車二台ヲ出シ我方ヲ威嚇  
シ六時ニハ大砲ヲ以テ公安局及電話局ヲ射擊シ公安局前面  
ニ砲弾落下セリ又逮捕セル便衣隊ノ自白ニ依レハ便衣隊ハ  
貴租界ニ於テ組織セラレタル由本市長ハ事前ニ之ヲ知リ屢  
々貴官ニ対シ逮捕方ヲ申入タルカ未タ之カ實行無キ間ニ遂  
ニ事故發生セリ以上治安擾亂ノ行為ハ貴当局ノ放任ノ結果  
ナレハ相当ノ責任ヲ負ハルト共ニ乱徒ノ陰謀ニ対シ嚴重  
取締ヲ加ヘ引渡相成度シ又日本司令官ハ支那警察ノ三百  
「メートル」後退方ヲ要求シタル處右ハ支那街ノ治安維持  
ニ支障アルニ付之ニ応スル理由無キモ睦誼ヲ顧念シ誤解ヲ  
避クル為後退セシタルヲ以テ貴方ニ於テモ適宜租界境界  
線ヨリ後退アリ度シ

72 昭和6年11月11日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 天津事件の收拾に關し張市長らとの協議につ いて

天津 11月11日後発

(一)日支双方共絶対ニ相互射擊セサル事

(二)中立地帶内ニ潜伏スル便衣隊ノ搜査ヲ十二日ヨリ我方ニ  
通告ノ上実施ス

(三)支那側ノ誤解ヲ避ケ日本側ノ公正ナル行動ヲ示ス為私服  
ノ武装セサル支那警察特務隊員ヲ租界ニ入レ我方立会ノ下

## 二 日本警備線ヲ視察セシム

四中立地帶内ナルモ便衣隊侵入防止ノ為租界ニ接続セル海光寺方面ニ於ケル支那側防禦線ヲ認メ日本軍ハ必要ナル援助ヲ惜マス

ノ各項ヲ協定シ即時双方ヨリ命令ヲ下シタルヲ以テ夕方租界近傍ニテ相当聞コエ居リシ銃声モ止ミ（午後八時半）此ノ分ナラハ先ツ事態拡大ヲ防止シ得ル見込就テハ往電第五〇二号末段申入レノ次第ハ差当リ必要ナカルヘク此儘状勢ヲ見送ル事ト致シタシ

在仏大使ヨリ在欧各大使ニ転電シ連盟事務局長ニ転報アリタシ

米、仏、支、北平、奉天へ転電セリ

73 昭和6年11月11日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

## 天津事件收拾のため中立地帶に於ける監視方

## 中国側より提案について

第五一〇号（暗、至急）

天津 11月11日後発  
本省 11月11日後着

74 昭和6年11月11日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

## 溥儀天津脱出の経過に関する報告について

天津 11月11日前發  
本省 11月11日後着

第五一二号（暗、大至急部外極秘）  
往電（六九文書）第五〇三号ニ関シ

米、仏、奉天、支、北平へ転電セリ

75 昭和6年11月11日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

塘沽警察ヨリノ報告ニ依レハ陸軍運輸部小蒸氣船比治山丸ハ十一日未明土囊等防備材料ヲ積込ミ天津ヨリ到着シタルカ午后大沽「バー」ニ出掛ケタル模様ニシテ其後運輸部ヨリ軍用電話ヲ以テ「荷物ヲ無事淡路丸ニ届ケタル」旨天津ニ通知セルヲ聞キタル由右ニ依レハ帝ノ脱出ニハ軍部方面ノ予備行為アリ目下該船舶ニ依リ當口へ航行中ト認メラル軍側ニ就キ真相確メ中ナルモ不取敢（十時）  
支、北平、奉天へ転電セリ

湯爾和と天津事件收拾に關し懇談について  
北平 11月11日後発  
本省 11月11日後着

第六三七号（暗、至急）

本官天津宛電報第五八号  
大臣宛電（六一文書）第六二五号ニ関シ

一、十一日湯爾和來訪シ日本租界内ノ支那人ハ日本人ノ九倍モアリ食料品ハ漸次欠乏シ来ル現状ニテ速ニ方法ヲ講スル必要アル処其後モ銃声聞エ依然便衣隊カ日本租界ヨ

往電第五〇九号協議ノ際中立地帶（三百「メートル」）ニ於ケル日支間ノ射撃ヲ防止スル方法トシテ支那側ハ右地帶ニ第三國軍隊、新聞記者若ハ一般人ヲ入レ便衣隊ノ活動防止或ハ監視ニ當ラシムルカ又ハ外國領事ヲシテ一応状況ヲ視察セシムルカ何レカニシタキ旨申出テタルヲ以テ本官ハ之ヲ拒絶シタルカ右協議終了約半時間後英國總領事ヨリ電話ヲ以テ支那人ノ談ニ依レハ日本側ヨリ第三國軍隊ヲ用ユル案出テシ由ナルカ結果如何ト問合アリ右支那側案ハ或ハ英國ノ発案カトモ察セラル節アルニ付御参考迄

在仏大使ヨリ在欧各大使ニ転電シ、連盟事務局長ニ転報アリタシ

在仏大使ヨリ在欧各大使ニ転電シ、連盟事務局長ニ転報アリタシ

二、次ニ湯ハ此上問題ヲ起ササル為王樹常カ司令官及桑島總領事ト面談スル方宜シキヤニ考フルモ司令官ニ於テ会見ヲ拒絶セラルルコトナカルヘシト述ヘタル處湯ハ王ノ許ニ日本通ナク日本側トノ連絡不十分ニ付周章光ヲ派遺ノコトトナリ同人ハ十一日夜赴津ノ筈ナリト述ヘタリ

三、尚本官ヨリ張学良ノ通電ハ單ニ支那側ノ謬リタル報告ニ基キ輕々ニ發出セラレタルモノニテ副司令ノ地位ニモ顧ミ甚シク不都合ナルヲ詰リ新聞宣伝取締方更ニ嚴重申

入レ置ケリ

外務大臣、在支公使、南京、廣東、青島、濟南、奉天、哈爾賓ニ転電セリ  
支ヨリ上海へ転報アリタシ

76 昭和6年11月11日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）  
張學良の事件解決への意向につき湯爾和より  
連絡について

第六三八号（暗、至急）  
本官發天津宛電報  
第五九号

第六三八号（暗、至急）  
本官發天津宛電報

往電第五八号ニ閲シ

湯爾和ハ辭去後間モナク電話ヲ以テ左ノ通申越セリ

一、只今御話ノ次第詳細ヲ副司令ニ報告セル處副司令ハ直ニ之ニ同意シ既ニ王樹常ニ対シ保安隊並ニ便衣隊ノ取締方嚴重電命セルニ付日本側ニ於テモ取締ヲ此ノ上トモ厳ニスル様御取計ヲ得タシ

往電第五八号ニ閲シ

二

77 昭和6年11月11日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）  
大臣、支、南京、廣東、青島、濟南、公使、哈爾賓ヘ転電セリ

天津治安維持につき張學良より各公使館あて  
協力要請について

北平 11月11日後発  
本省 11月11日後着

三

二、日本側トノ連絡ノ為或ハ自分（湯）モ赴津スルヤモ知レス

三、只今天津ヨリノ電話ニ依レハ桑島總領事及王樹常間ニ  
(イ)支那側ハ保安隊ノ防禦工事ヲ即時撤去シ日本側ハ便衣隊等不穩分子ノ取締ヲ嚴重ニスルコト及(ロ)日本租界ヨリ三百米ノ間ニ各國軍隊ヲ配置シテ緩衝地帯ヲ形成スルコトニ諒解成レリ然ルニ(ロ)ニ付テハ早速桑島總領事ヨリ書面ヲ以国側ニ申入レタル處各國側ハ日支両當局者ヨリ書面ヲ以テ正式申出アラハ改メテ考慮スヘキ旨答ヘ本案ニ難色ヲ示シタル趣ナリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

第六三九号（暗）  
往電第六三一号ノ一二閲シ  
關係各国公使館ニ問合セタル処九日早朝学良ハ代表者（蔡元及チンソドウ）ヲ各公使館ニ派シ在天津各國軍隊ノ天津治安維持ニ付支那側トノ協力方並ニ在天津各國領事ノ事件共同調査方ニ付極ク非公式ニ申入レシメタル由ナルカ各公使館ハ何レモ右申入レカ文書ニ依ラス單ニ口頭ニテ為サレ其趣旨明確ナラサルモノアリ又天津ニハ各自國領事モ居り目下ノ處当地ヨリ之ニ対シ指図スヘキ場合ニアラスト認メ右申出ヲ聞キ流シタル模様ナリ尤モ米國ハ本国政府ニ電報シタルモ其以外ノ措置ハ執ラサル趣ナリ  
公使、奉天、天津ニ転電セリ

昨日張學良代表范甫江來濟セル處本十一日ノ中國紙ニ依レハ同人下車後新聞記者ニ対シ万福麟ニ代リ來濟セリト冒頭シ大要左ノ如ク語リタル趣ナリ  
一、今回ノ天津事件ハ日人カ多數ノ無賴ノ徒ヲ一人四十元ニテ雇ヒ入レ之ニ武器ヲ支給シ八日夜日本租界ヨリ出發シ擾亂セシモノナルカ我軍警事前ニ探知シ嚴重防備シ之ヲ擊退セリ張副司令ハ右暴徒ニ日軍ノ加担氣遣ヒ軍艦城ヨリ一團ヲ天津ニ輸送シテ防禦ニ努メシカ日軍ハ加入セス只發砲（十數發）セシノミニテ我方抗議ニ対シ日軍之ヲ否定シ中國人ノ行為ト抗弁シ且又警察ト日軍トノ距離ヲ三百米トシ衝突ヲ避ケタキ旨申出アリタリ現在同地平靜ニ帰セシモ再挙ヲ計ルヲ慮リ今尚嚴重警備中ナリ  
云

78 昭和6年11月11日 在濟南西田總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
天津事件を日本の謀略とする張學良代表者の  
談話について

濟南 11月11日後発  
本省 11月12日後着

第二四九号（暗）

尚范ハ兩三日中ニ帰北ノ予定ナリト  
支ヨリ上海漢口ヘ転報アリタシ  
ミ又ハ飛行機六台ハ隨所ニ投弾シテ擾亂ヲ計リ居レリ我馬占山軍ハ極力之ニ抵抗シ日軍ニ屢々打撃ヲ与ヘタリ云云

#### 事項4 天津事件

ナキ見込尚一（脱）人ヨリ得タル確実ナル情報ニ依レハ帝  
ハ当地ニ於テ勳章製造方ヲ命セラレタル由  
支、奉天、北平へ転電セリ

天津における民心の興弛は  
界当局の警戒体制について

邸ノ上外國ニ逃ケタル」モノト感付キ居ル趣ナルカ從前同様彼等ハ總テ構内ニ起居シ居ルニ付到底外部ニ漏ルルコトナキ見込尚一（脱）人ヨリ得タル確実ナル情報ニ依レハ帝ハ当地ニ於テ勲章製造方ヲ命セラレタル由  
支、奉天、北平ヘ転電セリ

静養中ナル次第ヲ答へ老臣連中モ從来通り出仕シ極力極秘ヲ保ツ考ニテ（皇后モ帝ノ脱出ヲ承知ナク十日夜銃声ノ為眠ラレス十一日午後三時起床セラレタル際初メテ之ヲ打明ケ目下事実ヲ承知セルハ右以外合計四人ナル由）食事ノ如キ些細ノ点迄充分注意シ居ル旨述へ居リ一方警衛巡查ノ報告ニ依レハ警護巡捕ハ「帝ハ予テ脱出中ノ処十日夜一応帰

第五一四号（暗、大至急、部外極秘）  
往電第五〇三号ニ閱シ

本省  
1月12日後着

天津  
11月12日後發  
本省  
11月12日後着

合第一四二一號（暗、至急極秘）  
宣統帝脱出三閥スル件  
宣統帝ハ十日天津ヲ脱出シタル趣ニテ滿州方面ニ向ヒタル  
模様ナルニ付同帝ノ行衛御探査ノ上御回電アリ度シ  
支、北平、天津、南京ヘ転電セリ

|    |          |               |               |          |            |    |                                                                                        |
|----|----------|---------------|---------------|----------|------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 本省 | 11月11日後発 | 溥儀の行方探査方にについて | 在奉天林總領事他宛（電報） | 幣原外務大臣より | 昭和6年11月11日 | 80 | 機密第七〇番電（塘沽十六駆逐隊機密第二二番電十一日午後四時）宣統廢帝昨十日夜密ニ天津脱出本日當口ニ向ヘリ（編注）本電報は小林海軍次官のほか「次長、北岡武官」に発電せられた。 |
|----|----------|---------------|---------------|----------|------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------|

79  
昭和 6 年 11 月 11 日 津田（静枝） 第二遣外艦隊司令官より  
小林 海軍次官他宛（電報）  
溥儀當口に向け天津脱出について

81  
昭和6年11月12日  
在天津柔島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
溥儀脱出に関する中国新聞記事について

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀當口に向け天津脱出について

## 導儀脱出に関する中国新聞記事について

球磨 11月11日後8時25分発  
11月11日後11時28分着

天津 11月12日前發  
本省 11月12日後着

卷之三

天津 11月12日前發  
本省 11月12日後着

について

昭和6年11月12日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）  
天津市街における射撃中止を中國側に

支、北平、奉天へ転電セリ

本省 11月13日前着

## 第六四一号（暗）

本官発天津宛電報

第六一号

十二日歩兵隊ヨリ軍司令部ヨリノ電話ニ依ル趣ヲ以テ

一、十二日午後(一)南開大街ニ於テ支那保安隊二十数名赤十字旗ヲ掲ケテ我カ守備区域前約三百米突ニ接近シ突然我方ニ向ヒ猛烈ニ射撃セルコト(二)天津東馬路ニ於テ支那人屍体ヲ我カ防備区域前二百米突ノ地点ニ運ヒ來リ之ヲ撮影セルコト及(三)支那側委員ト支那街三於テ会見シタル三浦參謀カ帰途支那街ヲ離ルルヤ支那側ハ同參謀一行ヲ猛射セルコト通報アリ直ニ館員ヲシテ湯爾和ニ会見セシメ桑島總領事ト王樹常間ニ相互ニ射撃ヲセサルコトニ諒解

成立シ居レルニ拘ラス支那力依然発砲シ居ルハ甚タ不都合ナルニ付此上事態ヲ悪化セシメサル様至急副司令ヨリ王樹常ニ厳命方申入シメタルニ湯ハ早速右様取計フヘキ旨述ヘタル由

支ヨリ上海へ転報アリタシ

大臣、支、南京、青島、濟南、奉天へ転電セリ

十二日午前十時半軍司令部ヨリ宣統帝ノ動靜ニ關シ新聞掲載禁止発令方関東厅ニ依頼シタル旨電話アリタルニ依リ宣統帝ノ着満ハ事實ト認メラルル處外國領事間ニモ宣統帝十一日着満ノ噂伝ハリ居レリ目下動靜探査方手配中ナルモ不敢取敢

支、北平、天津へ転電セリ

86 昭和6年11月12日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

## 溥儀來満後の処遇に關し本庄司令官との会談

について

奉天 11月12日後發  
本省 11月12日後着

大臣、支、南京、青島、濟南、奉天へ転電セリ

## 第一二五八号（暗、極秘）

(八〇文書)

貴電合第一四二一号宣統皇帝ノ來満ニ關シ十二日軍司令官ニ尋ネタル處司令官ハ何等聞知スル處ナク數日前皇帝ノ來満ハ未タ機熟セサルヲ以テ急クヘカラサル旨板垣參謀ヲシテ天津軍ニ通報セシメ置キタル程ナリト答ヘタルヲ以テ本官ハ黑龍江方面ノ軍事モ片付カス各地ノ政権モ未タ確立セス將又國際關係モ頗ル緊張セル今日直ニ復辟ヲ實行セントスル計画ハ頗ル策ヲ得タルモノニアラス仮令同皇帝來満スルトモ直ニ擁立セシムルカ如キコトナキヲ得策トスト言ヘルニ同司令官モ大体卑見ニ同意シ仮令來満スルモ直ニ運動ヲ起サシムルコトナカラシムル様努ムヘク尚來満ノ上ハ速ニ當方ニ通知スヘキコトヲ約セリ

支、哈爾賓、北平、天津、吉林へ転電セリ

## 貴電合第一四二一号ニ關シ

(八〇文書)

當館ノ探査スル處ニ依レハ宣統帝ハ十一月十日前天津租界ヲ脱出シ日本船淡路丸ニ搭乗シ本邦人上角利一ヲ案内人トシ一行約二十名十一月十三日午前七時頃當口満鉄埠頭着ノ趣ナリ

尚二、三日前ヨリ商、佟、錢ナル三名ノ支那人北平、天津、大連ヨリ來レリト称シ付屬地日本旅館ニ投宿シ終日引籠リ居レルカ右ハ何レモ清朝ノ旧臣ニシテ其内一人ノ如キハ白髯ヲ蓄ヘ人品卑シカラサル人物ニシテ清朝重臣劉某ナリトノ風説アリ右何レモ先発トシテ當市ニ潜行セルモノノ如ク明朝ハ更ニ奉天ヨリ多數支那側要人ノ出迎ヘアル趣ナリ當地憲兵隊ニ於テハ貴電接到前既ニ本件ニ關シ何等入報アリタルモノノ如ク夜半ヨリ活動ヲ開始シ居レルカ憲兵分遣隊長ノ内話スル處ニ依レハ該船當口着ト共ニ一行ノ保護ニ付テハ一切軍部ニ於テ措置スヘク尚一行ノ行先地ハ目下ノ處不詳ナルモ軍側ニ於テハ一時湯園子ニ落着カシムル意向ナルカ如シ

尚今後ノ行動ハ精査ノ上追報ス

## 溥儀の當口到着の模様について

87 昭和6年11月12日 在牛莊荒川領事より

幣原外務大臣宛（電報）

當口 11月12日後發

本省 11月13日前着

第九四号（暗、至急）

55 昭和6年11月12日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

## 溥儀の満州到着について

奉天 11月12日後着

本省 11月12日前着

## 第一二五五号（暗、至急極秘）

(八〇文書)

貴電合第一四二一号ニ關シ

十二日午前十時半軍司令部ヨリ宣統帝ノ動靜ニ關シ新聞掲載禁止発令方関東厅ニ依頼シタル旨電話アリタルニ依リ宣統帝ノ着満ハ事實ト認メラルル處外國領事間ニモ宣統帝十一日着満ノ噂伝ハリ居レリ目下動靜探査方手配中ナルモ不敢取敢

支、北平、天津へ転電セリ

十二日午前十時半軍司令部ヨリ宣統帝ノ動靜ニ關シ新聞掲載禁止発令方関東厅ニ依頼シタル旨電話アリタルニ依リ宣統帝ノ着満ハ事實ト認メラルル處外國領事間ニモ宣統帝十一日着満ノ噂伝ハリ居レリ目下動靜探査方手配中ナルモ不敢取敢

支、北平、天津、奉天へ転電セリ

88 昭和6年11月12日 幣原外務大臣より  
在天津桑島總領事宛（電報）

## 天津在留邦人避難のための船舶手配について

本省 11月12日前發

第八七号（暗、大至急）

天津避難船舶ニ関スル件

貴電(六八文書)第五〇二号末段ニ閑シ

不取敢別電合第一四一九号ノ通り関東長官へ電報セルニ付

テハ（貴電第五〇二号同長官ニ転電スミ）貴官ニ於テモ配

船方等ニ付直接同長官ト連絡セラレ度目下塘沽ニハ大連汽

船済通丸及天潮丸相続キ入港ノ予定ト思惟セラルルニ付テ

ハ必要ニ応シ右船舶ニ対シ貴地溯航及必要時間ノ停船方取

計ハルルト共ニ要スレハ塘沽ニ停泊中ノ近海郵船又ハ大阪

商船所属船等ニ対シ出帆延期ヲ命セラレ差支ナシ右遞信省

ト打合済

関東長官、支、北平、濟南、青島、奉天、南京へ転電セリ

91 昭和6年11月12日 幣原外務大臣より  
塙本關東長官宛（電報）

天津事件に際し船舶回送方依頼について

本省 11月12日前發

御留意アリ度

避難船廻送見合方ノ件  
往電(九一文書)第七〇号ニ閑シ91 昭和6年11月12日 幣原外務大臣より  
塙本關東長官宛（電報）其後別電(見当ラズ)第七二号末段ノ通り在天津總領事ヨリ電報アリタ

ルニ付テハ冒頭往電ノ措置ハ差当リ其ノ必要失セタル次第ニ付キ既ニ御手配中トハ存スルモ将来再ヒ同總領事ヨリ何分ノ申出アル迄見合サルル事ト致度乍御面倒今後トモ良シク御配慮ヲ請フ

在天津總領事、在支公使、北平參事官

奉天、青島、濟南各總領事へ転電セリ

93 昭和6年11月13日 在天津桑島總領事  
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件解決のため中國側と協議の経過について

いて

天津 11月13日前發  
本省 11月13日前着92 昭和6年11月12日 幣原外務大臣より  
塙本關東長官宛（電報）

天津への避難船回送見合せについて

本省 11月12日後發

第八八号（暗）

避難船廻航見合セ方ノ件

貴電(七二文書)第五〇九号ニ閑シ

別電合第一四三九号ノ通り関東長官へ依頼シ置ケリ尚遞信省ニ於テハ關係各船会社ニ対シ今後必要ニ応シ貴官ノ申出ニヨリ停泊延期スヘキ旨依頼シ各船会社ニ於テ承諾済ナル趣ナルニ付テハ右併而御含置アリ度シ

関東長官、奉天、北平、青島、濟南、在支公使、南京、上海へ転電セリ

90 昭和6年11月12日 在牛莊荒川領事、塙本關東長官宛（電報）

天津への避難船廻航について

本省 11月12日後發

合第一四四〇号（暗、大至急、極秘）

宣統帝脱出ニ関スル件  
往電合第一四二二号ニ閑シ

宣統帝ハ十一日午后大沽ニ於テ淡路丸ニ乗船シ目下當口ニ向ヒ航行中トノ情報アリ本件ハ絶対ニ外部ニ漏洩セサル様

89 昭和6年11月12日 幣原外務大臣より  
在天津桑島總領事宛（電報）

天津へ避難船廻航について

本省 11月12日前發

合第一四四〇号（暗、大至急、極秘）

宣統帝脱出ニ関スル件  
往電合第一四二二号ニ閑シ

宣統帝ハ十一日午后大沽ニ於テ淡路丸ニ乗船シ目下當口ニ向ヒ航行中トノ情報アリ本件ハ絶対ニ外部ニ漏洩セサル様

93 昭和6年11月13日 在天津桑島總領事  
幣原外務大臣宛（電報）

天津事件解决のため中國側と協議の経過について

本省 11月12日前發

天津避難船舶ニ関スル件

貴電(六八文書)第五〇二号末段ニ閑シ

不取敢別電合第一四一九号ノ通り関東長官へ電報セルニ付

テハ（貴電第五〇二号同長官ニ転電スミ）貴官ニ於テモ配

船方等ニ付直接同長官ト連絡セラレ度目下塘沽ニハ大連汽

船済通丸及天潮丸相続キ入港ノ予定ト思惟セラルルニ付テ

ハ必要ニ応シ右船舶ニ対シ貴地溯航及必要時間ノ停船方取

計ハルルト共ニ要スレハ塘沽ニ停泊中ノ近海郵船又ハ大阪

商船所属船等ニ対シ出帆延期ヲ命セラレ差支ナシ右遞信省

ト打合済

関東長官、支、北平、濟南、青島、奉天、南京へ転電セリ

往電(九一文書)第七〇号ニ閑シ

天津事件に際し船舶回送方依頼について

本省 11月12日前發

第七〇号（暗、大至急）

天津擾乱ニ際シ船舶回送方ノ件

往電第六九号末段ニ閑シ

大連汽船其ノ他適當ノ会社ニ対シ不取敢小型船一隻（可能

ナラハ塘沽方面へ航行中ノ船舶ニ対シ）大至急天津へ差向

クル様御手配相煩度尚臨機ノ措置トシテ天津總領事ニ対シ

別電第八九号ノ通り手配方電報シタルニ付大連汽船ニ閑ス

ル分ニ付御承認ヲ請フ

天津、支、北平、濟南、青島、奉天、南京ニ転電セリ

92 昭和6年11月12日 幣原外務大臣より  
塙本關東長官宛（電報）

天津への避難船回送見合せについて

第七一号（暗、至急）

本省 11月12日前發

政府代表トノ間ニ〔〕ハ午後零時半ヨリ六十名ノ武装保安隊

周龍光ヲ通シ既ニ学良ニ申入済ナルカ貴官ノ御共助ヲ煩度シ本官十時ヨリ学銘及王樹常ニ会見ノ筈外務大臣、公使、奉天へ転電セリ

95 昭和6年11月13日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀天津脱出の真相に關する駐屯軍司令部の  
談話について

第五二〇号（暗、至急部外極秘）

往電第五一二号末尾ニ関シ軍側ハ一切関知セストノコトナリシカ十三日朝本官支那側ト交渉ノ為外出中司令部員來館シ今迄隱シタルモ実ハ（不明）必要ト考ヘ尚帝及関東軍部（司令官ナリヤト反問セシ処司令部ト答ヘタリ）ノ希望モアリ十日夜私カニ屋敷ヲ脱出セル帝ヲ自動車ニ乗セ一日塘沽發淡路丸ニテ營口ニ送リタル由打明ケ此ノ責任ハ軍側ニ於テ負フヘキモ兎ニ角總領事及館署員ニ迷惑ノカカルヲ

シ文ニ通シテ、指示ヲ發セシムハ極微手配アリタシ右ノ一応  
周龍光ヲ通シ既ニ学良ニ申入済ナルカ貴官ノ御共助ヲ煩度  
シ本官十時ヨリ学銘及王樹常ニ會見ノ筈  
外務大臣、公使、奉天ヘ転電セリ

メテ実行方法ヲ討議シ我方ニ於テハ全線ニ亘り右様措置アリ度旨申出  
テ結局深更ニ至ルモ纏マラサル為十二日ノ会見ヲ約シ別レ  
タリ双方間ノ空氣ハ良好ナリ尚十一日ノ協議ニ拘ハラス十  
二日午前一時過ヨリ我方ニ対スル保安隊ノ射撃甚シク我軍  
モ多少反撃セル狀況ニシテ十二日ハ前述ノ通一時空氣緊張  
シタルモ夕刻以来極メテ平静ナリ支那側ハ無暗ニ射撃シタ  
ル保安隊ハ銃殺ニ處スル旨命令済ナル由語リ居リタルカ或  
ハ右ノ結果ト認メラル  
転電及転報先往電第五〇九号ノ通  
仏ヨリ夫々措置アリ度シ

ニテ実行スル事ニハ四時ヨリ実施スル事ニ細目打合シタル  
力手違アリシ為何レモ実行ニ至ラス又我駆逐艦カ葛沽（塘  
沽ノ上流ニシテ九日以来支那軍ニテ船舶検査ヲ為シ居ル地  
点）ニ上江シタルヲ陸戦隊ヲ乗セ天津ニ向ヘリト誤信セシ  
事清ニアリ支那側ニミテ、我方カ得意ノ反面ヲ冠由所ヲ

94 昭和6年11月13日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)  
天津事件の拡大防止のため再び中國側へ申

第五一九号（暗、大至急）  
本省 天津  
11月13日前後着

昭和6年11月13日  
天津事件に関連し中国側兵力の実情について  
在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

公使、北平、奉天へ転電セリ

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津  
11月13日後発

本省 11月13日後着

### 第五二三号（暗、至急）

アリ各派反動分子（孫伝芳ノ如キ又然リ）之ニ参画シ居リタルハ疑ヒノ余地ナシ

目下當方面ニ於ケル支那兵力ハ明カナラサルモ保安隊中ニハ相當數ノ正規兵カ單ニ服装ヲ変ヘタルモアリ又河北（支那街北半ヲ指ス大体白河及南運河ヲ以テ区画トス）ニハ近郊ニアリシ東北軍部隊入市シ居ルハ事実ナルカ如シ而シテ支那側ニ於テハ右兵力ノ充実ハ天津付近ニ於ケル暴徒ノ實力約二万ナルヲ以テ今後之カ鎮圧ノ為必要ナリト称シ居ルモ之ハ当初ノ計画ヲ今尚其儘進行中ナリト誤信シタルモノニシテ差当リ暴動發展ノ形勢全然ナシト認メラル八日夜ノ暴動ハ専ラ日本軍ノ使嗾及援助ニ依ル旨報道セラレ居ル処右ハ皮相ナル觀察及支那一流ノ悪宣伝ニシテ内実ハ往電第48四号ノ通先ツ李際春及張璧ヲ總副司令トスル土匪及青幫ヲ用ヒ（約二千名ノ實力ナリシカ如シ）暴動ヲ起シ当地ノ東北政權ヲ転覆シタル上自治委員会ヲ組織シ第二段トシテ大沽軍糧城方面ニアル士匪團及馬廠方面ノ東北軍砲兵等ノ寢返リ等ニ依リ天津近郊ヲ攻略シ最後ニ北平ニ於テ兵麥ヲ起サシメ張學良ヲ（脱カ）セシメントスル遠大ナル計画ノ第一歩ニシテ其背後ニ直隸派（主トシテ曹錕及其一派）

丸飛来シ危険ナルヲ以テ已ムヲ得ス保安隊及巡警ノ三百米撤退ヲ求メタリ九日夜ハ比較的平穩ナリシモ十日夜ヨリ無節制ナル保安隊カ右三百米線内ニアル便衣土匪團鎮圧ヲ名トシ租界ニ向ヒ盛ニ発砲シ甚タシキハ警備線ヲ狙撃スル為我方トシテモ自衛手段トシテ余儀ナク最少限度ノ反撃ヲナシタルコトアリ時日ノ経過ニ伴ヒ事態ハ暴徒鎮圧ヲ離レ日支第一線ノ感情昂フリ衝突ノ危険アルヲ以テ本官ニ於テハ屢次電報ノ通右射擊防止次イテ警備ノ撤退ニ努力シ居ルモ

支那側ノ発砲止マス十三日朝ノ如キハ愈烈シキヲ加ヘシ現状ニシテ往電第五〇二号事態再ヒ樂觀ヲ許サス右重複ノ嫌アルモ為念

転電転報先往電第五一七号ノ通  
在仏大使ヨリ右同様転報アリ度シ

97 昭和6年11月13日

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

### 溥儀脱出發表振に関する問合せについて

天津 11月13日後発

本省 11月13日後着

第五二四号（暗、大至急極秘）  
往電（九五文書）第五二〇号ニ関シ

十三日ノ支那新聞ハ帝カ前晚當地ヲ脱出汽船（詳報ニ依レハ駆逐艦刈萱）ニテ大連ニ赴キタル旨ヲ報シ又本邦新聞及

通信米國總領事ヨリモ問合セアリ此ノ際當館（又ハ本省）ヨリ左ノ如ク發表スルコト然ルヘシト考ヘラルル處御意向折返シ回電アリタシ

予テ満州方面ニ於テ前清宣統帝溥儀氏ノ擁立運動ヲ為スモノアル噂ナルヲ以テ當館ハ帝國政府ノ訓令ニ依リ累次其ノ

天津の平穏を望む旨の張學良代表の談話について

98 昭和6年11月13日

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津の平穏を望む旨の張學良代表の談話について

天津 11月13日後発

本省 11月13日後着

第五二五号（暗、至急）

事項4 天津事件

十二日周龍光來館貴官ト自分トノ旧来ノ情誼ヲ顧念シ特ニ副司令ヨリ派遣サレタルカ学良ハ此際日本トノ間ニ何等事端ヲ起ス意毛頭無ク平和関係ノ維持ニ努力シ度キ意向ナルヲ以テ自分ニ於テ活動シ得ル事アラハ出来ル丈御世話致シ度シトノ事ナルヲ以テ右ハ本官モ同感ナルカ何分ニモ保安隊カ我方ニ発射スル為危険ナル状況及交渉ノ経過ヲ述ヘ此ノ上トモ右発砲ノ制止方尽力アリ度旨述ヘ置キタルカ十三日朝ノ状況ハ北平宛電報第四三号ノ通ナリ

北平ヨリ往電第四三号ト共ニ南京、上海、青島、濟南、漢口ニ転電アリ度シ

支、北平、奉天へ転電セリ

99 昭和6年11月13日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津における中國側態度の硬化について

第五二六号(暗、至急)  
往電第五一七号十二日支那側態度ノ硬化ニ關シ其裏面ノ事情トシテ英國總領事カ同國司令官ヲ通シ我司令部ニ対シ日

100 昭和6年11月13日 在上海重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)  
天津事件における日本駐屯軍の応戦、ぶりについて

上海 11月13日後発  
本省 11月13日後着

第一二七一号(暗、大至急)  
本使發天津宛電報

天津 11月13日後発  
本省 11月13日後着  
第一八号  
大臣宛貴電第四九〇号ノ(駐屯軍応戦ノ際小銃ノ外海光寺日本兵營及日本工廠ヨリ大砲ヲモ發射セリヤ大至急御回電アリタシ

大臣へ転電セリ

101 昭和6年11月13日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津市街における射撃中止を張學良に申入れ

について

北平 11月13日後発  
本省 11月14日前着

102 昭和6年11月13日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

張學良より王樹常、張學銘に射撃中止を厳命

について

本官發天津宛電報第六二号  
貴電第四三号ニ閑シ

十三日湯爾和ヲ往訪シ一日桑島王樹常間ノ不発砲ノ確約

ニ拘ラス十二日午前一時保安隊ヨリノ猛射アリ同日午後ニハ館員ヲシテ申入レシメタル事実(往電第六一号)アリ更

ニ十三日午前一時頃銃声次第増加シ五時頃ニハ機関銃迫撃砲モ交リ我方兵營内ニ落下弾甚シカリシモ我方ハ一発モ之ニ応射セサリシ次第ナルカ支那側ニ於テ斯ノ如キ無誠意ナル態度ナルニ於テハ如何ナル不祥事件突發シ事態ノ拡大ヲ來スヤモ知レス副司令累次ノ言明ニモ拘ラス現地ノ状況

右ノ通ニ付副司令ヨリ速ニ王樹常ニ對シ今後ハ斷然斯ノ如

支間ノ交渉順調ニ進行シ居ルヤヲ尋ネタル處其事無シトノ回答ナリシヲ以テ(其管ナシト)總領事ヨリ市政府ノ一科長ニ之ヲ談話シタル事実アル由伝ヘラレ尚當館巡捕(公安局特務隊(員)ノ弟)ノ報告ニ依レハ支那側ノ装甲自動車ハ鋼鉄薄キ故ヲ以テ英國駐屯軍ヨリ四台ヲ借受ケ公安局及南開ニ夫々二台配置シアル由真偽不明ナルモ御参考迄大臣ヨリ可然転電アリタシ

外務大臣、支、奉天へ転電セリ

60

事項4 天津事件

103 昭和6年11月13日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

第一二七一号(暗、至急、極秘)

奉天 11月13日後発  
本省 11月13日後着

奉天 11月13日後発  
本省 11月13日後着

62

溥儀脱出に関する情報について

第一二六六号(暗)

大臣宛電 第五二四号ニ関シ

宣統帝ノ脱出ハ当方面ニ於テハ相当広ク知レ渡リ居ルニ付  
(尤新聞記事ハ掲載ヲ禁止シ居レリ)此ノ際我方ニ於テ何  
時迄モ右脱出ノ事实ヲ隠蔽ニ努ムルコトハ実効ナキノミナ  
ラス却テ痛クモナキ腹ヲ搜ラル虞アリ本官モ外国領事ノ  
質問ニ对シ行先ハ知ラサルモ脱出ノ事实丈ハ情报ニ接シ居  
レリト応酬シ居ル次第ナリ御参考迄

大臣、支、北平ニ転電セリ

104 昭和6年11月13日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

營口到着後の溥儀の取扱いに関する本庄司令  
官の意向について

第九五号(暗、極秘)

宣統帝ハ本十三日前九時淡路丸ニテ満鉄埠頭着出迎ノ當  
地憲兵分遣隊長、甘粕正彦、憲兵軍曹、一昨夜奉天ヨリ來  
營セル其他日支人數名ニ護フレ駆前日本旅館ニ小憩ノ上記

105 昭和6年11月13日 在牛莊荒川領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

溥儀の營口到着の模様について

本省 11月13日後発  
營口 11月13日後発

大臣、支、北平、天津、哈爾賓、吉林へ転電セリ

記憲兵分遣隊長等ト共ニ午前十時半当地發大石橋ニテ午前  
十一時十五分発ノ輕油動車ニ乗換ヘ湯岡子ニ向ヘリ帝ハ十  
一日午後四時半我陸軍將校ノ軍服ヲ着シ(当地ニテ支那服  
ニ着替ヘタリ)從者林戴、林讓三ノ二名邦人案内役上角利  
一、工藤鉄三郎、大谷勲三名及召使三名ニ護ラレ天津ヲ脱  
出シタル趣ナリ  
転電先前電ノ通

106 昭和6年11月13日 在牛莊荒川領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

溥儀の營口到着および天津脱出の模様について

本省 11月13日後着  
營口 11月13日後発

第五四号(暗、至急)

宣統帝ハ從者十数名ト共ニ本十三日午後湯岡子着對翠閣ニ  
投宿セリ

第六六号(暗、極秘)

第九五号(五文書)  
二閑シ

淡路丸船長ノ洩ス所ニ依レハ天津ニ於テ土肥原大佐主導ト  
ナリ帝ノ脱出ヲ策シ密カニ租界ヨリ自動車ニテ埠頭ニ連行  
シ一行ハ更ニ機関銃ニヲ有スル軍隊ニ警護サレタル「ラン  
チ」ニ移リ塘沽ニ赴キ淡路丸ニ乗込ミタル趣ナリ土肥原大

108 昭和6年11月13日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛

公使、北平、奉天、天津へ転電セリ

第五四号(暗、至急)

宣統帝ハ從者十数名ト共ニ本十三日午後湯岡子着對翠閣ニ  
投宿セリ

第六六号(暗、極秘)

第九五号(五文書)  
二閑シ

淡路丸船長ノ洩ス所ニ依レハ天津ニ於テ土肥原大佐主導ト  
ナリ帝ノ脱出ヲ策シ密カニ租界ヨリ自動車ニテ埠頭ニ連行  
シ一行ハ更ニ機関銃ニヲ有スル軍隊ニ警護サレタル「ラン  
チ」ニ移リ塘沽ニ赴キ淡路丸ニ乗込ミタル趣ナリ土肥原大

北平晨報の天津事件実地調査報告について

公信第九一〇号

北平  
本省  
11月13日付  
11月19日着

北平晨報ノ天津事変實地調査記報告ノ件

本件ニ関シ張良機閔紙北平晨報ハ十一月九日特二天津事件調査ノ為記者ヲ派遣シタル趣ニテ十日ノ紙上ニ報告書ヲ掲載セルカ要領左ノ通

備ニ就キ午後六時河北警察増派セラレ憲兵、保安隊自動車隊モ全部出動シ活動写真其ノ他ノ娯楽機関モ命ニ依リ夜間営業ヲ停止ス七時過北大閘、南開河東、囲城ノ各方面ニ戒厳ヲ宣布シ九時電車ヲ車庫ニ入レシメ更ニ警察ヨリ商民ヲシテ門ヲ閉サシム

一、今次事件ハ日本カ張壁等ト連絡シテ奉天事件ニ做ヒ計画セルモノニシテ募集便衣隊二千余人ハ三十人ヲ一組トシテ各人ニ日当四元組長ニハ十元給スルコトトシ各組ニ日本兵二名ヲ入レ指揮ニ当シムルコトセリ右便衣隊募集ノコトニ就テハ天津公安局ニ於テハ早クヨリ之ヲ探知セルヲ以テ省政府主席王樹常ハ六日各国領事ニ対シ反動分子擾乱計画アルニ付注意アリ度旨申入レ又日本領事ニ対シテモ反動分子カ日本租界ニ潜伏ノ模様ニ付充分取締方申入レタルカ何レモ謠言トシテ取合ハサリシカ如シ二、然ルニ八日ニ至リ空氣ハ極度ニ緊張シ来レルヲ以テ午後五時軍糧城ニ在リタル第十五旅姚東藩命ニ依リ来津警

占領ノコトセリ十時五十五分第一路ハ一区ニ所三進撃セルカ同地中国警察ハ日本兵營ニ近接セル為敢テ応射セス第二路ハ同時ニ開口ヨリ進撃シ第三路ハ尚動カス十一時半ニ至リ更ニ便衣隊百余人日本租界旭街ヨリ出動シ東馬路ニ進撃ス其ノ背後ヨリ日本兵十余人機関銃ヲ以テ東

馬路ヲ掃射ス同時ニ便衣隊六七十名蘆莊子ヨリ一区六所ヲ攻撃ス同所警察署亦日本租界ニ近接セルノ故ヲ以テ応射セス

馬場新華橋上三進出セルカ保安隊ノ為十余名逮捕セラル  
當時第一路中ニハ日本軍官二名指揮シ且鉄甲車二輛後続  
セリ第二路ハ閘口ヨリ電話二局付近ニ進出セル際十余名  
逮捕セラレ旭街ヨリ進出セル便衣隊モ草廠庵胡同ニ於テ  
逮捕セラレ又西門ニ潰走セル十余人ハ公安局装甲自動車  
ニ手榴弾ヲ投シタルモ遂ニ逮捕セラレタリ

セムトセシモノナリ  
方要求シ来レルヲ以テ衝突ヲ避クル為保安隊ヲ後退セシ  
メタリ料ラスモ右保安隊撤退ニ当リ便衣隊ハ猛烈ナル攻  
撃ヲ加ヘタリ蓋シ其ノ際日軍掩護ノ下ニ日本租界ニ退却  
米撤退方要求シ來レリ右ニ対シテハ何等理由ナキヲ以テ  
之ヲ拒絶セルカ幾何モナク再ヒ電話ヲ以テ六時迄ニ撤退

大日本前一時三至リ王權宮ノ電報ニ以テ各國領事ニ文  
シ暴徒ノ支那街襲撃ニ対シテハ北清事變議定書尊重ノ見  
地ヨリ応射ヲ避ケ居レルカ夜明ケノ際暴徒ノ日本租界ニ

(44) 通告セリ

「十時頃八里台ニ暴徒千余人出現シ日本租界ニ入ラムトヨ以テ遂ニ後藤副領事ハ支那側当局ニ対シ電話ヲ以テ

セルヲ以テ日本兵ハ已ムヲ得ス緊急出動シテ正当防衛セリト言ヘリ又日本駐屯軍司令部ハ事件ニ先立チ七日塘沽ヨリ二十余箱ノ武器ヲ兵營ニ輸送セルカ他方九日(イ)在郷軍人八十時間以内ニ組織ヲ完成スヘキコト(ロ)日本公園公会堂ニ戰時病院ヲ設クヘキコトヲ命令セリ右ハ以テ日本軍ノ用意ヲ知ルヘキナリ云々

右何等御参考迄報告ス

本信写送付先 公使

|    |    |    |
|----|----|----|
| 奉天 | 天津 | 南京 |
|----|----|----|

109 昭和6年11月14日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

**天津の治安回復、双方警備線撤去に関する中**

国側との討議について

第五二八号(暗、至急)  
(九三文書)

往電第五一七号及本官発北平宛電報第四三号ニ關シ  
十三日午前十時本官軍參謀同伴王樹常ト會見シ支那側ノ射擊中止命令徹底セサルヲ難詰シ斯ル狀態ニテハ到底安心シ

本省 11月14日前發  
天津 11月14日後着

第五二八号(暗、至急)  
(九三文書)

往電第五一七号及本官発北平宛電報第四三号ニ關シ  
十三日午前十時本官軍參謀同伴王樹常ト會見シ支那側ノ射擊中止命令徹底セサルヲ難詰シ斯ル狀態ニテハ到底安心シ

本省 11月14日前發  
天津 11月14日後着

〔三〕右搜査ニ當リ誤解發生防止ノ為軍部、領事館、市政府保安隊ヨリ各二名宛代表ヲ派シ監視連絡ヲ計ラシムルコトニ纏マリ一部中立地帶内ニ於ケル支那側警察権ノ復活ヲ認メ右実績ヲ見タル上之ヲ全線ニ及ホシ双方警備線ヲ撤去スルコトニ打合セ成レリ右連絡員ハ同日午後五時ヨリ深更迄實行便法ニ付詳細ナル協議ヲ遂ケ十四日朝ヨリ搜査ヲ開始スルコトトセリ

〔一〕東南城廓一帯ノ中立地帶内ヲ保安隊ヲシテ先ツ搜査セシメタル後巡警ヲ入レ治安回復ヲ計ラシメ同方面第一線ニアル我警戒兵ハ少シク後方ニ引キ警察官ヲ以テ之ニ代フルコト

〔二〕同時ニ保安隊ノ別働隊ヲシテ海光寺(日本租界内)西南一帶中日学院方面ニ潜伏スル便衣隊ノ掃蕩ヲ実施セシム

十三日昼間ハ多少射撃アリタルカ夜ニ入り雨降リナリシト命令徹底セシ為カ十四日朝迄極メテ少數ノ銃声ヲ聞キタルノミ(六時)  
転電及転報先往電第五〇九号ノ通

110 昭和6年11月14日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

**領事団會議における天津事件調停に関する討議について**

第五三〇号(暗、至急)  
(二〇九文書)

往電第五二八号ニ關シ  
十四日朝首席領事官邸ニ於テ非公式ノ領事団會議ヲ開催セルカ席上首席領事ヨリ王樹常カ十三日夜ヨリ今朝ニ掛ケ各領事ヲ訪問シ十三日日本領事トノ間ニ三百米突ノ中立地帶捜査施行ノ協定ヲ遂ケタル処右ハ実行容易ナラス万一千発事件ノ発生之無キヲ保シ難キニ付各領事協議ノ上捜査時ニ於テ領事団側ヨリ數名ノ「オブザーバー」ヲ派遣セラレタキ旨申出テタリトノ話アリタルニ付本官ハ右ハ既ニ本問題

交渉ノ当初ニ於テ支那側ヨリ提出サレタル問題ニテ其後円満解決ノ曙光見エタルニ鑑ミ中止セル行懸モアリ且該問題ニ付テハ我司令官ノ意向ヲ確ムル必要モアリ尚本朝九時ヨリ双方連絡員立会ノ上保安隊カ中立地帶ノ捜査ヲ嚴ニ実行シツツアル次第モアレハ自分トシテハ目下其必要ヲ認メスト答ヘタルニ各領事モ之ニ同意シ先ツ本日捜査ノ実績ヲ見ルコトトシ同時ニ若シ万一不成功ニ終レル場合ヲ予想シ支那側希望ノ通「オブザーバー」派遣ニ付予メ日本官憲側ニ於テ協議置キ願度シトノコトナリキ

転電転報先冒頭往電ノ通

111 昭和6年11月14日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

**日中双方委員による中國保安隊員捜査実施について**

第五三一号(暗、大至急)  
(二〇九文書)

往電第五二八号ニ關シ  
十四日午前八時ヨリ日支連絡員本官々邸ニ集合シ八時半開

事項4 天津事件

114 昭和6年11月14日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)  
天津における事端発生防止のため張学良への  
申入れについて

支、奉天、北平、南京、牛莊へ転電セリ

第五三五号(暗)

本官發支宛電報第四六七号

貴電第一八号ニ閑シ

九日朝支那側ヨリ我警備線三向ヒ迫撃砲ヲ發射シタルヲ以テ我軍ハ已ムヲ得ス防禦陣地ヨリ曲射歩兵砲及擲弾筒ヲ以テ応射セリ(大砲ヲ發射セシコトナシ)

大臣へ転電セリ

113 昭和6年11月14日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)  
天津事件における日本駐屯軍の応戦ぶりについて

第六四七号(暗)

本官發天津宛電報

第六三号

往電第六二号ニ閑シ

口(東南城廓ノ白河々岸一帯ノ地区)ノ租界境界線ニ至リ九時ヨリ保安隊員捜査ニ着手シタルカ同十一時ニハ總テ完了セル旨支那側ヨリ通告アリ依テ日支連絡員ハ捜査隊ヲ引揚ケシメタル上東南城廓ニ於テ連日我方ニ対シ猛射ヲ加ヘタル地点ヲ実施視察スル為三百米ノ中立地帶ニ入り込ミタル處各街ノ租界境界線ヨリ僅三十米ノ地点ニ電流ヲ通セル「バー・ブドワイヤー」ヲ張リ其後方ニ日本租界ニ向ケ士囊ヲ以テ堅固ナル砲壘ヲ築キ機関銃ヲ備ヘ数百名ノ保安隊カ潜状シ居ル(ヲ)發見シ右連絡員中ニハ周龍光モ同伴シ以上ノ事實ヲ現認シタルカ尚我方ノ内查ニ依レハ右西方地點ニハ正規軍隊スラ入レアル由ニシテ我方ニ於テハ先方連絡員ニ対シ之カ現認ヲ求メタルモ本日ノ任務以外ナルヲ以テ拒絶シタル由從テ右中立地帶ニハ便衣隊ノ有ル筈ナク連日連夜ノ射撃ハ正シク保安隊又ハ正規軍カ我防備陣地及租界ヲ射撃セルコト判明シ軍側ハ勿論我方ハ其欺瞞行為ニ対シ極度ニ憤懣シ數日ニ亘ル我方ノ誠意アル交渉ハ見事ニ裏切ラレタリ此上ハ軍側トモ協議ノ上充分ノ誠意ヲ認メサル限り交渉ハ不可能ニナレリ尚海光寺西部方面中立地帶ノ搜查ハ十時開始一時頃終了シタルカ此方面ハ右様ノ事實ナク

以上ノ事實ヲ現認シタルカ尚我方ノ内查ニ依レハ右西方地點ニハ正規軍隊スラ入レアル由ニシテ我方ニ於テハ先方連絡員ニ対シ之カ現認ヲ求メタルモ本日ノ任務以外ナルヲ以テ拒絶シタル由從テ右中立地帶ニハ便衣隊ノ有ル筈ナク連日連夜ノ射撃ハ正シク保安隊又ハ正規軍カ我防備陣地及租界ヲ射撃セルコト判明シ軍側ハ勿論我方ハ其欺瞞行為ニ対シ極度ニ憤懣シ數日ニ亘ル我方ノ誠意アル交渉ハ見事ニ裏切ラレタリ此上ハ軍側トモ協議ノ上充分ノ誠意ヲ認メサル限り交渉ハ不可能ニナレリ尚海光寺西部方面中立地帶ノ搜查ハ十時開始一時頃終了シタルカ此方面ハ右様ノ事實ナク

口(東南城廓ノ白河々岸一帯ノ地区)ノ租界境界線ニ至リ九時ヨリ保安隊員捜査ニ着手シタルカ同十一時ニハ總テ完了セル旨支那側ヨリ通告アリ依テ日支連絡員ハ捜査隊ヲ引揚ケシメタル上東南城廓ニ於テ連日我方ニ対シ猛射ヲ加ヘタル地点ヲ実施視察スル為三百米ノ中立地帶ニ入り込ミタル處各街ノ租界境界線ヨリ僅三十米ノ地点ニ電流ヲ通セル「バー・ブドワイヤー」ヲ張リ其後方ニ日本租界ニ向ケ士囊ヲ以テ堅固ナル砲壘ヲ築キ機関銃ヲ備ヘ数百名ノ保安隊カ潜状シ居ル(ヲ)發見シ右連絡員中ニハ周龍光モ同伴シ以上ノ事實ヲ現認シタルカ尚我方ノ内查ニ依レハ右西方地點ニハ正規軍隊スラ入レアル由ニシテ我方ニ於テハ先方連絡員ニ対シ之カ現認ヲ求メタルモ本日ノ任務以外ナルヲ以テ拒絶シタル由從テ右中立地帶ニハ便衣隊ノ有ル筈ナク連日連夜ノ射撃ハ正シク保安隊又ハ正規軍カ我防備陣地及租界ヲ射撃セルコト判明シ軍側ハ勿論我方ハ其欺瞞行為ニ対シ極度ニ憤懣シ數日ニ亘ル我方ノ誠意アル交渉ハ見事ニ裏切ラレタリ此上ハ軍側トモ協議ノ上充分ノ誠意ヲ認メサル限り交渉ハ不可能ニナレリ尚海光寺西部方面中立地帶ノ搜

唯便衣隊容疑者五六名ヲ拉致シ捜査後直ニ巡警ヲ入レ我方巡警ト密接ナル連絡ヲ取ラシメタリ  
當館手不足ニ付本省ヨリ適宜転電アリタシ

112 昭和6年11月14日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

溥儀の天津脱出に関する各国領事への内話について

天津 11月14日後発  
本省 11月14日後着  
天津 11月14日前着  
本省 11月14日前着

第五三二号(暗、至急)  
往電第五二一四号ニ閑シ

十三日各国領事ヨリ宣統帝ニ関シ問合セアルニ対シ目下内探中ト應酬シ置キタルカ十四日朝領事団會議後又復質問アリ既ニ奉天ニ於テ各國領事ニ發表セラレタルニ鑑ミ内査ノ結果本月六日ヨリ十日迄ノ間ニ其居宅ヲ脱出シタルコト判明セルカ其行先ハ勿論所在地モ不明ナル旨不取敢内話シタルニ席上英國總領事ハ帝ノ居宅ニ出入スル者ヨリ十一日夜脱出シタル旨聞込ミタルカ既ニ奉天ニ到着シ居ルヘシ云々ト語レリ

名宛ノ人員ヲ派シ同地ノ共同捜査ニ当ルコトニ申合セノコトニナリタル旨報告ニ接セルヲ以テ自分（張）ヨリ更ニ日本軍部及領事館ト協調シ問題ヲ起ササル様嚴重申送レリ日本側ニ於テモ自分ノ誠意ヲ認メラレ此ノ上トモ事端防止ニ付極力支那側ト御協力アリタシト云ヘルヲ以テ本官ハ此ノ上ノ努力ヲ要請シ置ケリ

大臣支南京奉天ヘ転電セリ  
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

115 昭和6年11月14日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

北平・海浜間の交通を保障する協定遵守の旨

張学良の言明について

|    |          |
|----|----------|
| 北平 | 11月14日前發 |
| 本省 | 11月14日前着 |

貴公使発大臣宛電報第一二六八号ニ關シ

第六四九号（暗）

本官発公使宛電報

第五五四号

第六五〇号（暗）

本官発天津宛電報

第六五号

往電第六四号ニ關シ

十四日湯爾和カ原田ニ為セル内話

第六五〇号（暗）

本官発天津宛電報

第六五号

往電第六四号ニ關シ

十三日矢野參事官ノ御申入（往電第六三号）後自分ハ王樹幹ト共ニ学良ニ面会シ桑島王樹常協定シテ双方ヨリ互ニ射撃セサル様確約セルニ拘ラス保安隊カ違反發砲シ居レルハ各方面ノ報告ニ徴シ争フカラサル事実ナルカ右ハ（イ）副司令カ過般奉天事件ノ際ノ無抵抗主義ニ対スル国内ノ不評ニ鑑ミ今回ハ人氣取リノ為前記保安隊ノ行動ヲ默認シ居レルモノカ（ロ）又ハ王樹常及学銘カ副司令ノ叱責ヲ虞レ事実ヲ隠蔽シ体裁良キ報告ヲ為シ居ルモノカノ何レカニ起因セルモノト思フカ如何ト露骨ニ質問セル処学良ハ言下ニ（イ）ヲ否定シ（ロ）ニ対シ多少ノ疑惑ヲ挿ミ直ニ其席上自ラ学銘及王樹常ヲ交々電話ニ呼出しシ保安隊カ追撃砲所有ノ有無ヲ質セルニ王ハ或ハ所有ノコト無キヲ保シ難キ旨述ヘタル為学良ハ直ニ同砲取上ヶ方ヲ嚴命スルト共ニ虚偽ノ報告ヲ為シタルコト及事態ヲ收拾シ得サル責任ニ付強ク叱責シ速ニ發砲ヲ差

ト申入レタル處学良ハ自分ハ嘗テ天津ニ駐屯シ右協定ヲ研究セシコトアリ現在ハ同地ニ小數ノ衛隊ヲ除クノ外軍隊ハ全部市外ニアルヲ以テ何等協定ニ反セサルモノ思フカ尚天津ニ問合セ実情調査ノ上右ニ違反セサル様致スヘシト答へタリ本官ハ聞ク处ニ依レハ貴方ハ兵士ヲ保安隊トシテ天津ニ送ルヤノ風説アル處右ハ勿論協定ノ精神ニ違反スト述コト或ハ已ムヲ得サルヘシト思フカ協定ノ趣旨ヲ尊重シ必要ノ場合ハ例へハ北平ノ巡警ヲ派遣スル等ノ方法モ考慮スヘシト言ヘリ

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

大臣、南京、廣東、天津、奉天、在米大使、連盟ヘ転電セリ

116 昭和6年11月14日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

在天津保安隊の發砲差止めに關し張学良より

嚴命の旨湯爾和の内話について

|    |          |
|----|----------|
| 北平 | 11月14日後發 |
| 本省 | 11月15日前着 |

117 昭和6年11月14日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

湯爾和に対し北平・海浜間の交通保障協定違反行為の停止を申入れについて

|    |          |
|----|----------|
| 北平 | 11月14日後發 |
| 本省 | 11月15日後着 |

第六五一号（暗）

本官発天津宛電報（十四日後）

第六六号

貴電第四六号ニ關シ

十四日午後湯爾和ヲ往訪シ

一、支那側ノ不都合ナル行為ヲ列記セル「メモ」ヲ手交シ篤ト貴電ノ趣旨ヲ説明シ此ノ際支那側カ北平ト海浜間ノ交通自由ヲ保障セル協定ニ反スル不法行為ノ即時停止方篤ト申入レタル處湯ハ直ニ学良ニ話シ右事実ノ有無調査

ノ上然ルヘク措置スヘキ旨ヲ述ベタリ

二、次イテ湯ハ天津ヨリノ報告ニ依レバ昨晩来何等ノ事故  
モナク日本租界ト支那街トノ交通モ回復セル模様ニテ此  
ノ儘ノ状勢ガ二三日モ統ケバ事態ハ平静ニ帰スベクオ互  
ニ慶賀ノ至リニ堪ヘスト云ヒ居タリ

大臣、公使、奉天ニ転電セリ

118 昭和6年11月14日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

#### 天津駐屯軍の中国保安隊調査申出に関する湯

##### 爾和の談話について

北平 11月14日後發 本省 11月15日前着

第六五二号(暗)

本官發在支公使宛電報

第五五七号

往電第五五四号ニ関シ

十四日湯爾和ト会見ノ際湯ハ天津情報ニ依レハ日本軍司令  
官ハ支那側ノ保安隊内ニ正規兵アリトテ軍ニ於テ直接調査  
方申出アリタル趣ナルカ自分ノ知ル處ニ依レハ支那ノ軍隊

思ヒ(熙ハ從來帝ニ對シ月々仕送リヲ為シ居レル程ナリ)  
頻リニ吉林行ヲ希望シ居ラルニ付軍部ハ都合ニ依リテハ  
当地ニ連レ来リ暫ク匿フコトニナルヤモ知レストノコトナ  
リ

奉天、支、天津、哈爾賓、北平、長春ヘ転電セリ

120 昭和6年11月14日 在天津桑島總領事宛(電報)  
幣原外務大臣より  
別電 同日幣原外相より塚本関東長官宛第七四号  
天津居留民引揚げのための船舶回送について 本省 11月14日前發

#### 居留民引揚げのため天津に船舶廻送について

第八九号(暗)  
避難船廻送方ノ件  
関東長官發本大臣宛電報第一二九号ニ關シ別電第七四号通  
リ回電シ置ケルニ付今後必要ノ場合ハ貴官ヨリ直接同長官  
ト連絡ヲ執ラレ度シ  
(別電)

121 昭和6年11月14日 在天津桑島總領事宛(電報)  
幣原外務大臣より  
別電 同日幣原外相より桑島總領事宛第九三号  
溥儀脱出に関する発表振りについて 別電  
宣統帝脱出事件 右発表振り通達

本省 11月14日前發

第九二号(大至急)

宣統帝脱出事件

別電 第九三号ノ通り発表セラレ度シ

別電ト共ニ奉天、支、南京、廣東ニ転電セリ

本省 11月14日前發

ハ大体軍糧城ニアリ條約規定ノ範囲外ニアル筈ニテ只市内

整備ノ為巡警不足セルヲ以テ總站迄少數(ノ憲)兵ヲ派遣  
シタルヤニ聽キ及ヒ居リ何レニスルモ日本軍ニ於テ直接保

安隊ヲ調査セラレントスカ如キハ又問題ヲ起スノミナルヲ

告ニ接セサルモ正規兵力保安隊中ニアリ又天津地方ニ軍隊

進入シ居ルコトニ付テハ情報アリ(天津發大臣宛電報第五

二三号)此際支那側カ條約ノ規定ニ反セサル様至急処置セ

ラルルコト絶対ニ必要ナル旨切言シ置ケリ

大臣、南京、廣東、天津、奉天ヘ転電セリ

119 昭和6年11月14日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

#### 溥儀の吉林行希望に関する情報について

吉林 11月14日後發 本省 11月14日前着

第一一七号(暗、極秘)

奉天發閣下宛電報第一一七号ニ關シ

当地ニ於ケル秘密情報ニ依レハ帝ハ熙治トノ從來ノ關係ヲ

(別電)

本省 11月14日後発

第九三号(大至急)

宣統帝脱出事件

別電

予テ天津日本租界内ニ遁レ居リタル前清宣統帝溥儀氏ハ満州事件勃発以来種々ノ脅迫ニ会ヒ身辺ノ危険ヲ感シ居リタル模様ナルカ十一月六日夜何者か生果ノ贈物中ニ爆弾二個(民国十六年製)ヲ入レ之ヲ届ケ又ハ「中国共产党天津支部鐵血団本部」名義若ハ匿名ヲ以テ脅迫状ヲ送レル者アリ次テ八日夜当地華街方面ニ於テ暴動発生セルアリ為ニ愈々危害ノ身辺ニ迫ルヲ覺ヘタルモノカ最近当地中国新聞ニ其ノ脱出ヲ伝ヘラルルヲ以テ側近者ニ就キ取調ヘタル處暴動突発ノ際密ニ脱出セルコト判明セリ行先地ニ付テハ未タ当地ニ於テ判明セス

122

昭和6年11月15日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津事件に關し中國側に對する撤退要求につ

いて

提出について

天津 11月15日後発

第五三九号(暗、至急)

本省 11月15日後着

往電第五三八号ニ關シ

十五日王樹常ハ秘書二名ヲ特派シ二十支里外撤退ニ關シテ

ハ何レハ公文ヲ以テ回答スヘキモ不取敢口頭ニテ概要ヲ通

告致シタシトテ左ノ通申越セリ

(一)一九〇二年度交換公文ノ精神ヲ尊重ス

(二)今次便衣隊ノ防範ハ悉ク保安警察隊ヲ以テ之ニ当ラシメ

正規軍隊ハ一名モ参加セシメス

(三)正規軍ノ撤退ハ即時準備ニ着手ス但シ治安維持上相當数

ノ衛隊ヲ市内ニ止ムル必要アルヲ承認アリタシ

依テ館員ヨリ何日迄ニ撤退ノ見込ナリヤ又衛隊人數ハ幾許ナリヤ予メ承知シ度ク又保安隊中ニハ正規兵力服装ヲ代ヘ

入り込ミ居ル旨確カナル情報アル処斯ノ如キハ交換公文ノ

趣旨ニ反スルヲ以テ當方ニ於テ默認モナシ難キ旨述ヘ置キ

タル由

尚北平發公使宛電報第五五四号ニ依レハ學良ハ協定違反行為ナキ旨述ヘ居ル処王ハ事件發生後本官ニ対シ正規軍市内ニ在ルモ省政府以北ニ駐在セシメ決シテ日本軍ニ対シ事ヲ

天津 11月15日前発  
本省 11月15日後着

第五三七号(暗、至急)

公使發大臣宛電報第一二六八号ニ閔シ不取敢中立地帶問題

ヲ解決シ租界境界線ニ於ケル日支衝突ノ危険ヲ除去シタル後ニ致シ度キ考ヘニシテ而カモ屢々既往電ノ通十四日午前迄ノ四回ノ情勢ハ相當満足ニ發展シツツアリシヲ以テ支那側ニ対スル撤退要求ヲ差控ヘ居タルカ往電第五二八号ノ事実發見セラレ從来我方向ニ發セラレタル弾丸ハ總ヘテ故意ノ敵対行為(ト)解釈セラルニ付右方針ヲ変更シ十四日ハ公使宛貴電第四六五号ノ次第省政府ニ公文ニテ申入レ尚王樹常ハ北平ニ行キ不在中ナリシヲ以テ(夕刻帰津セリ)係員ニ対シ篤ト説明シ置キタリ

支、北平ニ転電セリ

123 昭和6年11月15日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津事件解決のため中國側より軍撤退案概要

提出について

天津 11月15日後発

構ヘサルニ付日本側モ租界外ニ出テサル様セラレタキ旨語レルコトアリ又前述ノ如ク申込來レル處ヨリ察シ学良ハ事実ヲ承知セサルモノト認ム

支、北平ヘ転電セリ

124 昭和6年11月15日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

溥儀家族の動靜について

天津 11月15日後発

第五四〇号(暗)

関東長官發貴大臣宛電報第一三一号ニ關シ

皇后及実父榮源ハ同帝ノ留守居トシテ今尚当地ニ居住中ナリ

支、奉天、南京、関東長官ヘ転電セリ

125 昭和6年11月15日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津事件後の邦人並びに中國人の動靜について

て

天津 11月15日後発  
本省 11月15日後着

第五四一號（略）

事件發生後在留邦人ニシテ當租界内避難所ニ収容シタル人  
員百十一名大連又ハ日本方面ニ引揚ケタル者四一四名ニシ  
テ引揚者增加ノ傾向アリ租界内居住中国人モ相当ノ身分ノ  
者ハ大部分外国租界ニ引揚ケタリ尚当租界及中国街ノ各商  
店ハ門ヲ鎖シ商取引杜絶シ居レリ事件發生直後ハ租界警備  
上一時交通ヲ遮断シタルニ依リ野菜類ノ供給ニ困難ヲ來シ  
価格騰貴シタルモ茲一両日交通多少緩和シタル為多少見直  
セリ

政権樹立運動ニ注意シツツアリシ者ノ予期セル所ノミナ  
ラス滿州事件カ鐵道沿線ヨリ次第ニ四方ニ拡大シ行ケル  
情勢ニ鑑ミ本件ハ一段落ヲ告クトモ更ニ同様事件ノ發生  
ヲ見ルヘシ依テ次回理事会ハ宜シク紛糾セル時局面ノ制  
限ニ付努力スルヲ要ス

店ハ門ヲ鎖シ商取引杜絶シ居レリ事件発生直後ハ租界警備上一時交通ヲ遮断シタルニ依リ野菜類ノ供給ニ困難ヲ來シ価格騰貴シタルモ茲一両日交通多少緩和シタル為多少見直セリ

12  
昭和6年11月15日  
幣原外務大臣宛（電報）  
天津事件発生以来の英字新聞論調について

天津事件發生以

幣原外務大臣宛（電報）

二

問セシムルコトトセハ容易ニ之ヲ決  
尚宣統帝ノ脱出ニ付テハ单ニ大連方  
シトノ記事ヲ掲クル外論結ヲ见ス

レ定シ得ヘシ

事件発生以来今日迄ノ当地英字紙論調左ノ通  
第五四二号（略）

天津ハ満州事件ノ延長ニシテ其ノ勃発ハ学良驅逐満州新  
京津タイムス（英人經營）

天津事件解決のための覚書に中國側署名について

天津 11月1日後免  
本省 11月16日前着

往電第五三一號ニ關シ

及本官ヲ訪問シタキ旨申出タルカ尚一時ヲ糊塗スルノミニ  
テ根本的解決ヲ期待シ居ルカ如キ誠意認メラレス依テ当館  
ニ於テ斡旋ノ結果漸ク王樹常カ司令官ニ会見シ（学銘ハ病  
氣ト称シ来ラス）十五日午後五時半ヨリ約三時間ニ亘ル交

支、北平、奉天、南京へ転電セリ

128 昭和6年11月15日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

〔三〕事件後日本軍ニ対シ新ニ実施セル軍事施設及行動ヲ取止  
ムル事（日本軍ハ隨時之カ実況ヲ点検ス）日本側ノ防禦  
施設ハ其後三於テナル可ク速ニ逐次撤去スル事  
四 日本租界外三百「メートル」ノ線内ニハ拳銃ヲ有スル巡

本側ニ迷惑ヲ及ホシタルコトヲ陳謝シ一九〇二年ノ交換公文ノ精神ヲ尊重シ所属軍隊ハ二十支里外ニ撤退スル旨重テ言明シ尚反日運動取締ニ付テハ党部及学生等ヨリ頻リニ非難攻撃アルモ今後誠意ヲ以テ極力取締ルヘキ旨付言セリ  
公使、北平ニ転電セリ

129 昭和6年11月15日 幣原外務大臣より  
在天津桑島總領事宛（電報）

#### 溥儀擁立問題に関する陸軍大臣訓令について

本十五日陸軍大臣ヨリ閔東軍司令官ニ対シ左ノ通り電訓セリ

一支那人タル溥儀ノ行動乃至支那人ノ溥儀ニ対スル行為ハ論理上帝國ノ閑知スル所ニ非サルハ勿論ナリト雖溥儀ノ進退ト滿蒙方面ニ於ケル新政權ノ動キトニ付テハ列國ノ銳キ関心ヲ受ケアルコト貴官熟知ノ通リニシテ而モ滿州現下ノ狀況ニ於テハ新政權ノ樹立ハ帝國軍ノ了解支持ナクシテハ成立セサルモノタルハ中外ノ等シク認識スル所ナルヲ以テ今日急遽溥儀カ新政權樹立ノ渦中ニ入ルトキハ仮令形式的ニ滿蒙民意ノ名ヲ以テスルモ世界ヲシテ帝國軍ノ心事ニ疑惑ヲ抱カシメ今日迄ニ於ケル帝國ノ公明ナル態度ヲ傷ケ

テ本日急遽溥儀カ新政權樹立ノ渦中ニ入ルトキハ仮令形式的ニ滿蒙民意ノ名ヲ以テスルモ世界ヲシテ帝國軍ノ心事ニ疑惑ヲ抱カシメ今日迄ニ於ケル帝國ノ公明ナル態度ヲ傷ケ

#### 天津事件に関する中国側の宣伝について

天津 11月16日後発  
本省 11月16日後着

#### 第五四七号（暗）

今次暴動ニ関シイ便衣隊ノ背後ニ日本人アリ（口）彼等ハ日本租界ヲ策動ノ根拠トシ支那街ニ進出セリハ日本軍ハ多數ノ武器及資金ヲ供給セリ等宣伝ニ努メ或ハ細民救濟ニ名ヲ藉リテ赤十字旗ニ隠レ又ハ米国旗ヲ立テ（米國武官現認セリ）尚往電第五四五号十五日ノ協定成立直後ニ於テスラ海光寺付近ノ「メソヂスト」教会付近ニ便衣隊出没スルカ如ク装ヒ外人家屋ニ隠レ我兵營及租界ニ向ケ發砲スル等我方ノ反撃ヲ唆リ故意ニ宣伝材料ヲ作ラント奸策ヲ弄シタル幸我軍ニ於テ防禦線ヲ狙撃セラレ已ムヲ得サル場合ノ外ハ隠忍自重ニ終始シ右様奸策ニ乗セラレス今日ニ及ヘリ

尚往電第五四五号会見ニ關シ十六日ノ英字新聞ハ日本側カ誠意アリ鄭重ナリシ旨ノ王樹常ノ印象ヲ報道シ又支那紙モ商報カ僅ニ諸種恫喝ノ言葉アリシ由書ケル外何レモ比較的正確ナル報道ヲ為シ居レリ東京ヨリ可然転電アリタシ

公使、北平、奉天、南京へ転電セリ

131 昭和6年11月16日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 溥儀旧臣の動静について

天津 11月16日後発  
本省 11月17日前着

#### 第五四九号（暗）

本官発閔東長官宛電報第二六号

宣統帝旧臣胡嗣瑗（変名李統閣）何瑞符（変名周吉甫）ハ景山丸ニテ貴地ニ向フ

奉天、支、大臣、北平へ転電セリ

132 昭和6年11月16日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 天津事件解決に関する王主席の公文要領について

天津 11月16日後発  
本省 11月17日前着

第五五〇号（暗、至急）  
（二三文書）  
往電第五三九号ニ關シ

王主席ノ公文十六日午後接到セルカ要領左ノ通

帝国ノ對列國策上極メテ不利ナル状勢ヲ激成スルノ虞アリ特ニ連盟ノ空氣改善ニ努力ノ結果最近漸ク好転ノ曙光ヲ認メ來レル時期ニ於テ敢テ此種速急ナル行動ニ出ツルハ策ヲ得タルモノニ非ス仍テ茲暫ク溥儀ヲシテ主動タルト受動タルヲ問ハス政權問題ニ全然關係セシメサル如ク一般ヲ指導セラレ度シ元來新政權樹立ニ關シテハ帝國ノ態度宜敷ヲ失スルニ於テハ九ヶ國條約ニ立脚スル米國ノ干涉又ハ列國會議ノ開催ヲ見ルコトナキヲ保セス從ツテ之ニ善處スルノ方策ニ關シテハ外務當局トモ連繫シ深謀熟議ヲ進メアリ如何ナル場合ニ於テモ帝國カ少クモ列國ヲ相手ニ法理的闘争ヲナシ得ル如ク内外ノ形勢ヲ誘クコト肝要ナリ此ノ点特ト諒承シ置カレ度尚将来溥儀カ民意ニ依リ東北四省統一政權ノ首腦タルコトニ關シテハ外務側ニ於テモ考慮シ居ル処ナルカ愈々之ヲシテ統一政權ノ首腦タラシムルコトノ決行ニ付テハ當時中央部ト密接ナル連絡ヲ保持シ以テ内外ノ大勢ニ即応スルコトトスヘシ

（編注）本電は宛先不明だが、一応桑島宛として採録した。

130 昭和6年11月16日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

本主席ハ交換公文ノ精神ヲ尊重シ衛隊ヲ駐ムル外從来天津河北ニ駐防セル少數軍隊モ亦當分他ニ移動スヘシ云々  
尚當警察ノ情報ニ依レハ河北一帶ニ駐防セル軍隊ハ既ニ本日其移動ヲ開始シタル由ナリ  
公使、北平、南京、奉天ヘ転電セリ

133 昭和6年11月17日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 土肥原来津の目的と同人の策動について

天津 11月17日後着  
本省 11月17日後着

#### 第五五三号(暗、至急、部外極秘)

<sup>(1)</sup> 土肥原来津ノ目的ハ閏東軍部ノ意ヲ体シ満州独立ノ前提トシテ至急宣統帝ヲ連レ出しシ張學良ノ勢力ヲ切崩ス為ニシテ何人ノ勸告及干涉モ之ヲ排除シ時ニ國策ト相反スルモ閏東軍独自ノ立場ヨリ自由ナル行動ヲ執ルハ已ムヲ得ストノ決心ヲ以テ政界有力者ノ隠レタル支持ノ下ニ有ユル策ヲ弄シ又手段ヲ論セス遂ニ八日暴動ヲ起サシメ而モ計画ノ手違ヒヨリ失敗ニ帰セリト見ルヤ全市ノ暴動ヲ機会ニ帝渡満ヲ敢行セシモノニシテ其ノ無謀ナル行動ハ到底我タノ想像シ得

斯ノ如キ暴挙ヲ為ササル様篤ト懇談シタルモ引続キ倒張計画ヲ進メ居ルカ如ク或ハ近ク京津地方ニ於テ再ヒ何等カノ事変發生スヘシト懸念セラル

谷局長宛往電第四七三号末段ノ如ク支那側ハ土肥原来津後同人ノ策動ヲ懸念シ居リタル關係モアリ從テ今次ノ暴動カ彼ト密接ナル關係アルモノト信シ居レルカ如ク同人今後ノ行動ニハ一層注意スヘシト認ム  
支、北平ヘ転電セリ

134 昭和6年11月17日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

### 中国側軍隊の撤退および保安隊の措置について

天津 11月17日後発  
本省 11月18日前着

第五五五号(暗)

ト連絡ヲ試ミタルカ之ニ応スルモノナキ為結局当地ニ保安隊ト連絡アル張壁及無賴漢及青幫等ト關係深キ李際春並ニ于学忠部下ノ間ニ信賴アル馬廷福等ヲ説服シ夫々保安隊ノ買収便衣隊ノ組織及学忠部隊ノ抱込ミニ当ラシメ五万元ノ運動費ヲ給シ又駐屯軍ノ二、三名ヲ動カシ閏東軍ヨリ輸送ヲ受ケタル兵器ヲ窃ニ李ニ補給セシメ且一切ノ暴動計画ニ参加セシメタルコト歴然タル確証アリ右策動ニ付テハ當館ニ於テモ多少聞込アリ而モ張壁カ李銘ニ買収サレタル旨牒報アリシヲ以テ七日序ヲ以テ軍側ニ対シ万—スル計画ニ關係アラハ速ニ縁ヲ切ルコト得策ナルヲ述ヘタルニ拘ラス軍ハ全然之ヲ否定シタルカ内実ハ當時既ニ八日夜十時ヲ期シ暴動実行ニ決定シ居リ抜キ差シナラサル破目ニアリタルモノノ如ク一方公安局ハ張一派モ内通アリシヲ以テ八日ノ警戒ヲ嚴ニシタルト保安隊カ予期ノ通呼応セサリシトニテ李ノ集メタル便衣隊ノ活動ニ拘ラス暴動ハ完全ニ失敗ニ帰セリ  
其後事態ノ推移ハ屢次往電ノ通ニシテ暴動變シテ日支間ノ衝突トナリ土肥原ノ投シタル一石ハ我居留民ニ迷惑ヲ及ホ事件以後新ニ來駐セシハ静海県ヨリ砲兵第六團勤家墅ヨリ歩兵第二十九旅二個團及軍糧城方面ヨリ第十五旅ノ大部分等ナル由情報アルモ確カナラズ  
之等軍隊ガ近ク撤退スベキハ疑ナク正規兵ノ閑スル限り我要求ハ貫徹セラルヘキ筋合ナル處(尤モ衛隊ノ數ハ此際不問ニ付スルノ外ナカルベシ)今次我方ニ対シ敵對行為ヲ執レルハ保安警察隊ニシテ而モ其訓練組織素質武装等ノ点ニ於テ軍隊ニ勝ルモ劣ラサルヲ以テ軍縮準備會議ノ決議ニ從ヘバ之モ亦撤退セシムルコト然ルヘキモ斯くてハ當地ノ治安ハ到底望ムヘカラス殊ニ暴動直後ニ於テ我方カ之迄モ要求スルハ内外ノ疑惑ト不信ヲ招ク次第ナルヘク去リトテ保安隊ヲ全然不問ニ付スルコトモ如何カト存セラル就テハ我方ニ於テ保安隊ハ正規軍ニ準スルモノト解釈スル旨文書ヲ

以テ申入ル程度（又ハ拳銃若ハ棍棒以外ノ武器ハナルベ  
ク持タシメサル様口頭ニテ希望ヲ述フル程度）ニテ本件ヲ  
打切ルコト致度キ處軍縮會議及議定書調印國トノ関係並  
ニ間島ニ於ケル我警察官ノ「ステータス」等モ考究ヲ要スヘ  
ク今後執ルヘキ措置ニ關シ何分ノ儀御回電相成度シ  
公使、北平、南京、奉天ニ転電セリ

135 昭和6年11月17日

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀天津脱出に関する諭旨旧臣を通じ提出に  
ついて

天津 11月17日後発  
本省 11月18日前着

第五五七号

清室ノ旧臣陳曾寿及佟濟照ハ宣統帝ノ諭旨ナリトシテ十六  
日當館ヲ來訪シ「帝ノ天津ニ移駐以来六年間歷代總領事ノ  
保護ヲ受ケタルカ其間内乱火マス夙ニ離津ノ意アリシモ外  
間ノ誤解ヲ惧レ今日ニ及ヘリ而シテ最近当地ノ状況紛擾シ  
爆弾ヲ送リシ者アリ又八日夜十時ニハ銃砲声起リ租界ニ接  
迫セルヲ以テ不安極度ニ達シ遂ニ英租界ノ埠頭ヨリ離津ス

公使、北平、南京、奉天ニ転電セリ

136 昭和6年11月17日

在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀擁立運動に関する黃濬の内話について

天津 11月17日後発  
本省 11月18日前着

第六五八号

往電第五九六号ニ関シ

十七日黃濬カ原田ニ為セル内話  
一、宣統帝擁立運動漸次醞釀シ段祺瑞、金梁、孫伝芳、鄭  
孝胥、袁金鎧等ヲ中心トシテ暗中飛躍シ居レルカ其計画  
ハ宣統帝ヲ擁立シ（脱）共和制ヲ布キ責任内閣ヲ造リ地

ルニ至レルカ永年ノ保護ニ對シ貴国政府ニ謝意ヲ転達セラ  
レ度ク尚皇后滯津中ハ引続キ保護ヲ得度ク離津スル際ハ貴  
國軍司令部ト相談ノ上護送セラル様切望」スル旨ヲ述ヘ  
清室駐津弁事處名義ノ同趣旨ノ文書ヲ提出シタルニ依リ館  
員ヨリ謝意ハ転達スヘキモ當方屢次ノ進言ヲ無視シ無断ニ  
テ脱出セラレシヲ遺憾トル次第ヲ告ケタル処同人等ハ頗  
ル恐縮ノ態ニ改メテ帝ヨリ何分ノ挨拶ヲナサシムヘシト  
引取レル由ナリ

方自治制ヲ採ラントスルモノニテ近ク準備ノ整フヲ待チ  
吉林ニ臨時政府ヲ造リ帝ヨリ通電ヲ發シ先ツ滿蒙ヲ抑ヘ  
漸次閨内ヲ収容セントスルモノナリ  
二、一方閨内実力派ハ南京廣東ノ妥協モ成ラス又最近共產  
黨再ヒ活動ヲ開始シ福建汀州ヲ占領スルニ至リ内憂外患  
交々至リ速ニ日本ノ主張ヲ容レ之ト提携シテ国内ノ建設  
ニ当ルニアラサレハ遂ニ滅亡ヲ招来スヘキヲ虞レ本運動  
参加ノ機運漸次濃厚トナル模様ナリ  
公使ヨリ上海へ転報アリタシ

137 昭和6年11月19日

在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

天津暴動計画に関する一般居留民および司令  
部の動向について

天津 11月19日後発  
本省 11月19日後着

大臣宛貴電第六六九号ニ関シ

当地方ニ於テ暴動若ハ兵變アルヘシトハ滿州事変以来一般  
居留民ニ於テモ予想シ学良ノ没落ヲ希望シ居レルハ事實ナ  
ルモ本計画自体ヲ「事前ニ承知シ」又ハ「援助ノ態度ニ出  
テシ」カ如キコトナク現ニ司令部幕僚スラニ、三ノ関係者  
ヲ除キ暴動直前三初メテ内情ヲ打明ケラレタル由ニシテ歩  
兵隊ノ如キハ隊長以外ハ今尚真相ヲ承知セサルモノト認メ  
ラル尤モ事件發生後新聞記者カ土肥原又ハ反動分子ヨリ探  
報流布セル為今日ニ於テハ一般ニモ内情相当知悉セラレ土  
肥原ヲ攻撃スルモノ鮮カラス又義勇隊員中ニハ之ヲ憤激シ  
一時ハ任務ニ就クヲ欲セサリシ者アリシ状況ナリ

大臣、公使ニ転電セリ

138 昭和6年11月19日

在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀の家族ら四名北平日本兵營内に逃避につ  
いて

北平 11月19日後着

第五六二号（暗、部外極秘）  
本官發北平宛電報

第五九号

第六六一号（暗、極秘）

事項4 天津事件

十八日午後六時歩兵隊ヨリ當館ニ対シ宣統帝皇后ノ母、皇后ノ妹及右妹ノ友人等合計四名予テ学良一派ヨリ睨マレ居タル處今回宣統帝ノ脱出ニ伴ヒ身辺ノ危険切迫シ交民巷内ニテモ他ノ場所ニテハ安心出来サル趣ヲ以テ只今兵營ニ逃ケ込ミ来レルカ右收容ニ付公使館側ノ諒解ヲ得タシト申出

タリ本件ニ付テハ予テ人ヲ以テ歩兵隊ノ内意間合セアリ同隊ヨリ天津司令官ノ意向ヲ問合セタル處差支ナキ旨ノ回答ヲ得タル趣ナリ查スルニ右避難者ハ婦人ノ事ニモアリ政治的活動ヲナスモノトモ思ハレス又既ニ兵營内ニ逃ケ込ミ居レルノミナラス司令官モ同意済ナルニ付今更之ヲ拒絶スルモ如何カト考ヘラル處外部ニ対シテハ公使館ハ之ニ閑与セサル建前ニテ出来得レハ全然閑知セサル体ヲ装フコト機宜ニ適スト思ハルモ軍側ニ対シテハ公使館ハ之ニ閑与セサル建前ニテ出来得レハ全然閑知セサル体ヲ装フコト機宜ニ適スト思ハルモ軍側ニ対シテハ公使館ハ之ニ閑与併セテ折返シ回電アリタシ右御回訓アル迄ハ默認ノ態度ヲ執ルコト致度シ

支、上海、奉天へ転電セリ

139 昭和6年11月19日 塚本関東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）  
溥儀の動静に関する記事禁止および一行の旅  
順入りについて

関東厅 11月19日後着 本省 11月19日前着

第一三五号（至急極秘）

十四日付関東軍參謀長ヨリ本官宛参考トシテ宣統帝ハ自發的ニ天津ヲ脱出十三日突如宮口ニ上陸シ軍ノ保護ヲ求メタルニ付人道上ノ見地ヨリ其請願ヲ容レ保護ヲ加フルコトトシタルカ時局（ニ）鑑ミ政治運動ヲ禁止シ外部トノ交通ヲ遮断ノ上之ヲ湯岡子ニ收容セリ尚右ハ何等内外ニ対シ憚ル所ナキモ満州ニ於ケル現下ノ政情ニ鑑ミ帝ノ行動ハ帝国ノ對外關係上機微ノ關係アルト且保護ノ完全ヲ期スル必要上適當ノ時期迄帝ノ行動ニ閑スル一切ノ記事ヲ禁止スルコトトセル旨通報越セル處十九日朝帝一行ハ当庁警務局長宛関東軍參謀長ノ依頼状ヲ携帶セル甘粕正彦等扈從ノ上突然旅順ニ來着シ黄金台満鉄貸別荘ニ入レリ右依頼状ノ文面ハ湯岡子付近馬賊猖獗ノ為警戒上多クノ兵力ヲ置ク要アリ右ハ目下ノ情勢上困難ナルヲ以テ安全ヲ期スル為帝身柄ヲ旅順

ニ移スモノナルニ付政治運動ノ禁止及特ニ許可ヲ与ヘラレタルモノ以外外部トノ交通ヲ遮断スルコトヲ条件トシテ要求シ置キタルニ付右御含ノ上警戒其他ヲ當庁ニ依頼シ度ク且詳細ハ甘粕ト打合セラレ度シト言フニアリ因ニ一行ハ帝ノ外鄭孝胥父子羅振玉従者某及甘粕、工藤鉄三郎、上角利一、商衍瀛十一名ナリ不敢

140 昭和6年11月20日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀の家族等北平日本兵營を退去について

北平 11月20日後発 本省 11月21日前着

第六六三号（極秘）

往電〔三八文書〕第六六一号ニ閑シ

皇后ノ母等四人ハ身辺ノ危険一先ツ去レリトテ二十日兵營ヲ立去レル旨通報アリ

支、天津、奉天へ転電セリ

141 昭和6年11月20日 塚本關東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀の動静に関する發表振りについて

関東厅 11月20日前着

「予テ天津日本租界ニ居住中ノ前清宣統帝カ満州事変突發以來種々ノ脅威ヲ受ケ身辺ノ危険ヲ感シ居リシトノコトナリシカ過般ノ天津ニ於ケル暴動ニ依リ愈其ノ危害ノ切迫ヲ覚エシモノカ密ニ同地ヲ脱出セル模様ナリトノ噂行ハレ居リシ際最近突如某地ヨリ満州ニ入り我方ニ対シ一身上ノ切ナル保護ヲ求メタルニ依リ人道上其ノ願ヲ容レ安全ナル地ニ收容シ完全ナル保護ヲ加フルコトトセリ素ヨリ時局ニ鑑ミ政治運動ヲ禁止スルカ為外部トノ交通ヲ絶チ専ラ保護ノ完全ヲ期シ居ル次第ナリ」

（発表文案終リ）

- 共同一步調ニテ新聞記事ノ掲載ヲ禁止致シタキニ依リ内務省、拓務省ト御打合ノ上取締ノ統一ヲ得ル様御高配ヲ請フ奉天ヘ転電セリ
- 142 昭和6年11月20日 幣原外務大臣より  
塙本関東長官宛（電報）  
溥儀の動静に関する発表振り訂正について  
別電 同日幣原外相より塙本関東長官宛第七六号  
溥儀の動静について
- 本省 11月20日後發  
第七五号 宣統帝ノ件  
貴電第一三六号ニ關シ  
〔四〔文書〕〕
- 別電第七六号ノ通り訂正ノ上発表セラレ度  
右陸軍トモ打合スミ  
別電ト共ニ支、北平、天津、奉天ニ転電セリ  
(別電)
- 第七六号 宣統帝關係
- 本省 11月20日後發  
第五七六号（暗）  
宣統皇后ノ希望ニ依リ軍側ニ於テ大連迄送リ届ケタキ旨申出アリ不敢二三日待タシメ置キタルカ関東府宛貴電第七七号  
天津 11月21日後發  
本省 11月22日前着  
溥儀夫人を大連まで護送について
- 143 昭和6年11月21日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
溥儀夫人を大連まで護送について
- 本省 11月20日後發  
第六七七号（暗）  
謝介石カ活動シツツアリ  
帝ハ或ハ既ニ吉林ニ入りタルニアラスヤトノ疑アルモ未タ  
突止メ得ス情報者ハ熊岳城又ハ湯崗子ニ在リト言ヒ居レリ  
哈爾賓ヨリ齊々哈爾ヘ転報アリタシ  
哈爾賓、長春、奉天、北平、支へ転電セリ  
関東府ヘ転電セリ
- 144 昭和6年11月21日 在吉林石射總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
溥儀擁立を吉林において行うとの情報について
- 本省 11月21日後發  
第九八号（暗）  
天津中國保安隊ノ撤退ニ關スル件  
貴電第一八三号（暗、極秘）  
極秘情報ニ依ルニ宣統帝ノ擁立ハ江省ノ事態安定ヲ待チテ  
之ヲ為スモ奉天ニ於テ為サシムヘキヤ否ヤニ付テハ軍部ニ  
於テ説分レ居ル處奉天ニ於テ為ストキハ如何ニモ軍部カ背  
後ニ在ルコトヲ示スコトナルニ付又帝モ頻リニ吉林ヲ好  
ミ居ルニ付結局吉林ニ於テ熙治ヲ中心トシテ擁立セシムル  
コトトナルヤモ知レストノコトナリ又先般來長敦局長金盤  
東カ吉林省鐵道守備隊トシテ約三千八百余ノ兵ヲ編成中ナ  
ル處右ハ復辟用ノモノナリト思考セラル尚右運動ニハ専ラ
- 145 昭和6年11月21日 在天津桑島總領事宛（電報）  
在天津中國保安隊の撤退について  
本省 11月21日前發  
天津中國保安隊ノ撤退ニ關スル件  
貴電第一八三号（暗、極秘）  
大体右貴電末段ノ「ライン」ニ依リ結末ヲ付ケラル外無  
シト認メラルモ支那側ニ對スル公文申入ニ於テハ過般ノ  
事変以來我租界並ニ軍隊ニ對スル保安隊ノ敵対行為並其ノ  
組織素質訓練武装等ニ鑑ミ中國軍隊撤退後之ニ代ハルヘキ  
保安隊カ右敵対行為ニ出テタルモノト同一ノモノナルニ於  
テハ我方トシテハ之ヲ以テ正規軍ニ準スヘキ軍隊の組織ト  
見做ササルヲ得サルヘキ旨ヲ明白ニセラルルト共ニ貴官ニ

#### 事項4 天津事件

於テ直接王樹常ニ面会ノ上目下ノ貴地治安状態ニ鑑ミ中国軍隊撤退後関係地域ノ警防ニ付テハ中國側ニ於テ全責任ヲ負ハサル可ラサルハ勿論ニシテ之力為巡警ヲ入ルルカ又ハ保安隊ヲ以テスルカハ日本側ノ強イテ問フ所ニ非サルモ保安隊カ過般ノ事変ニ於テ不軌ノ敵対行動ニ出テ再三我方ニルコトハ我方トシテ安心ナリ難キニ付同隊ニヨル暴挙ノ再発ヲ防止スル必要上保安隊ヲ入ルル場合ニモ最モ素質訓練ノ良キモノヲ択ヒ其ノ任務ヲ充分徹底セシムルト共ニ特ニ我租界近接地区ニ於テハ絶対ニ長銃其他ノ戦闘用武器ヲ携帶セシメサル様手配方嚴重申入レラレタシ

公使、北平、南京、奉天ニ転電セリ

公使、北平、天津、奉天ヘ転電セリ

第一〇六号（極秘）  
宣統帝関係  
(二三八文書)  
貴電第六六一號ニ閔シ

146 昭和6年11月21日 整原外務大臣より  
在北平矢野參事官宛（電報）

溥儀の家族等北平日本兵當内に逃避について

本省 11月21日前發

148 昭和6年11月22日 塚本關東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀夫人の旅順行について

第一四〇号（暗）  
本官發天津宛電報第一八号  
(一四三文書)  
貴官發外務大臣宛電報第五七六号ニ閔シ

皇后ノ來旅ハ差支ナカルヘキモ我方ニ於テ目下皇帝ノ所在ヲ秘密ニ付シ居爾關係上皇后今次ノ旅行ハ一切外部ニ漏レサル様致シタシ

外務大臣へ転電セリ

貴電ト共ニ公使、北平、奉天ヘ転電セリ

149 昭和6年11月26日 在北平矢野參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀夫人を川島芳子連れ出しについて

本省 11月26日後發

11月27日前着

第六七九号（暗）

宣統皇后側近者ヨリノ聞込ニ依レハ最近川島芳子ハ板垣関東軍參謀ノ依頼ニ依リ密ニ男装シテ來津シ皇后ヲ満州ニ連レ出サントシ皇后側ニテハ之ヲ疑ヒ土肥原ニ尋ネタル處右ヲ肯定セル為皇后ハ近ク船便ニ依リ渡満ノ由大臣、南京、天津、奉天ヘ転電セリ

150 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

溥儀夫人川島芳子らと大連向け出発について

第六〇九号（暗、極秘）

往電第五七六号ニ關シ  
(一四三文書)

天津 11月27日前發  
本省 11月27日後着

宣統皇后ハ二十六日夜内密邸内ヲ脱出し出迎ノ川島芳子ト共ニ当地駐屯軍吉田通訳ノ妻子同伴二十七日長山丸ニテ大連ニ向ヘル由軍ヨリ通報アリタリ

関東庁ニ転電セリ

軍隊撤退後関係地域ノ警防ニ付テハ中國側ニ於テ全責任ヲ負ハサル可ラサルハ勿論ニシテ之力為巡警ヲ入ルルカ又ハ保安隊ヲ以テスルカハ日本側ノ強イテ問フ所ニ非サルモ保安隊カ過般ノ事変ニ於テ不軌ノ敵対行動ニ出テ再三我方ニ手ヲ焼カセタル経験ニ照ラシ同系統同素質ノ保安隊ヲ入ルルコトハ我方トシテ安心ナリ難キニ付同隊ニヨル暴挙ノ再発ヲ防止スル必要上保安隊ヲ入ルル場合ニモ最モ素質訓練ノ良キモノヲ択ヒ其ノ任務ヲ充分徹底セシムルト共ニ特ニ我租界近接地区ニ於テハ絶対ニ長銃等其他ノ戦闘用武器ヲ携帶セシメサル様手配方嚴重申入レラレタシ

公使、北平、南京、奉天ニ転電セリ

146 昭和6年11月21日 整原外務大臣より  
在北平矢野參官宛（電報）

溥儀の家族等北平日本兵當内に逃避について

本省 11月21日前發

第一〇六号（極秘）

宣統帝關係

貴電第六六一號ニ閔シ  
(二三八文書)

貴見ノ通り外部ニ對シテハ全然闇知セサル態度ヲ執ルト共  
ニ軍側ニ對シテハ默認ノ態度ヲ執リ居ラレ度尚ホ同一行カ  
永ク我兵營内ニ止ルコトハ外部ヨリイタクモナキ腹ヲ探ラ  
レ我方トシテ迷惑至極ナルノミナラス一行トシテモ不便ナ  
ルヘク旁々成ル可ク速ニ他ノ安全地帶ニ赴カシムルコト適  
当ト存スルニ付軍側ニ對シ夫トナク右様仕向ケラレ度  
支、上海、奉天へ転電セリ

貴電ト共ニ天津ニ転電アリ度

~~~~~

147 昭和6年11月22日 在牛莊荒川領事より
幣原外務大臣宛(電報)

溥儀を湯崗子より旅順に移送について

牛莊 11月22日後発
本省 11月22日後着

溥儀夫人大連到着について

旅順 11月28日後発

本省 11月28日後着

第一四六号（暗）

宣統皇后日本婦人ニ扮シ二十八日長山丸ニテ天津ヨリ来連

市内王某ノ家ニ入レリ不取敢

支、北平、天津、奉天ヘ転電セリ

昭和6年12月1日

在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛

天津事件に関する市政府との往復公文送付に

ついて

付属書

一月九・一一・二五日付桑島總領事・張天津

市長間往復文書

天津 12月1日付

本省 12月14日着

公信機密第一一一九号

天津事変ニ關スル市政府トノ往復公文送付ノ件

天津事変發生スルヤ張市長ヨリ十一月九日付ヲ以テ別紙甲号写ノ通リ申越タルニ対シ同十一日付ヲ以テ別紙乙号写ノ通リ弁駁ヲ加ヘ抗議ヲ申入レ置キタル処学銘ハ我方トノ直

貴領館對於該亂徒等在日租界之隱謀嚴加取締並予引渡再今

晨六時奉省主席電称准日本司令官要求將原駐在中國地之警察後退三百米達等因查中國警察本為維持地方治安而設則在華界執行職務不論任何方面均無要求向後撤退之權惟本市長顧全睦誼及避免誤會起見特令後退三百米達但貴國切勿因此而有所前進最好亦後退相當米達以昭公允是所至盼上列各節相應照請

貴總領查照並見復為荷

右照会

駐津日本總領事桑島

天津市市長張學銘印

中華民国二十年十一月九日

（別紙乙号）

以書翰致啓上候陳者十一月九日付貴照会特字第一号ヲ以テ

御申越ノ趣閲悉致候査スルニ御來示ノハ便衣隊千余敝國租界ヨリ華街ニ進攻シ又ハ日本租界ヨリ大砲ヲ以テ公安局等

ヲ射擊シ或ハ又ハ便衣隊カ日本租界ニ於テ組織セラレタリ

等ノ各節ハ如何ナル確証ニ基クモノナリヤ當方ニ於テハ全然了解ニ苦シム處ナレハ責任アル御説明相成度抑モ今次ノ

接交渉ヲ避ケ十一月二十五日付ヲ以テ別紙丙号写ノ通り事變ノ交渉ヲ中央ニ移シタル旨ヲ回答シ來レリ右學銘ノ不誠意且ツ非礼ニ対シテハ其ノ反省ヲ促シ居ル次第ナリ

本信写送付先、公使、北平、奉天

（付属書）

天津市政府 照会 特写第一号

（別紙甲号）

天津市政府 照会 特写第一号

為照会事頃拵公安局呈称本月八日晚十時三十分約有便衣隊

千余人由日本租界進攻中國地之各警察署所有沿日本租界一帶同時均發現便衣隊至九日晨五時便衣隊稍形退却日軍忽在

開口停放鉄甲車兩輛向我方示威六時有大礮自日租界方面開

向公安局電話局射擊彈落公安局前面並拵捕獲之便衣隊供稱

係由日本人送至華界開始活動等情查是項便衣隊之組織係在日本租界本市長早有所聞迭經派員面商

貴領館設法拘捕引渡不幸迄未發生効力於昨晩竟至發生事故

是此種擾亂天津治安之行為係由

貴租界當局放任所致本市長深為遺憾将来或因此而損及各國

外僑生命財產以及敝國方面因此事件所受之損失

貴租界當局應負相當之責任茲特提出抗議務希

動乱ハ全ク中国人間ノ衝突ニ係リ我方ノ毫モ關係ナキ処ニシテ右御來示ノ各項ハ事実ニ符合セス貴国内ニ於ケル動乱ニ際シ終始公正不偏ノ態度ヲ執リ來レル當方ニ対シ重大ナル悔蔑ヲ加ヘラルモノニ有之殊ニ貴方内乱ニ依リ敝國租界内ニ於テ警戒中ノ我力軍民ニ死傷者ヲ出シ且在留民ニ莫大ナル迷惑ト損失ヲ与ヘタル其ノ責任ハ當然貴方ニ於テ負フヘキモノニ有之候尚三百米突後方撤退要求ハ租界内ニ貴方ノ流弾飛來シ危険甚タシク殊ニ前述ノ通り我力士卒ニ即死者ヲ出シタル為夫以上ノ被害ヲ防止シ且貴我ノ間ニ或ハ誤會ニ依ル不祥ナル事端ノ發生スヘキ懸念アリ之ヲ避ケル見地ヨリ要求シタルモノニシテ何等他意ナキコトヲ茲ニ声明スル次第ニ有之右照復旁々得貴意候 敬具 昭和六年十一月十一日

在天津日本總領事 桑島主計

（別紙丙号）

天津市政府公函字第六五九号

逕啓者關於本月八日天津事變案接准本月十一日來函業已閱悉查此案之情形及其責任之所在業詳本月十一日本市長致

貴總領事函中現在此案已由敝国外交部与

貴國駐華公使直接交渉相應函復即希

查照為荷此致

駐津日本總領事桑島

中華民国二十年十一月二十五日

153 昭和6年12月3日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛

天津事件に関する市政府との往復公文送付に

ついて

付属書

一一月一八・二五日付桑島總領事・張天津市長

間往復文書

天津 12月3日付
本省 12月14日着

公信機密第一一二〇号

天津事變ニ關スル市政府トノ往復公文送付ノ件

天津事變發生以來張學銘ハ病氣ト称シ故意ニ日本側トノ面會ヲ避ケ居ルニ依リ事變ノ解決ヲ計ルト共ニ日支衝突ノ禍根タル排日ヲ除去センカ為メ十一月十八日付ヲ以テ別紙甲号写ノ通り學銘ニ於テ速ニ必要ナル措置ヲ執ル様申入レタ

(付紙甲号)

以書翰致啓上候陳者去ル十一月八日夜華街ニ於テ暴動突發

シタル際流彈我カ租界ニ飛來シ租界居住民ノ生命財産ニ危害ノ及フ虞アリタルヲ以テ我方ニ於テハ直チニ警察官及駐屯軍隊ヲ租界境界線ニ派シ警備ニ就カシメタル処不幸ニシテ駐屯軍士卒二名及日本婦人一名ハ銃弾ニ斃ルルニ至レリ尚暴動大体鎮圧セリト認メラレタルニ不拘貴方保安隊ハ銃火ヲ熄メス遂ニハ我方警備ニ対シ故意ニ発砲シ敵對行為ヲ執ルニ至リシヲ以テ我力司令官ハ已ムヲ得ス王樹常主席ニ又當館ヨリハ貴市政府当局ニ対シ租界境界ヲ去ル三百米突ノ線以外ニ保安隊ノ撤退並ニ發砲中止方ヲ求メ以テ我方被

ルニ対シ何等回答ナク市中ニハ種々謠言流布セラルルヲ以テ十一月二十五日付ヲ以テ別紙乙号写ノ通り督促ヲナシタル処同二十五日付ヲ以テ別紙丙号写ノ如キ我方要旨ニ添ハサル回答ヲナシ毫モ其ノ誠意ノ認ムヘキモノナキヲ以テ引続キ其ノ反省ヲ促ス為学良ヨリ特派セル周龍光ヲ通シ學銘ニ警告ヲ加ヘシメ置ケリ

本信写送付先 在中華公使 北平 奉天

(付紙甲号)

天津事變ニ關スル市政府トノ往復公文送付ノ件

害ヲ可及的ニ輕減セシメントシタル次第ニ候而シテ貴方ニ於テハ右我方申出ヲ承諾セラレ一応ハ保安隊ヲ撤退セシメラレタル模様ナリシ處事実ニ於テハ我租界周囲三百米突ノ線内外各方面ニ於テ我方ニ向ヒ防墻ヲ築キ鉄条網ヲ張ル等対敵施設ヲナシ十三日未明ニ至ル迄保安隊ハ我方ニ対シ連日連夜殊ニ夜間ニ於テ猛烈ナル射撃ヲ加へ危険極リナキヲ以テ租界内交通ハ杜絶シ各商戸ハ閉業スルノ已ム無キニ至レルノミナラス我居留民ノ半ハ逐時安全地帯ニ避難シ若ハ一時当地ヲ引揚ルノ余儀ナキニ至リ我方トシテハ多大ノ損失ト迷惑ヲ蒙レル情況ニ有之之レニ対シテハ貴方ニ於テ全部責任ヲ負担セラルヘキモノニ付更ニ交渉スルコトアルヘキヲ茲ニ留保致候ト共ニ本總領事ハ右暴動ノ發生ニ依ル本市ノ治安擾乱並ニ貴方保安隊ノ我方ニ対スル敵対行為ニ関シ貴市長ノ誠意アル措置ヲ期待スル一方将来貴方ニ於テ本市ノ治安維持及保安隊ノ節制ニ十分注意セラレ斯ル事態ヲ絶対再発セシメサル旨貴市長ヨリ保障ヲ要求スル次第ニ尚右敵対行為ノ由テ來ル所以ヲ考フルニ右ハ本總領事屢次ノ申入ニ拘ラス貴方ニ於テ民衆ノ愛國運動ノ名ニ隠レタル反日感情ノ激發並ニ排日貨運動ノ跋扈ヲ徹底的ニ弾圧セス

ルニ対シ何等回答ナク市中ニハ種々謠言流布セラルルヲ以テ別紙乙号写ノ通り督促ヲナシタル処同二十五日付ヲ以テ別紙丙号写ノ如キ我方要旨ニ添ハサル回答ヲナシ毫モ其ノ誠意ノ認ムヘキモノナキヲ以テ引続キ其ノ反省ヲ促ス為学良ヨリ特派セル周龍光ヲ通シ學銘ニ警告ヲ加ヘシメ置ケリ

本信写送付先 在中華公使 北平 奉天

(付紙甲号)

天津事變ニ關スル市政府トノ往復公文送付ノ件

天津事變發生以來張學銘ハ病氣ト称シ故意ニ日本側トノ面會ヲ避ケ居ルニ依リ事變ノ解決ヲ計ルト共ニ日支衝突ノ禍根タル排日ヲ除去センカ為メ十一月十八日付ヲ以テ別紙甲号写ノ通り學銘ニ於テ速ニ必要ナル措置ヲ執ル様申入レタ

尚暴動大体鎮圧セリト認メラレタルニ不拘貴方保安隊ハ銃火ヲ熄メス遂ニハ我方警備ニ対シ故意ニ発砲シ敵對行為ヲ執ルニ至リシヲ以テ我力司令官ハ已ムヲ得ス王樹常主席ニ又當館ヨリハ貴市政府当局ニ対シ租界境界ヲ去ル三百米突ノ線以外ニ保安隊ノ撤退並ニ發砲中止方ヲ求メ以テ我方被

ルニ対シ何等回答ナク市中ニハ種々謠言流布セラルルヲ以テ別紙乙号写ノ通り督促ヲナシタル処同二十五日付ヲ以テ別紙丙号写ノ如キ我方要旨ニ添ハサル回答ヲナシ毫モ其ノ誠意ノ認ムヘキモノナキヲ以テ引続キ其ノ反省ヲ促ス為学良ヨリ特派セル周龍光ヲ通シ學銘ニ警告ヲ加ヘシメ置ケリ

本信写送付先 在中華公使 北平 奉天

(付紙甲号)

天津事變ニ關スル市政府トノ往復公文送付ノ件

天津事變發生以來張學銘ハ病氣ト称シ故意ニ日本側トノ面會ヲ避ケ居ルニ依リ事變ノ解決ヲ計ルト共ニ日支衝突ノ禍根タル排日ヲ除去センカ為メ十一月十八日付ヲ以テ別紙甲号写ノ通り學銘ニ於テ速ニ必要ナル措置ヲ執ル様申入レタ

尚暴動大体鎮圧セリト認メラレタルニ不拘貴方保安隊ハ銃火ヲ熄メス遂ニハ我方警備ニ対シ故意ニ発砲シ敵對行為ヲ執ルニ至リシヲ以テ我力司令官ハ已ムヲ得ス王樹常主席ニ又當館ヨリハ貴市政府当局ニ対シ租界境界ヲ去ル三百米突ノ線以外ニ保安隊ノ撤退並ニ發砲中止方ヲ求メ以テ我方被

ニ関シ貴市長ノ迅速且必要ナル措置ヲ期待スル次第ニ候右
申入旁々得貴意候 敬具

昭和六年十一月十八日

在天津日本總領事 桑島主計

天津市長 張學銘殿

(別紙乙号)

拝啓當館ノ得タル情報ニ依レハ貴方巡警ハ家族ヲ當市河北
方面ニ移居セシメ居右ハ茲數日内ニ貴方軍警ヲ以テ日本租
界ヲ夜襲スル計画アル為之カ準備行為ナリトノ趣ナル處之

ハ全然謠言ニシテ貴方ニ於テハ斯ノ如キ不軌ノ行動ヲ企図
セラレ居ルモノトハ信セサルモ右様ノ謠言ノ流布ヲ放任セ

ラルニ於テハ貴我双方ノ人心ヲ動搖セシメ當地ノ治安維
持ニ至大ノ影響アル次付充分御取締相成度尚過日館員
ヨリ貴方係官ニ對シ口頭ヲ以テ申入レ置キタルカ中国人ニ
シテ當租界ニ入込ミ「特此通知居日界同胞們速和日軍決一
死戰或移住中國地可也切記切記」ト記セル伝單ヲ撒布セシ
モノアリ之レ實ニ日本租界ノ治安ヲ紊乱セントスル甚タ不
届ノ行為ナルニ付此際一般中國人ニ對シ之等類似行為ノ適
切有効ナル嚴禁方布告相成様致度尚右ハ十一月十八日付公
切

文ヲ以テ貴市長ニ對シ申入レタル要求中ニ當然包含セラル
ル次ニシテ貴方ニ於テハ折角取締中トハ存スルモ今日尚
右様ノ行為アルニ鑑ミ重ネテ貴市長ノ注意ヲ喚起スルモノ
ニ有之追テ前記十一月十八日付當方公文ニ對シ何分ノ御回
答相成度右照会旁々得貴意候 敬具

昭和六年十一月二十五日

在天津

日本總領事 桑島主計

天津市長 張學銘殿

(別紙丙号)

天津市政府公函 字第六六〇号

逕啓者聞於本月八日事變暨民衆運動等案接准本月十八日
貴總領事來函業已閱悉查本月八日事變案何方應負其責任迭
經函達

貴總領事並由敝国外交部與
貴國駐華公使交涉在案至
貴國留津僑民之生命財產本市長素極注意迭經嚴令所屬切實
保護嗣後自當照常弁理至民衆愛國運動報紙記載如有逾越常
軌情事定受法律制裁對於華人之服務於

貴國僑民者決無無故拘捕或殺害之事敝國特務亦絕無前來
貴租界擾亂之事相應函復即希
查照為荷此致

駐津日本總領事桑島

中華民国二十年十一月二十五日

154 昭和6年12月3日 在天津桑島總領事より

幣原外務大臣宛

日本軍憲兵の巡警局第一区第六所公署占拠に

(付属書)

一月一〇日・一月二三日付桑島總領事・張
天津市長間往復文書

天津 12月3日付
本省 12月14日着

機密第一一二一号

昭和六年十二月三日

在天津

總領事 桑島主計

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿
巡警局第一区第六所占拠ニ関スル件

天津市市長張學銘

転知該憲兵等迅行退出以維主權相應照請
貴總領事查照並見復為荷
右照会

為照會事項拠報告便衣隊自經剿緝後業已逐漸消滅惟二区六
所公署仍被日本憲兵占領未知用意何在請迅与日領交涉退出
等情查二区六所公署係中華民國正式行政機關之一現竟被
貴國憲兵盤居实屬違背約章侵犯主權不得不提出嚴重抗議務
希

94

中華民国二十年十一月十日

(別紙乙号)

北省主席間往復文書

天津 12月3日付

本省 12月14日着

支那軍隊ノ二十支里撤退ニ関スル件

八日夜便衣暴動隊ノ為メ攻略セラレタル以後空屋トナリ居ルモノニシテ我方憲兵ニ於テ之レヲ占領シタル事実ナキヲ以テ貴方巡警ノ復帰ハ貴方ノ任意ニ属シ我方ノ毫モ閑スル處ニ無之候尤モ同地域ハ我力兵營ニ接続シ居ルニ付該公署ニ出入スル巡警ハ我方軍部ト連絡ヲ取リ何等誤会ノ發生ヲナカラシムル様篤ト注意ヲ加ヘ置カレ度此段回答旁申進候

敬具

昭和六年十一月二十三日

在天津

日本總領事 桑島主計

天津市長 張學銘殿

昭和六年十二月三日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛

天津事件解決のため中國軍隊の二十支里撤退

について

(付屬書)

別紙甲号

以書翰致啓上候陳者貴國軍隊カ我力駐屯軍付近ニ所在スルコトハ一千九百〇二年七月ノ天津還付ニ關スル日華交換公文違反ナルコトヲ指摘スルト共ニ此等軍隊カ濫リニ我軍及

モナシ来ラス

本信写送付先 公使、北平、奉天

(付屬書)

別紙甲号

日本租界ニ対シ射撃ヲ加ヘ既ニ我方ニ於テ死傷者ヲ出シタルコトヲ述ヘテ貴國軍隊ノ右交換公文所定ノ距離外ニ撤退方ヲ求メ且ソ貴國側ニテ右撤退ヲ行ハサル場合ニハ我方ニ

於テハ前記交換公文ニ基ク権利ノ遂行及我力租界並ニ帝國臣民ノ生命財産保護ノ為必要ノ手段ヲ取ルコトアルヘク其ノ結果ハ總テ貴國側ノ責任ナルコトヲ茲ニ声明致候右申入旁々得貴意候

昭和六年十一月十四日

在天津

日本總領事 桑島主計

河北省主席 王樹常殿

別紙乙号

河北省政府公函 字第一六九六号

敬覆者准

貴總領事函開敬啓者貴國軍隊駐在於我國駐屯軍付近一事与

一九〇二年七月之關於還付天津之中日交換公文違反特此指摘同時此等軍隊对我軍及日本租界濫加射擊我方已有死傷請

貴國軍隊撤退於右交換公文所定距離以外如貴國方面不履行撤退時則我方本於前記交換公文為遂行權利及保護租界與帝

貴國軍隊及日本租界濫行射擊致有死傷一節未免伝聞失実致生誤会至於租界付近向無中國軍隊敵主席茲為力求避免貴我兩方誤会起見除留衛隊外並允將駐天津河北之少數軍隊亦暫行他調總之敵主席負保護地方中外人民生命財產之責仍希

貴總領事諒解此意敝主席對於換文精神定与遵重尚希
亮察此致

大日本帝国駐天津總領事
中華民国二十年十一月十六日

2 第二次天津事件

押啓陳者本月十六日付貴公函字第一六九六号ヲ以テ御回示

ノ趣敬承貴主席カ本月十四日付本總領事申入ニ対シ早速交換公文ノ精神ヲ尊重シ駐津貴國軍隊ヲ直ニ他地ニ調動スル

コトヲ快諾セラレタルコトハ貴主席カ常ニ貴我両国国交ノ

敦厚ヲ顧念セラルニ拠ルモノニシテ本總領事ノ衷心ヨリ

感佩スル所ニ有之候然ル處右ハ全然了解ニ苦シムル所ナルノミ

ナラス濫リニ我方ヲ誣ユルモノナル次第付三御更正相

成度尚此種誤会ニ就テハ曩ニ天津市長ヨリモ同様申出アリ

タルニ対シ便衣隊カ敵國租界ヨリ進出シタル事実ナキ旨反駁致置候間貴主席ニ於テモ何等誤会無之様致度右照復得貴意候

昭和六年十一月十八日 在天津

日本總領事 桑島主計
河北省主席 王樹常殿 敬具

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、南京、北平、奉天、濟南、青島、漢口、廣東、仏ヘ転電セリ

157 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報） 天津における日中両軍衝突事件再発について

天津事件拡大防止のための措置に關し意見具

申について

天津 11月27日前發 本省 11月27日前着

第六〇二号（暗、至急） 往電第六〇一號ニ闕シ

事件ハ純然タル日支ノ衝突ト化シタル感アルヲ以テ引続キ

支那側ニ發砲中止ヲ要求スルト共ニ軍部ニ対シ租界保持居

留民保護ノ範囲ヲ出テサル様自重方累次勧告シ幹部ニ於テ

ハ之ヲ諒解シ居ルモ歩兵隊前線ノ応射ヲ差止ムル力無ク我

方モ時ニ歩兵砲ヲ以テ應射シ居ルカ如ク此勢ニテ進メハ事

態ハ遂ニ收拾スヘカラサルニ至ルコト明カナルカ本官ニ於

テ遺憾乍ラ此上軍ノ活動ヲ制止スル力無シ依テ此際至急嚴

重自重方中央ヨリ御訓令相成ルコトト致度シ尚居留民ハ既

156 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報） 天津における日中両軍衝突事件再発について

天津 11月27日前發 本省 11月27日前着

第六〇一號（暗、至急） 往電第六〇〇号ニ闕シ

軍ノ情報ニ依レハ

支那側ハ南開方面ヨリ歩兵銃ヲ以テ我方ニ發砲セシ為我方

モ中原公司樓上及大和公園ヨリ歩兵銃ヲ以テ應射シタル由ニシテ（省政府付近ニ二發砲彈落下シタル由支那側ノ申出アリ）六時半頃ニハ事態極メテ重大トナリシカ當方ノ矢繼

早ノ抗議ニ依リ先ツ海光寺方面ハ比較的平静トナリタリ然

ルニ次テ東南城廓方面ノ銃声甚タシクナリ之亦當館ニテ抗

議ト共ニ引続キ歩兵隊ノ自重ヲ求メタル結果十時半過ニハ

全線ニ亘リ小康ヲ得ルニ至レルカ各方面トモ小銃機関銃声

止ムニ至ラス（十一時）

電ノ通殆ト復帰シタルカ目下夜中ニシテ避難モ困難ニ付夜

明ヲ待テ出来得ル限り安全地帶ニ避難セシムルモ日本租界

ノ安全ハ保シ難キヲ以テ結局ハ内地大連等ニ引揚シムル外

ナカルヘシ大至急船舶ノ御手配アリタシ尚此際内地若ハ闘

東軍ヨリ応援隊派遣ヲ得度ク右ハ支那側ノ我方ニ對スル積

ニ付國際關係ヲ考慮セラルルコトハ勿論ナルヘキモ此際至

急御手配ヲ請フ次第ナリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、南京、北平、奉天、濟南、青島、漢口、廣東、仏ヘ転電セリ

158 昭和6年11月27日 在天津桑島總領事より
幣原外務大臣宛（電報） 天津における日中両軍衝突事件再発について

衝突再発後の天津軍司令官の宣言について

天津 11月27日前發 本省 11月27日前着

第六〇三号（暗、至急）

軍司令官ハ衝突發生後「軍ハ十五日支那側ノ陳謝ヲ認容シ
北支和平ノ為支那側カ約束ノ全部ヲ履行セサルニ拘ラス兵